

# 第48回県政世論調査結果報告書

令和7年6月～7月実施

岐阜県



# 目 次

|      |                                          |     |
|------|------------------------------------------|-----|
| I    | 調査概要 .....                               | 1   |
| 1. 1 | 調査の目的 .....                              | 1   |
| 1. 2 | 調査の経緯 .....                              | 1   |
| 1. 3 | 調査項目 .....                               | 1   |
| 1. 4 | 調査の設計 .....                              | 1   |
| 1. 5 | 回収結果 .....                               | 1   |
| 1. 6 | 標本誤差 .....                               | 2   |
| 1. 7 | 報告書の見方 .....                             | 2   |
| 1. 8 | 対象者の属性 .....                             | 3   |
| II   | 調査結果 .....                               | 8   |
| 2. 1 | 暮らしについて .....                            | 8   |
| 問1   | 暮らしの前年比較 .....                           | 8   |
| 問1-2 | 暮らしが苦しくなったと感じる理由 .....                   | 13  |
| 問2   | 暮らしの満足度 .....                            | 19  |
| 問3   | 生活面での不安 .....                            | 24  |
| 問4   | 今後の暮らしの中で重視していきたいこと .....                | 33  |
| 問5   | 生活に必要な情報の入手媒体 .....                      | 42  |
| 問6   | 現在住んでいる地域は住みやすいか .....                   | 49  |
| 問6-2 | 住んでいる地域が住みやすいと感じる点 .....                 | 53  |
| 問6-3 | 住んでいる地域が住みにくいと感じる点 .....                 | 60  |
| 問7   | 今後も岐阜県に住み続けたいか .....                     | 67  |
| 2. 2 | 県の取組み全般について .....                        | 71  |
| 問8   | 施策や事業についての情報の入手方法 .....                  | 71  |
| 問9   | 県事業への関心の有無 .....                         | 78  |
| 問9-2 | 県事業に関心がない理由 .....                        | 83  |
| 問10  | 県の取組でよくやっていると思う分野、<br>努力が足りないと思う分野 ..... | 87  |
| 問11  | 重点的に進めるべきだと思う分野 .....                    | 101 |

## I 調査概要

### 1. 1 調査の目的

県下全域の県民意識の把握とともに、県行政に対する県民の関心、満足度等を調査し、県政推進の基礎資料とする。

### 1. 2 調査の経緯

昭和42年から実施、今回48回目

※昭和42年～昭和61年：毎年実施      昭和63年～平成18年：隔年実施      平成20年～：毎年実施

### 1. 3 調査項目

- (1) くらしについて
- (2) 県の取組み全般について

### 1. 4 調査の設計

- (1) 調査地域                      岐阜県全域
- (2) 調査対象                    県内に居住する満18歳以上の男女個人
- (3) 標本数                        3,000人
- (4) 抽出方法                    層化二段無作為抽出法
- (5) 調査方法                    郵送法・オンライン調査法の併用
- (6) 調査時期                    令和7年6月30日～7月23日
- (7) 調査実施機関              株式会社東京商工リサーチ 岐阜支店

### 1. 5 回収結果

|                 | 調査時期          | 標本数<br>(A) | 回収数<br>(B) | 有効回答数<br>(C) | 回収率<br>(B/A) | 有効回答率<br>(C/A) | 有効回答数の<br>うちオンライン<br>回答数・割合 |
|-----------------|---------------|------------|------------|--------------|--------------|----------------|-----------------------------|
| 第48回<br>(令和7年度) | 令和7年<br>6月～7月 | 3,000      | 1,644      | 1,644        | 54.8%        | 54.8%          | 617<br>37.5%                |
| 第47回<br>(令和6年度) | 令和6年<br>7月    | 3,000      | 1,699      | 1,699        | 56.6%        | 56.6%          | 458<br>27.0%                |
| 第46回<br>(令和5年度) | 令和5年<br>7月    | 3,000      | 1,758      | 1,758        | 58.6%        | 58.6%          | 416<br>23.7%                |

## 1. 6 標本誤差

調査結果には統計上多少の誤差が生じることがあるため、調査結果をみる場合、一定の幅を持たせてみる必要がある。その幅を標本誤差といい、以下の式で表される。

$$\text{標本誤差} = \pm 1.96 \sqrt{\frac{P(100-P)}{n}} \quad (\text{ただし、} P: \text{回答比率} \quad n: \text{回答者数})$$

すなわち、標本誤差の幅は①回答者数（ $n$ ）及び②回答比率（ $P$ ）によって異なる。上式を用いた各回答者数、回答比率における標本誤差を以下の表に示す。

|    |       | P (回答比率 %)  |              |              |              |              |              |              |              |              |     |
|----|-------|-------------|--------------|--------------|--------------|--------------|--------------|--------------|--------------|--------------|-----|
|    |       | 5 又<br>は 95 | 10 又<br>は 90 | 15 又<br>は 85 | 20 又<br>は 80 | 25 又<br>は 75 | 30 又<br>は 70 | 35 又<br>は 65 | 40 又<br>は 60 | 45 又<br>は 55 | 50  |
| 総数 | 1,644 | 1.1         | 1.5          | 1.7          | 1.9          | 2.1          | 2.2          | 2.3          | 2.4          | 2.4          | 2.4 |

(注) 1. 層化を行った場合、誤差は上表より若干増減することもある。

2. この表の見方は以下のとおりである。

「ある設問の回答者数が 1,644 人であり、その設問中の選択肢の回答比率が 50%であった場合、その回答比率の誤差の範囲は最高でも±2.4%である。」

## 1. 7 報告書の見方

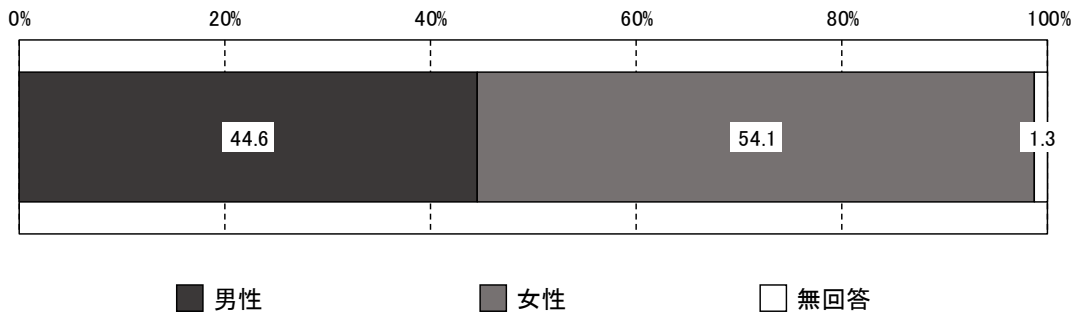
- (1) 比率は全てパーセントで表し、小数点第 2 位を四捨五入して算出した。そのため、パーセントの合計が 100.0%にならない場合がある。
- (2) 基数となるべき実数は「 $n$ 」(件数)として掲載した。したがって比率は、 $n$  を 100%として算出している。
- (3) 複数回答が可能な設問では総回答数を「 $N$ 」として掲載した。その場合、その項目を選んだ人が、回答者全体のうち何%を占めるのかという見方をする。したがって、各項目の比率の合計は、通常 100%を超える。
- (4) 本報告書中の表、グラフ及び本文で使われている選択肢の表現は、本来の意味を損なわない程度に省略している場合がある。
- (5) クロス集計において、年代別の 18～19 歳の属性はサンプル数が少なく、分析に堪えないことから、グラフへの表示及び分析を行っていない。

## 1. 8 対象者の属性

### F-1 性別

図 F-1 性別

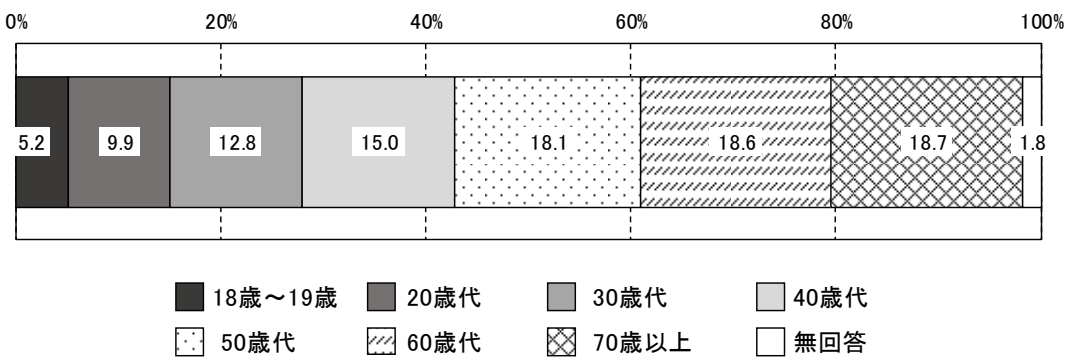
回答者数 (n = 1,644)



### F-2 年代

図 F-2 年代

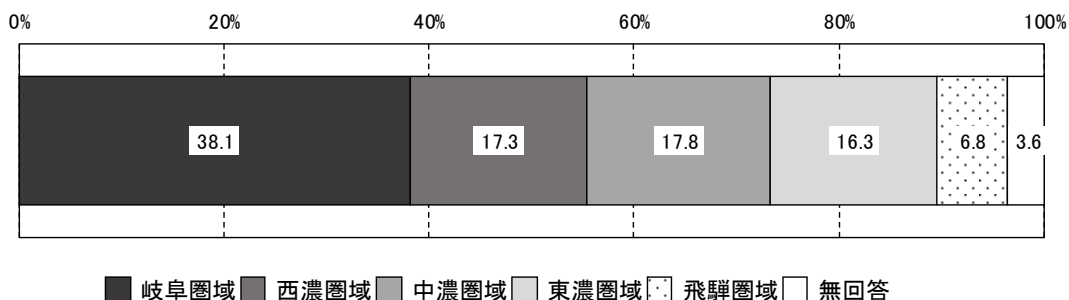
回答者数 (n = 1,644)



### F-3 居住圏域（5分類）

図 F-3 居住圏域（5分類）

回答者数（n = 1,644）

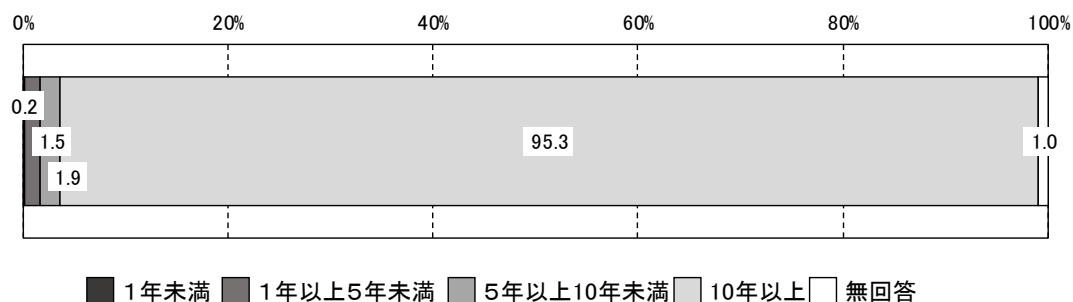


岐阜圏域（岐阜市・羽島市・各務原市・山県市・瑞穂市・本巣市・岐南町・笠松町・北方町）  
 西濃圏域（大垣市・海津市・養老町・垂井町・関ヶ原町・神戸町・輪之内町・安八町・  
 揖斐川町・大野町・池田町）  
 中濃圏域（関市・美濃市・美濃加茂市・可児市・郡上市・坂祝町・富加町・川辺町・七宗町・  
 八百津町・白川町・東白川村・御嵩町）  
 東濃圏域（多治見市・中津川市・瑞浪市・恵那市・土岐市）  
 飛騨圏域（高山市・飛騨市・下呂市・白川村）

### F-4 居住年数

図 F-4 居住年数

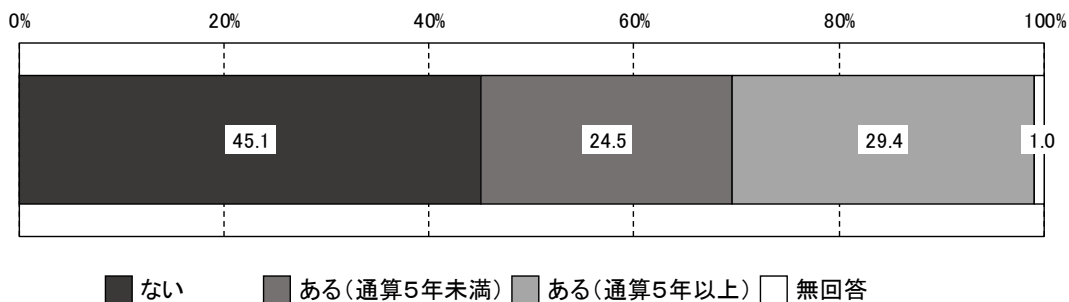
回答者数（n = 1,644）



### F-5 県外居住経験の有無

図 F-5 県外居住経験の有無

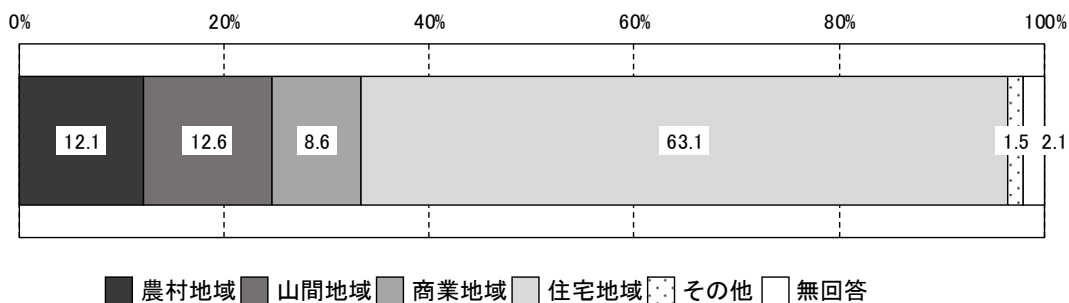
回答者数（n = 1,644）



## F-6 居住地周囲の環境

図 F-6 居住地周囲の環境

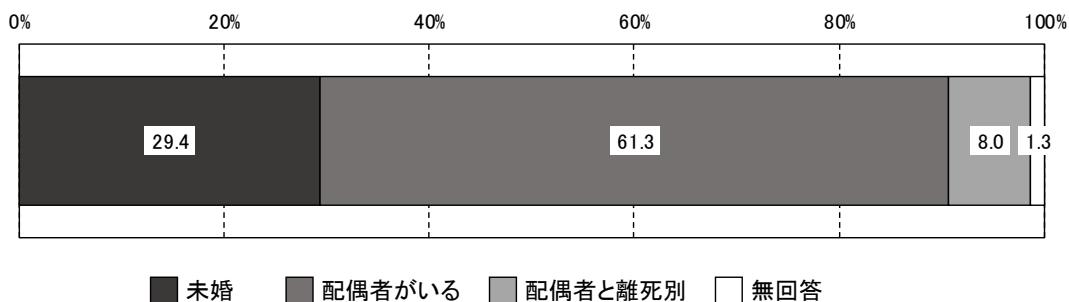
回答者数(n=1,644)



## F-7 配偶者の有無

図 F-7 配偶者の有無

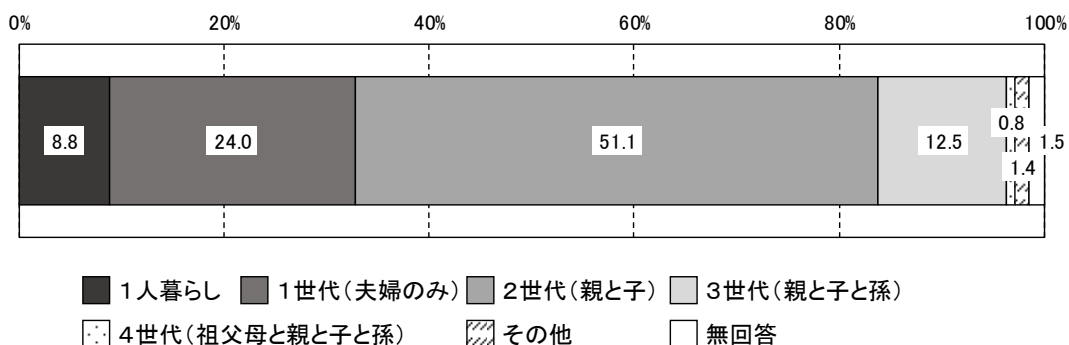
回答者数(n=1,644)



## F-8 家族形態

図 F-8 家族形態

回答者数(n=1,644)



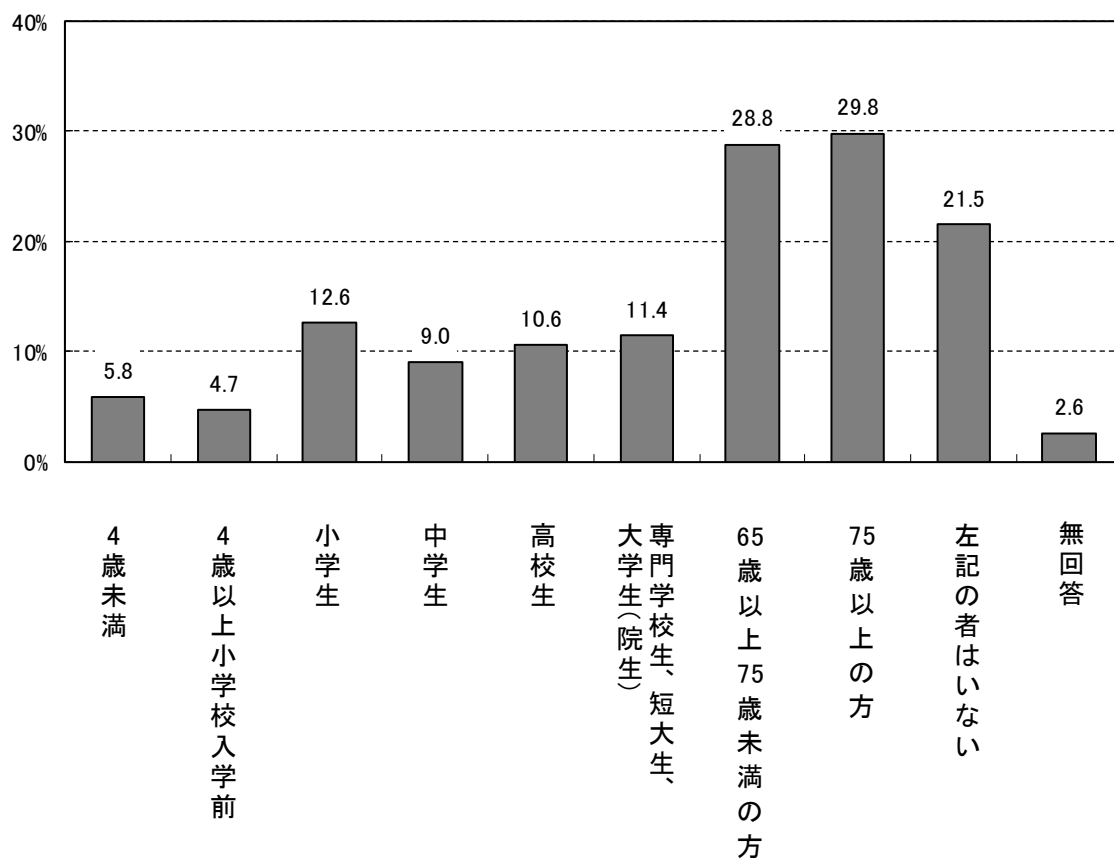


## F-9 家族構成

図 F-9 家族構成

回答者数 (n = 1,644)

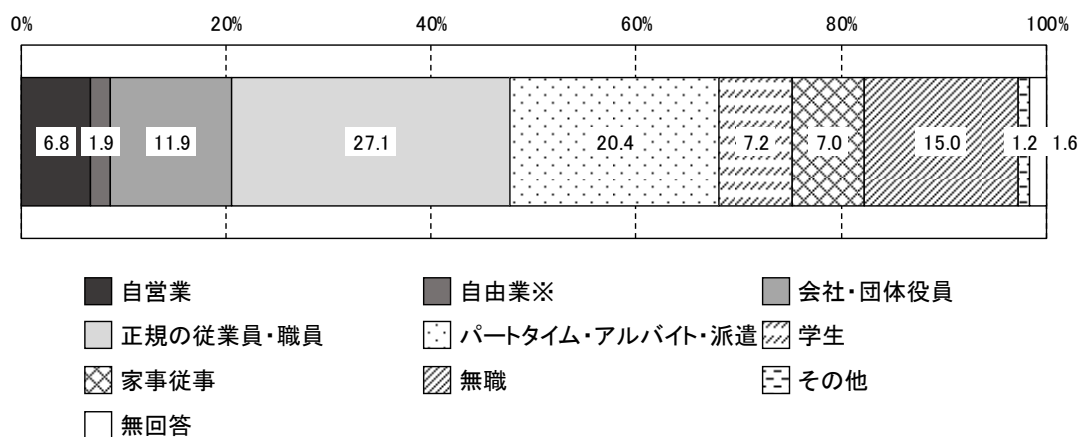
総回答数 (N = 2,249)



## F-10 職業

図 F-10 職業

回答者数 (n = 1,644)

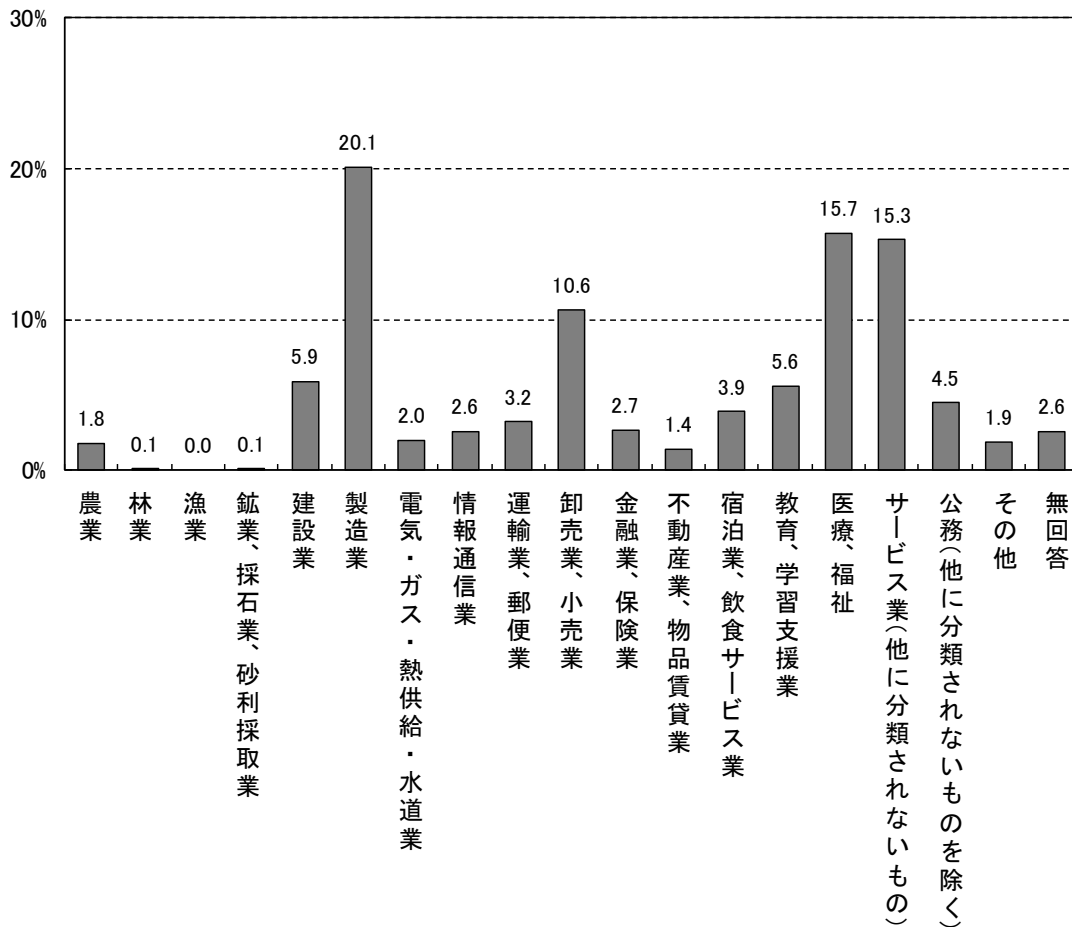


※ 自由業: 一定の雇用関係によらず、勤務時間その他の制約を受けない職業で、作家、弁護士、医師、会計士、税理士、芸術家など

## F-11 業種

図 F-11 業種

回答者数(n = 1,119)※

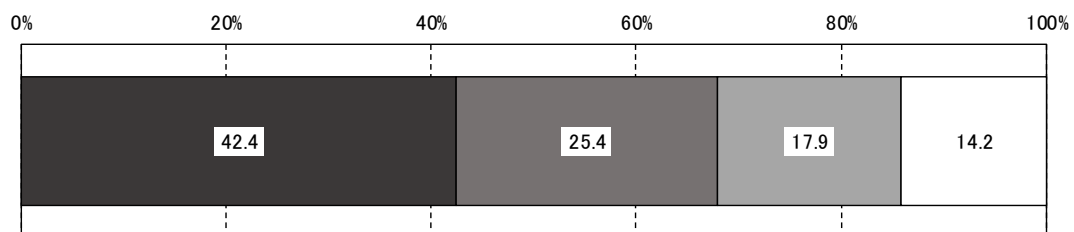


※ 「F-10 職業」で、自営業、自由業、会社・団体役員、正規の従業員・職員、パートタイム・アルバイト・派遣と答えた方のみ

## F-12 通勤、通学先

図 F-12 通勤、通学先

回答者数(n = 1,238)※



■ 居住している市町村 ■ 県内の他の市町村 ■ 県外の市町村 □ 無回答

※ 「F-10 職業」で、自営業、自由業、会社・団体役員、正規の従業員・職員、パートタイム・アルバイト・派遣、学生と答えた方のみ

## Ⅱ 調査結果

### 2. 1 くらしについて

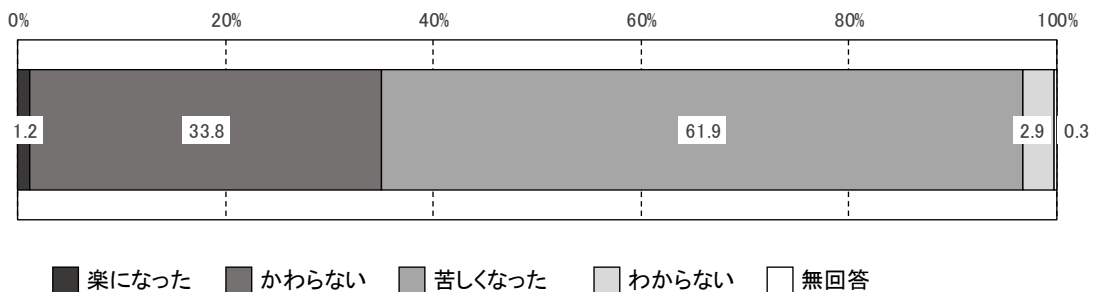
#### 問1 くらしの前年比較

問1 あなたやあなたの家庭のくらし向き（家計など）は、去年の今頃と比べてどうですか。  
（1つだけ）

全体（図 1-1）でみると、「苦しくなった」が 61.9%と最も高く、次いで「かわらない」（33.8%）、「わからない」（2.9%）、「楽になった」（1.2%）の順となっている。

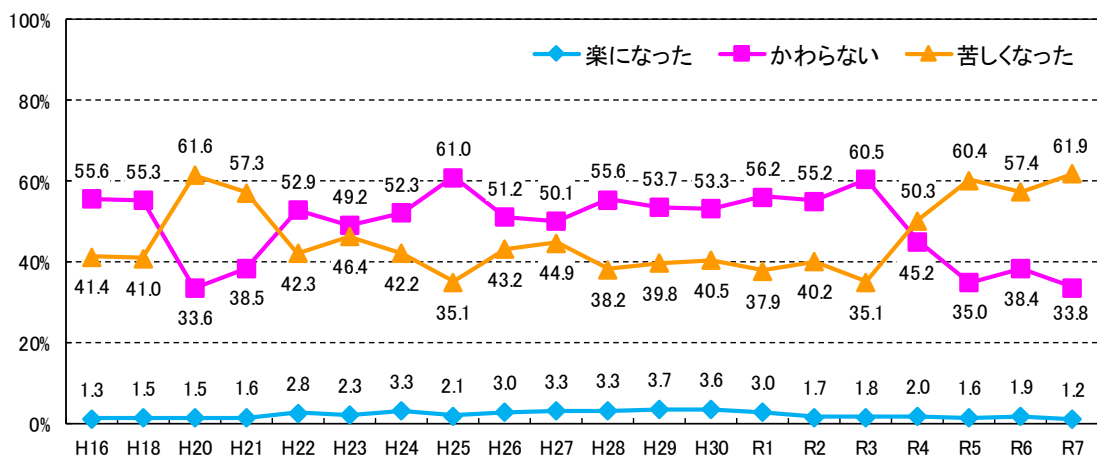
図 1-1 くらしの前年比較

回答者数(n = 1,644)



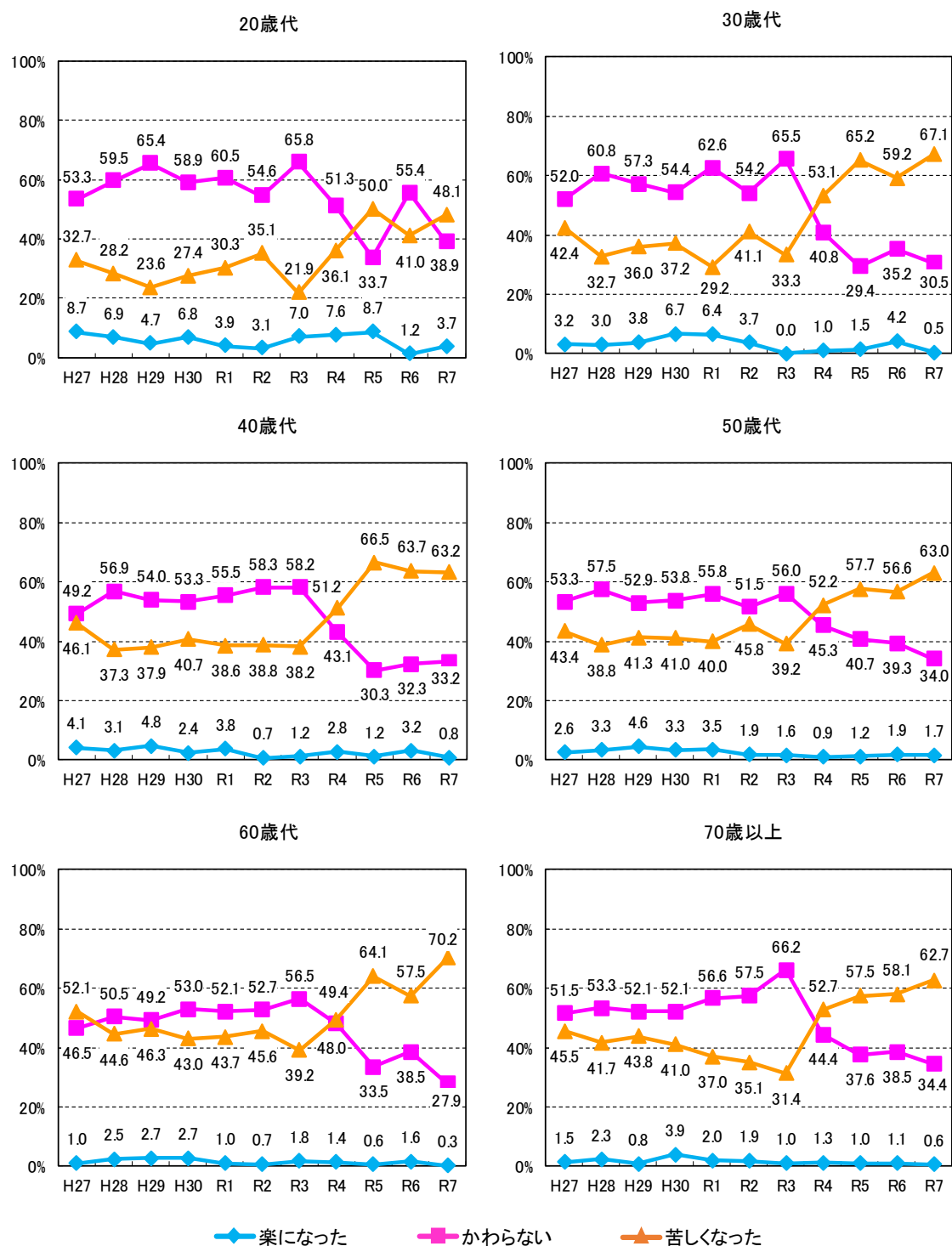
経年変化（図 1-2）でみると、平成 22 年から令和 3 年までは一貫して「かわらない」が最も高くなっていたが、令和 4 年から「苦しくなった」が「かわらない」を上回った。令和 7 年では、前年に比べて「苦しくなった」が 4.5 ポイント増加している。

図 1-2 【経年変化】くらしの前年比較



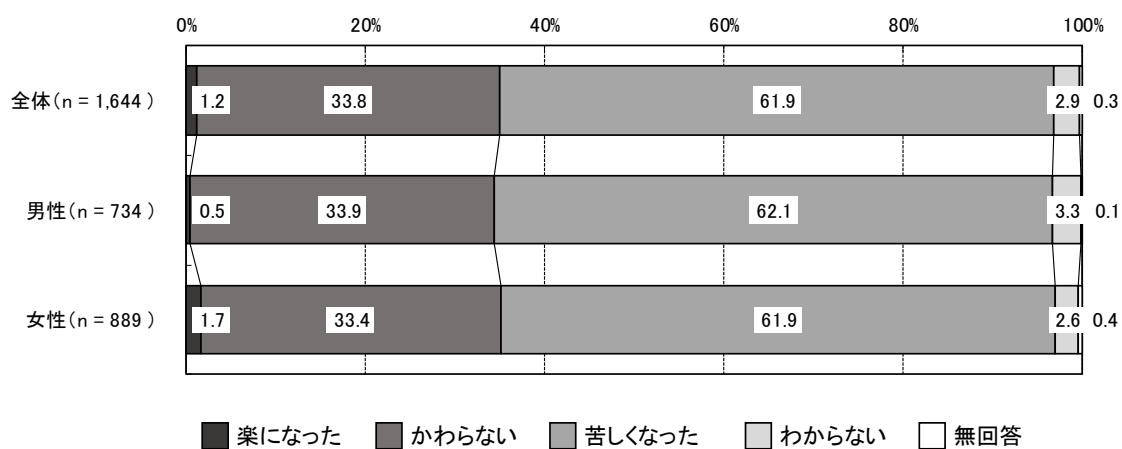
年代別の経年変化（図 1-3）でみると、令和 4 年以降、20 歳代を除くいずれの年代においても「苦しくなった」が「かわらない」を上回っている。令和 7 年では、20 歳代で前年に比べて「かわらない」が 16.5 ポイント減少し、「苦しくなった」と入れ替わった。

図 1-3 【経年変化(年代別)】 暮らしの前年比較



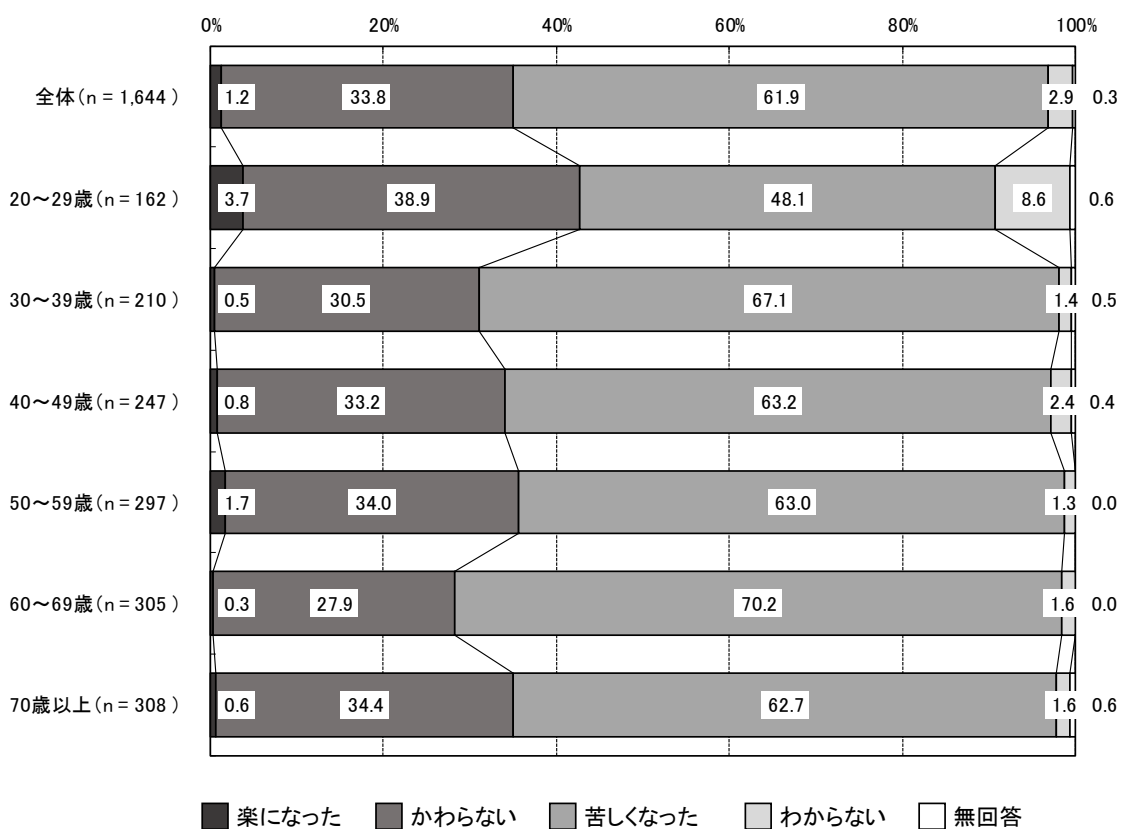
性別（図 1-4）でみると、男女ともに「苦しくなった」が最も高く、男性が 62.1%、女性が 61.9%となっており、性別間での差はみられなかった。

図 1-4 【性別】くらしの前年比較



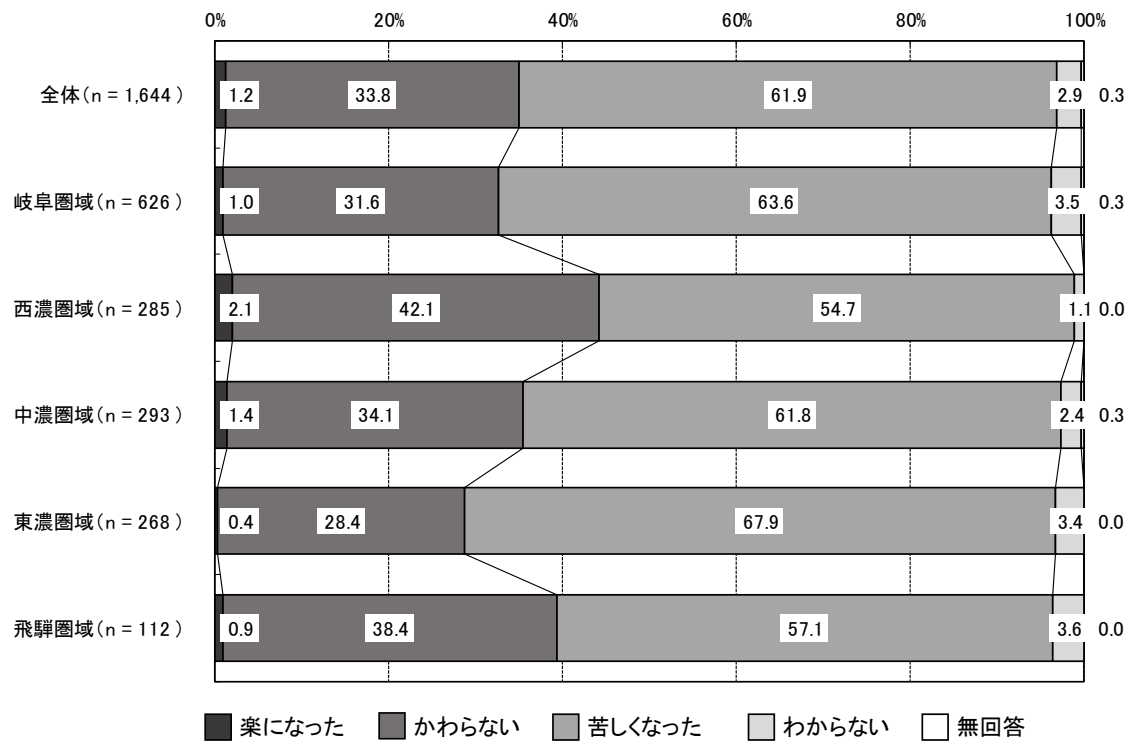
年代別（図 1-5）でみると、いずれの年代においても「苦しくなった」が最も高く、そのうち 60 歳代が 70.2%と最も高くなっている。一方、「かわらない」は、20 歳代が 38.9%と最も高くなっている。

図 1-5 【年代別】くらしの前年比較



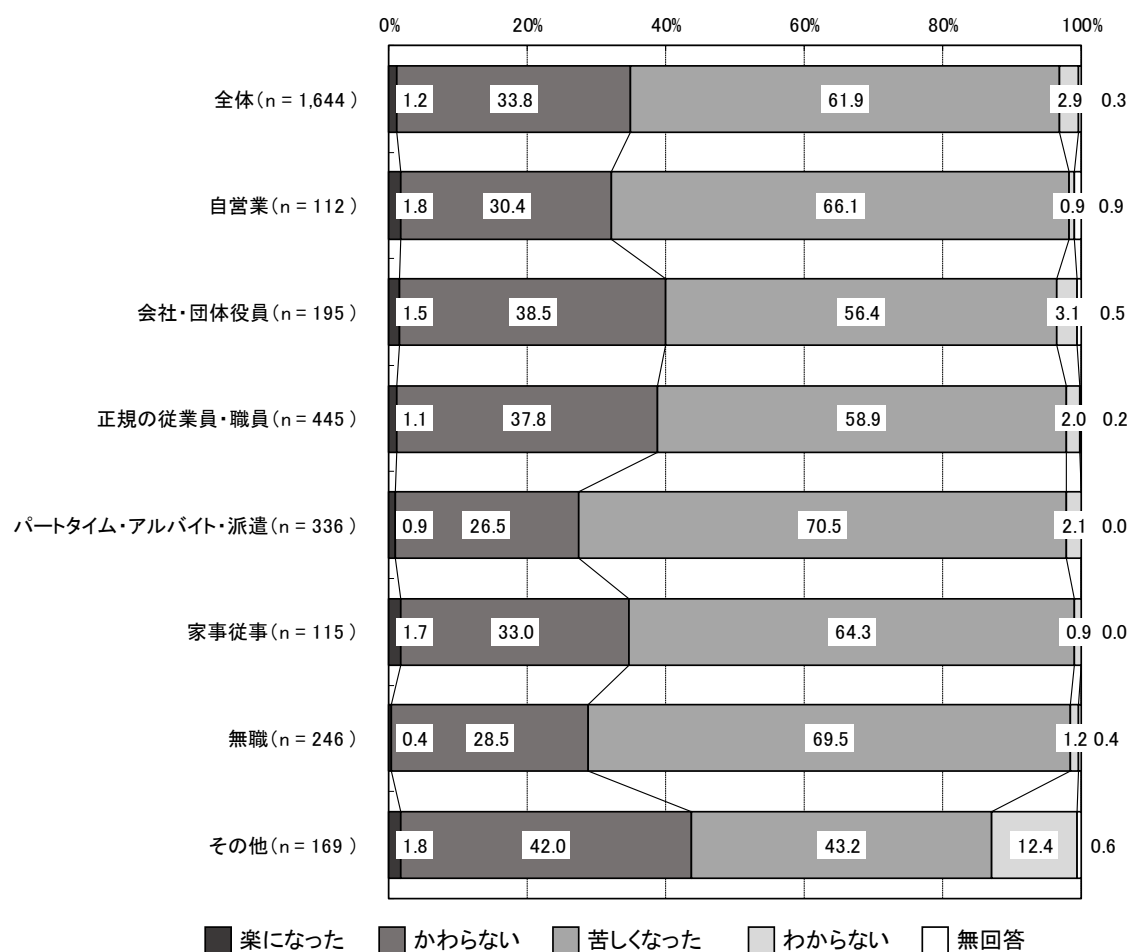
居住圏域別（図 1-6）でみると、いずれの居住圏域においても「苦しくなった」が最も高く、そのうち東濃圏域が 67.9%と最も高くなっている。

図 1-6 【居住圏域別】くらしの前年比較



職業別（図 1-7）でみると、いずれの職業においても「苦しくなった」が最も高く、パートタイム・アルバイト・派遣では70.5%と最も高くなっている。

図 1-7 【職業別】くらしの前年比較



※ その他には、自由業、学生を含む。

## 問1-2 くらしが苦しくなったと感じる理由

問1-2 「苦しくなった」と答えた方にお尋ねします。

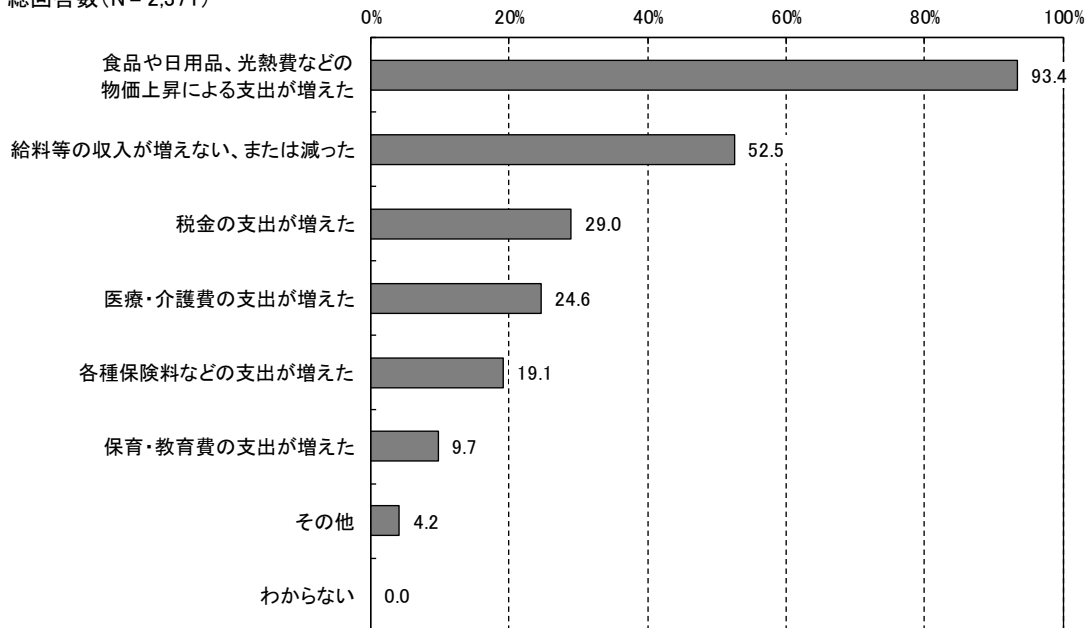
あなたが、くらしが苦しくなったと感じるのは、どのような理由からですか。  
(3つまで)

全体(図1-2-1)でみると、「食品や日用品、光熱費などの物価上昇による支出が増えた」が93.4%と最も高く、次いで「給料等の収入が増えない、または減った」(52.5%)、「税金の支出が増えた」(29.0%)の順となっている。

図1-2-1 くらしが苦しくなったと感じる理由

回答者数(n=1,017)※

総回答数(N=2,371)

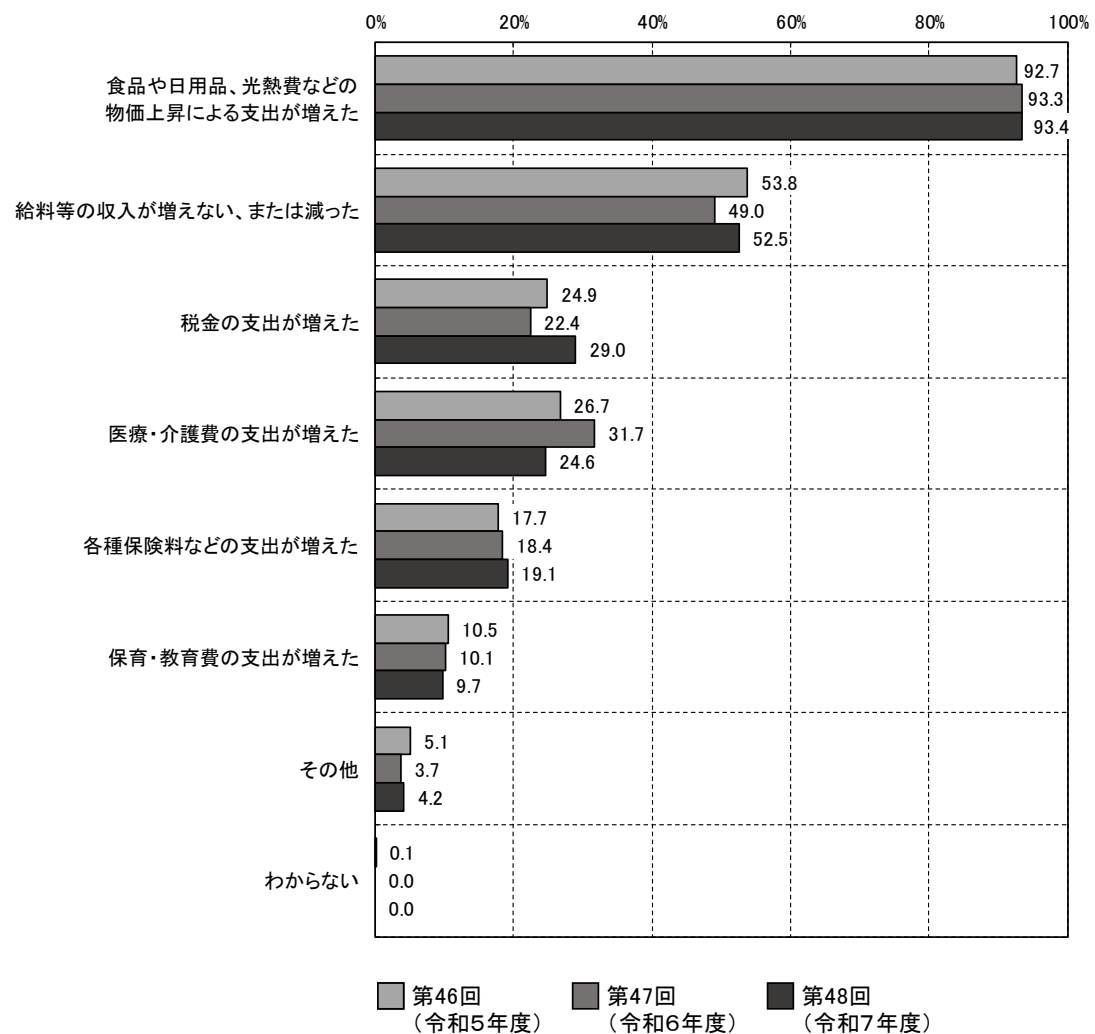


※ 問1で「苦しくなった」と答えた方のみ



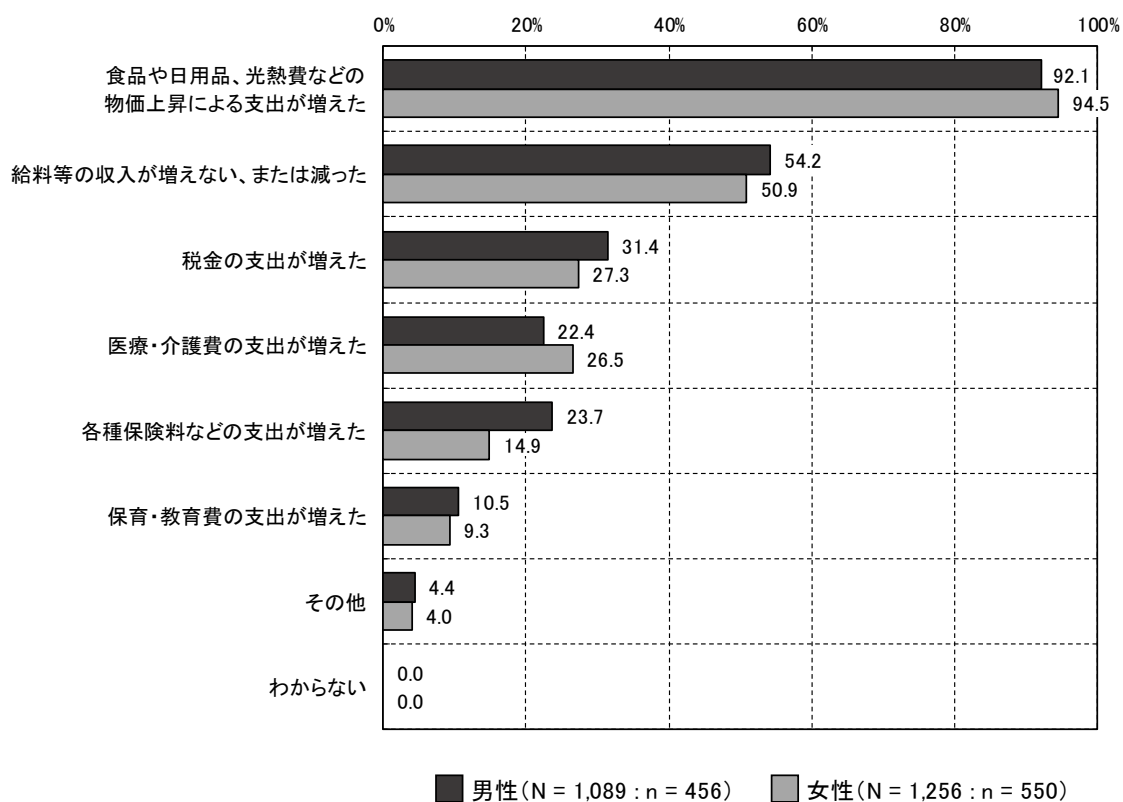
前々回・前回比較（図 1-2-2）でみると、「食品や日用品、光熱費などの物価上昇による支出が増えた」が年々高くなっている。また、「税金の支出が増えた」は、前回に比べて 6.6 ポイント増加している。

図 1-2-2 【前々回・前回比較】くらしが苦しくなったと感じる理由



性別（図 1-2-3）でみると、男女ともに「食品や日用品、光熱費などの物価上昇による支出が増えた」が最も高く、男性が 92.1%、女性が 94.5%となっている。「各種保険料などの支出が増えた」では、男性が女性よりも 8.8 ポイント高くなっている。

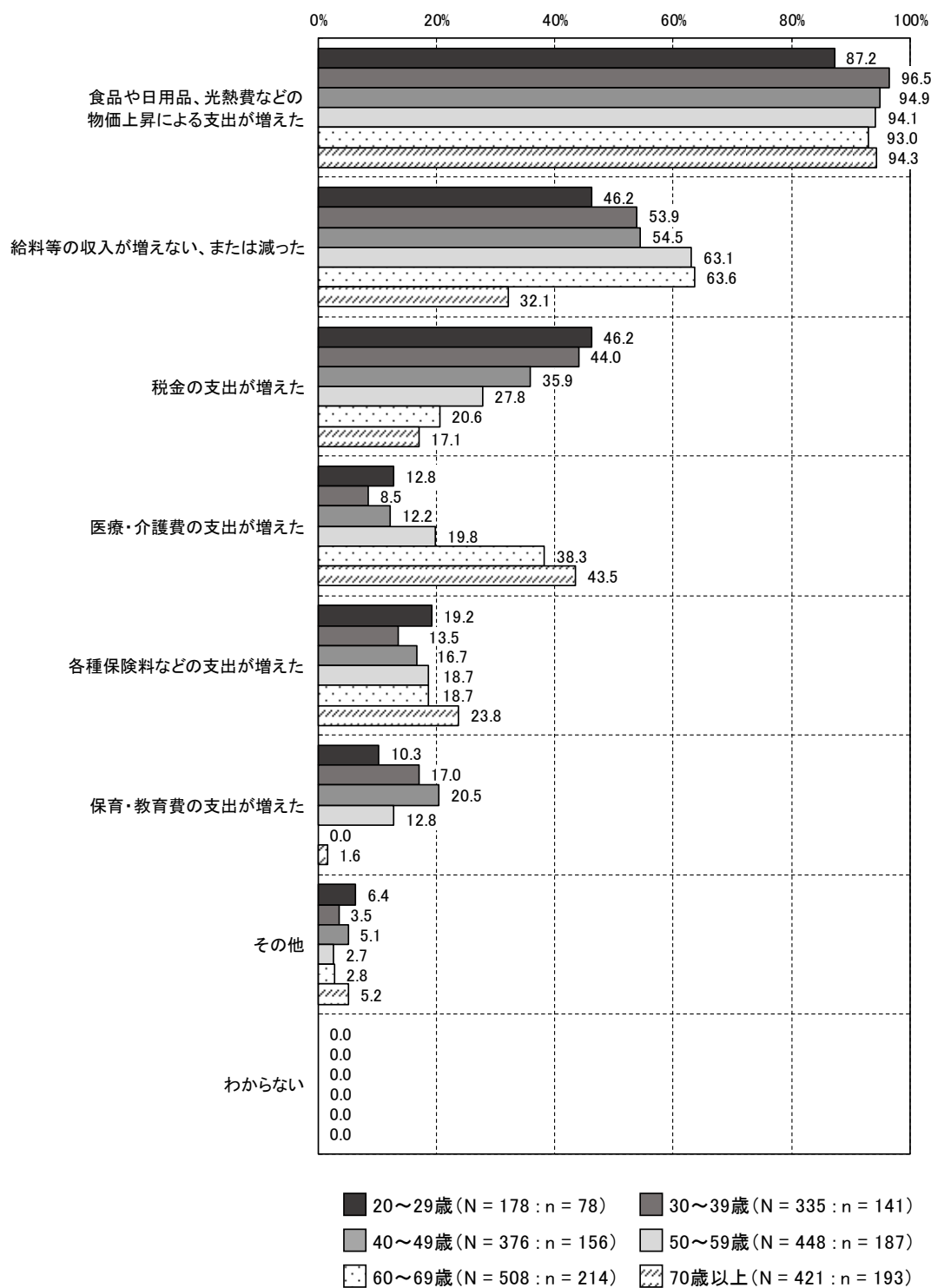
図 1-2-3 【性別】くらしが苦しくなったと感じる理由



※ N=総回答数 n=回答者数

年代別（図 1-2-4）でみると、いずれの年代においても「食品や日用品、光熱費などの物価上昇による支出が増えた」が最も高くなっている。また、20 歳代、30 歳代では「税金の支出が増えた」が、50 歳代、60 歳代では「給料等の収入が増えない、または減った」が、60 歳代、70 歳以上では「医療・介護費の支出が増えた」が他の年代に比べて高くなっている。

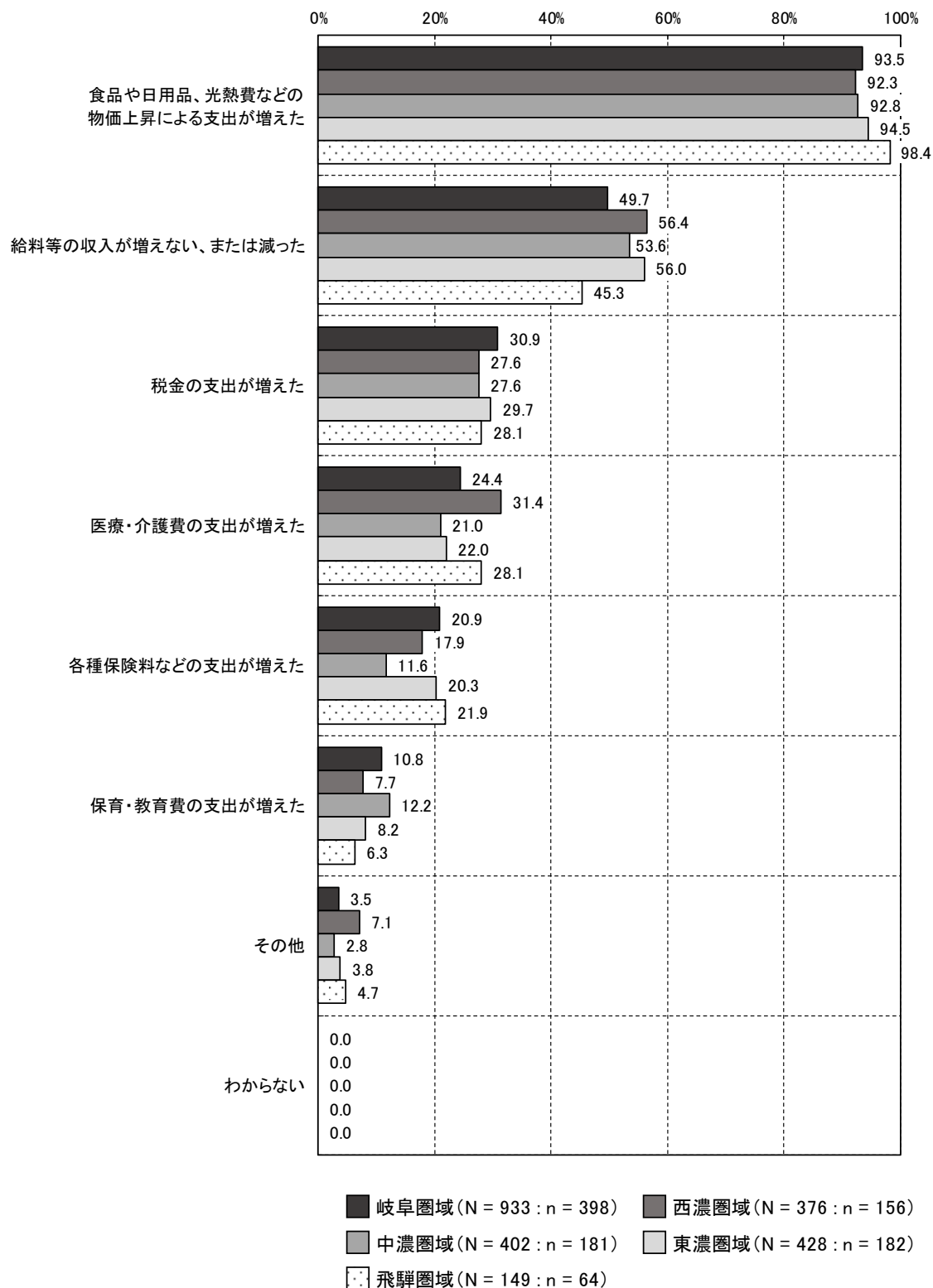
図 1-2-4 【年代別】くらしが苦しくなったと感じる理由



※ N=総回答数 n=回答者数

居住圏域別（図 1-2-5）でみると、いずれの居住圏域においても「食品や日用品、光熱費などの物価上昇による支出が増えた」が最も高く、次いで「給料等の収入が増えない、または減った」の順となっている。

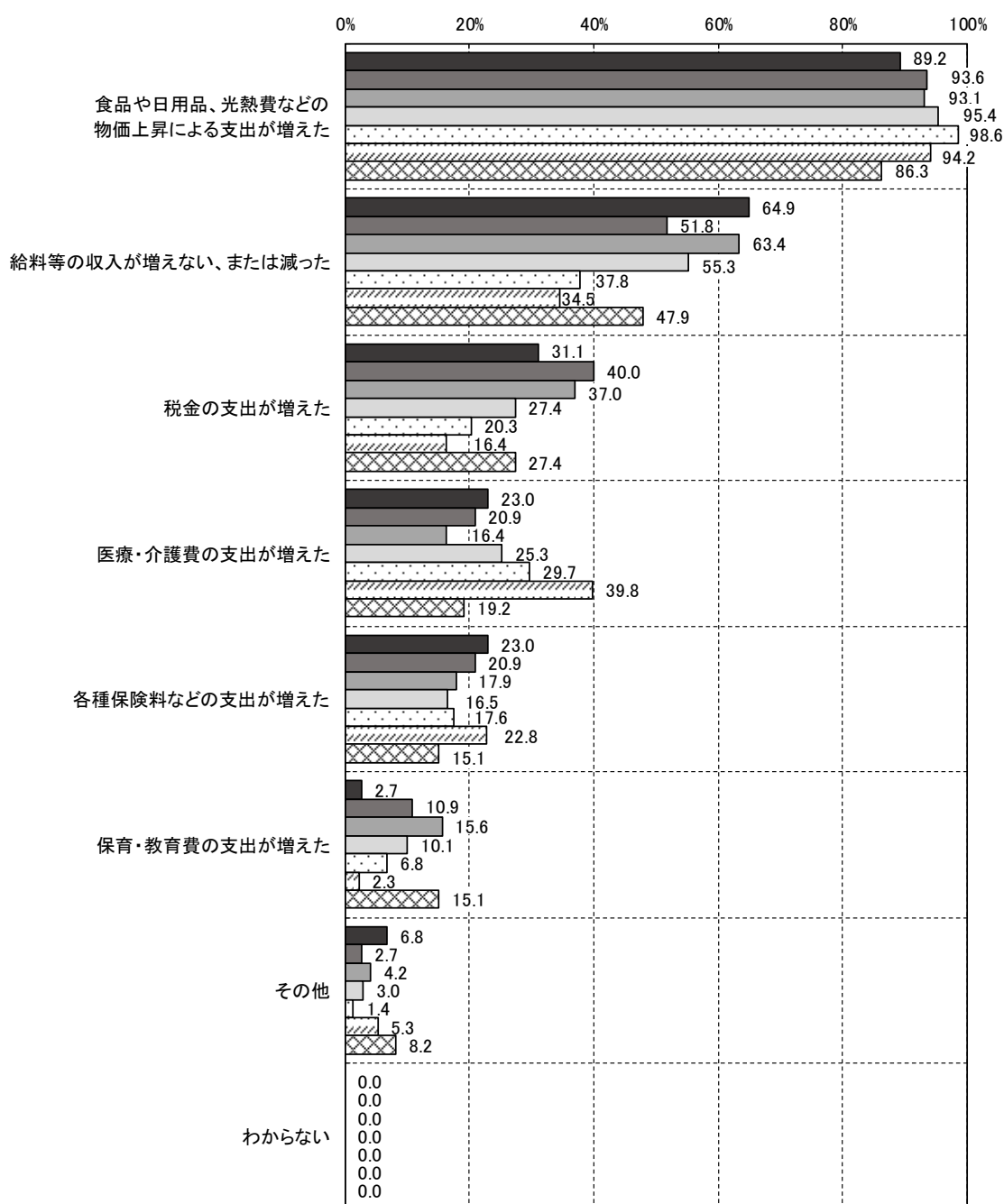
図 1-2-5 【居住圏域別】くらしが苦しくなったと感じる理由



※ N=総回答数 n=回答者数

職業別（図 1-2-6）でみると、いずれの職業においても「食品や日用品、光熱費などの物価上昇による支出が増えた」が最も高くなっている。自営業、正規の従業員・職員では「給料等の収入が増えない、または減った」が、会社・団体役員では「税金の支出が増えた」が他の職業に比べて高くなっている。

図 1-2-6 【職業別】くらしが苦しくなったと感じる理由



■ 自営業 (N = 179 : n = 74)

■ 会社・団体役員 (N = 265 : n = 110)

■ 正規の従業員・職員 (N = 650 : n = 262)

■ パートタイム・アルバイト・派遣 (N = 554 : n = 237)

■ 家事従事 (N = 157 : n = 74)

■ 無職 (N = 370 : n = 171)

■ その他 (N = 160 : n = 73)

※ その他には、自由業、学生を含む。

※ N=総回答数 n=回答者数

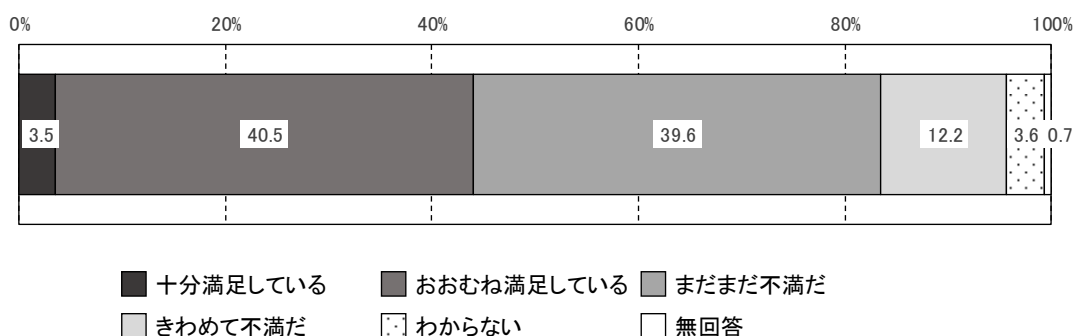
## 問2 くらしの満足度

問2 あなたは、現在のくらし全般（生活環境など）についてどう思いますか。（1つだけ）

全体（図2-1）でみると、「おおむね満足している」が40.5%と最も高く、次いで「まだまだ不満だ」（39.6%）、「きわめて不満だ」（12.2%）の順となっている。

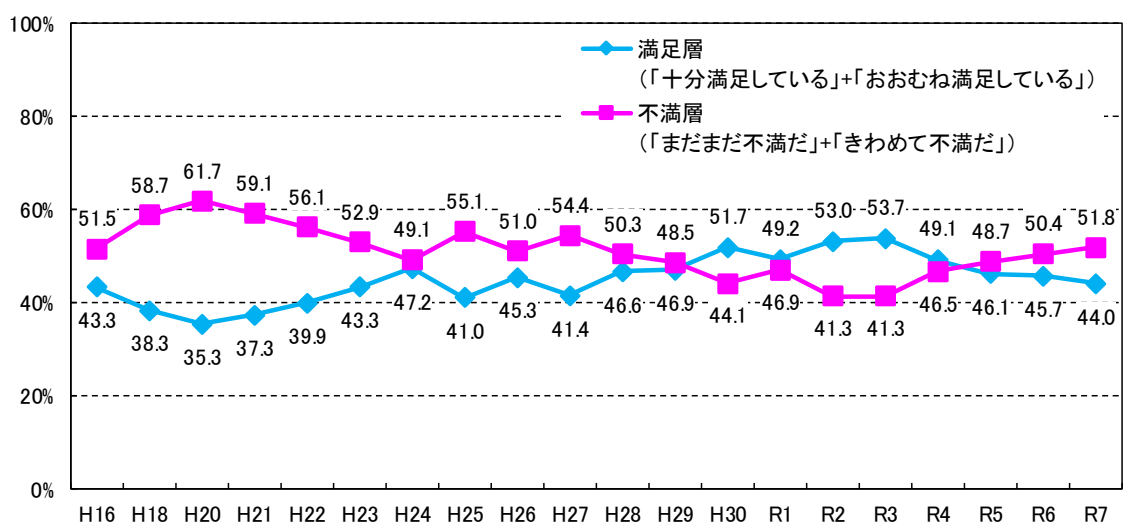
図2-1 くらしの満足度

回答者数(n=1,644)



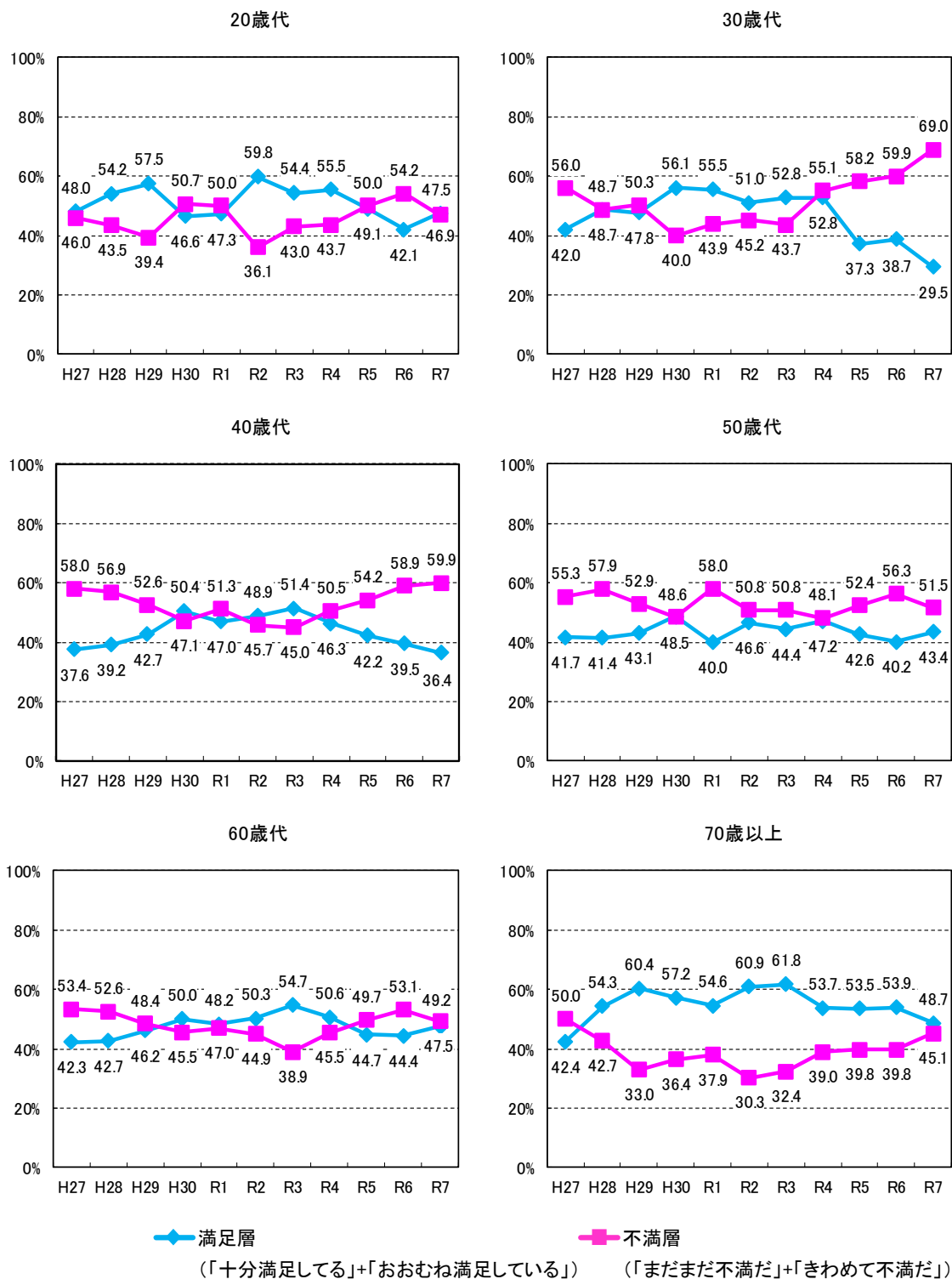
経年変化（図2-2）でみると、平成30年以降、「満足層」（「十分満足している」＋「おおむね満足している」）が「不満層」（「まだまだ不満だ」＋「きわめて不満だ」）を上回っているが、令和5年以降では、「不満層」が「満足層」を上回っており、令和7年では「不満層」が「満足層」より7.8ポイント高くなっている。

図2-2 【経年変化】くらしの満足度



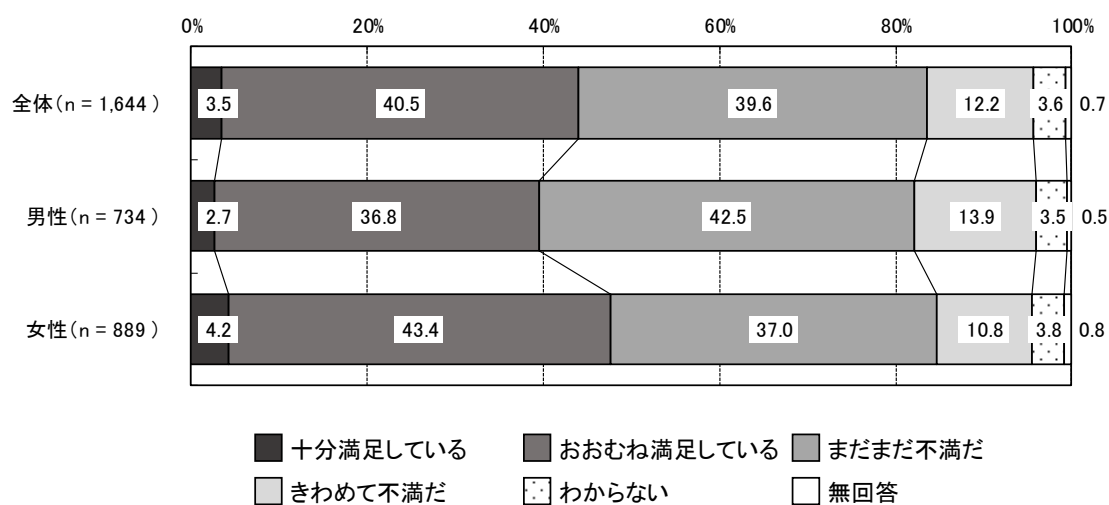
年代別の経年変化（図 2-3）でみると、30 歳代から 60 歳代では「不満層」が「満足層」を上回っており、30 歳代では令和 6 年より「不満層」が 9.1 ポイント増加している。一方、20 歳代では令和 6 年より「満足層」が 5.4 ポイント増加し、「満足層」が「不満層」を上回っている。70 歳以上では、平成 28 年より変わらず、「満足層」が「不満層」を上回っている。

図 2-3 【経年変化(年代別)】くらしの満足度



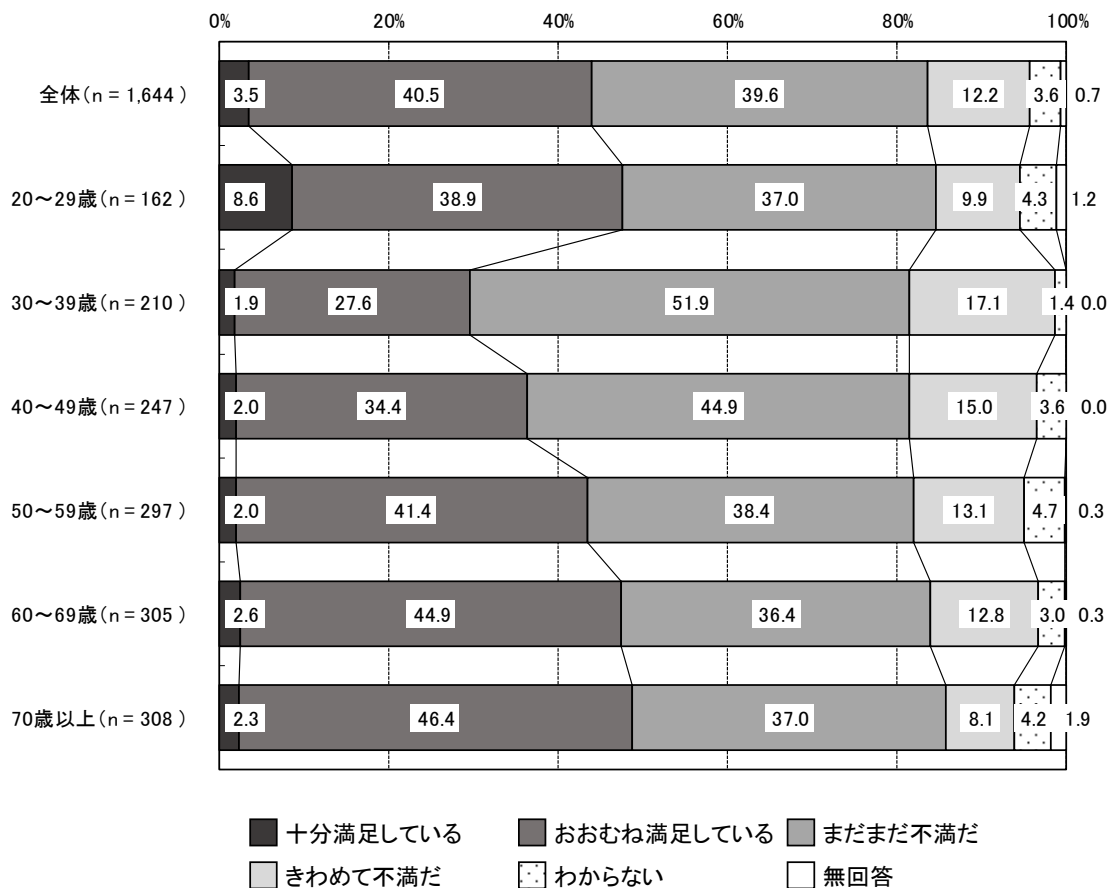
性別（図 2-4）でみると、男性では「まだまだ不満だ」（42.5%）が最も高くなっており、女性では「おおむね満足している」（43.4%）が最も高くなっている。

図 2-4 【性別】くらしの満足度



年代別（図 2-5）でみると、30 歳代、40 歳代では「まだまだ不満だ」が最も高くなっており、20 歳代、50 歳代、60 歳代、70 歳以上では「おおむね満足している」が最も高くなっている。

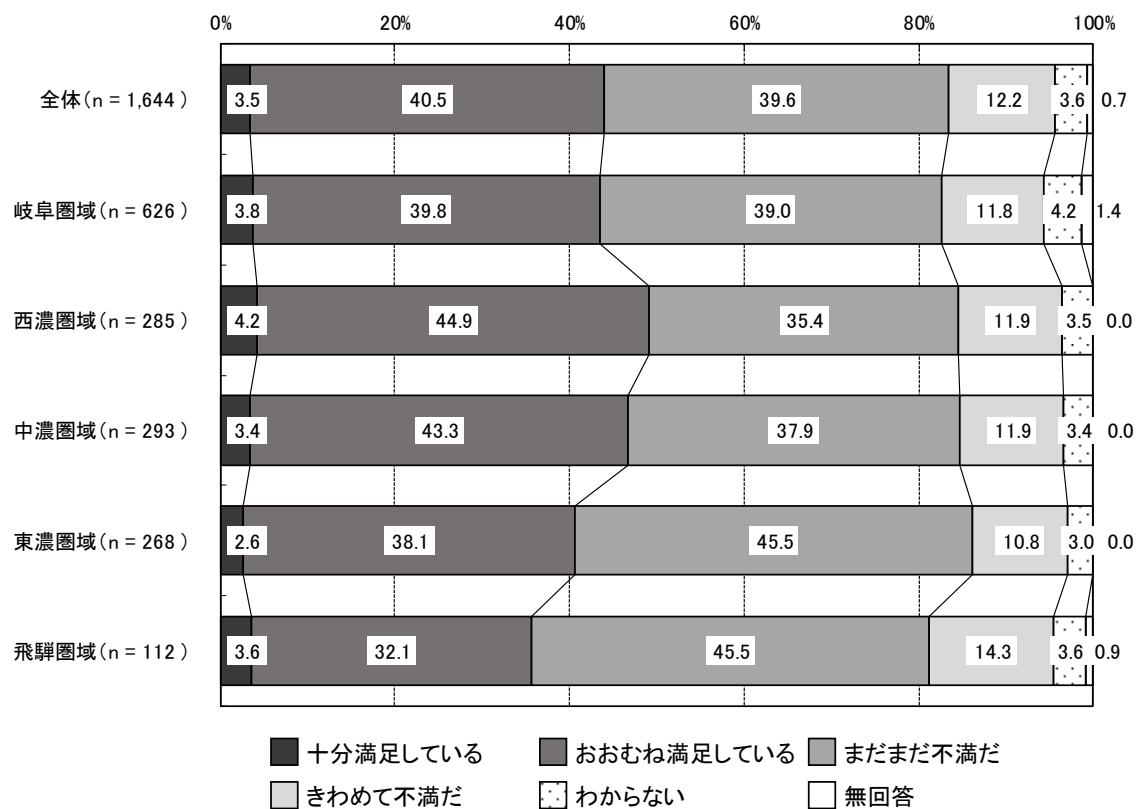
図 2-5 【年代別】くらしの満足度





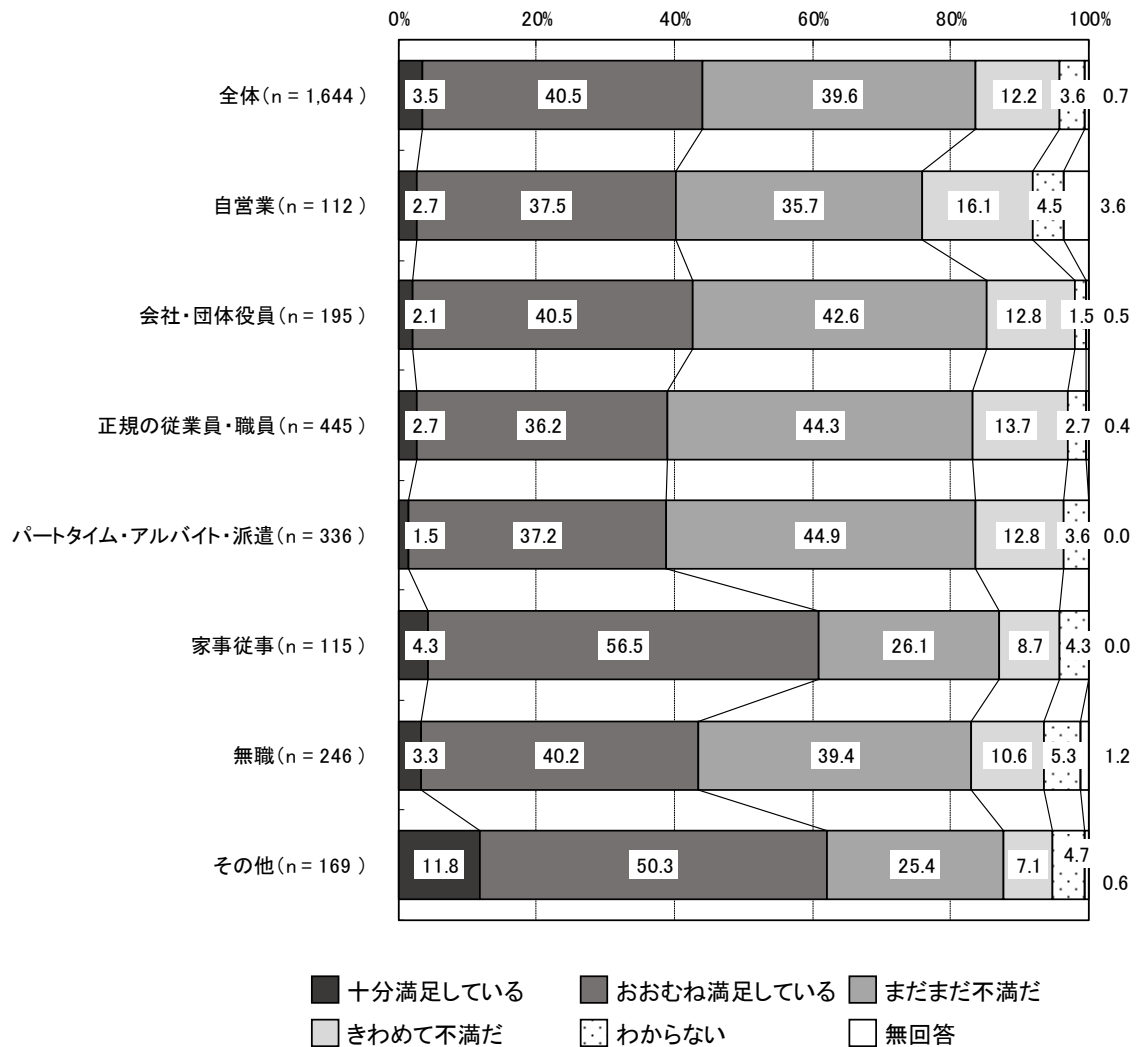
居住圏域別（図 2-6）でみると、岐阜圏域、西濃圏域、中濃圏域では「おおむね満足している」が最も高くなっており、東濃圏域、飛騨圏域では「まだまだ不満だ」が最も高くなっている。

図 2-6 【居住圏域別】 暮らしの満足度



職業別（図 2-7）でみると、会社・団体役員、正規の従業員・職員、パートタイム・アルバイト・派遣では「まだまだ不満だ」が最も高く、自営業、家事従事、無職、その他では「おおむね満足している」が最も高くなっている。

図 2-7 【職業別】くらしの満足度



※ その他には、自由業、学生を含む。

### 問3 生活面での不安

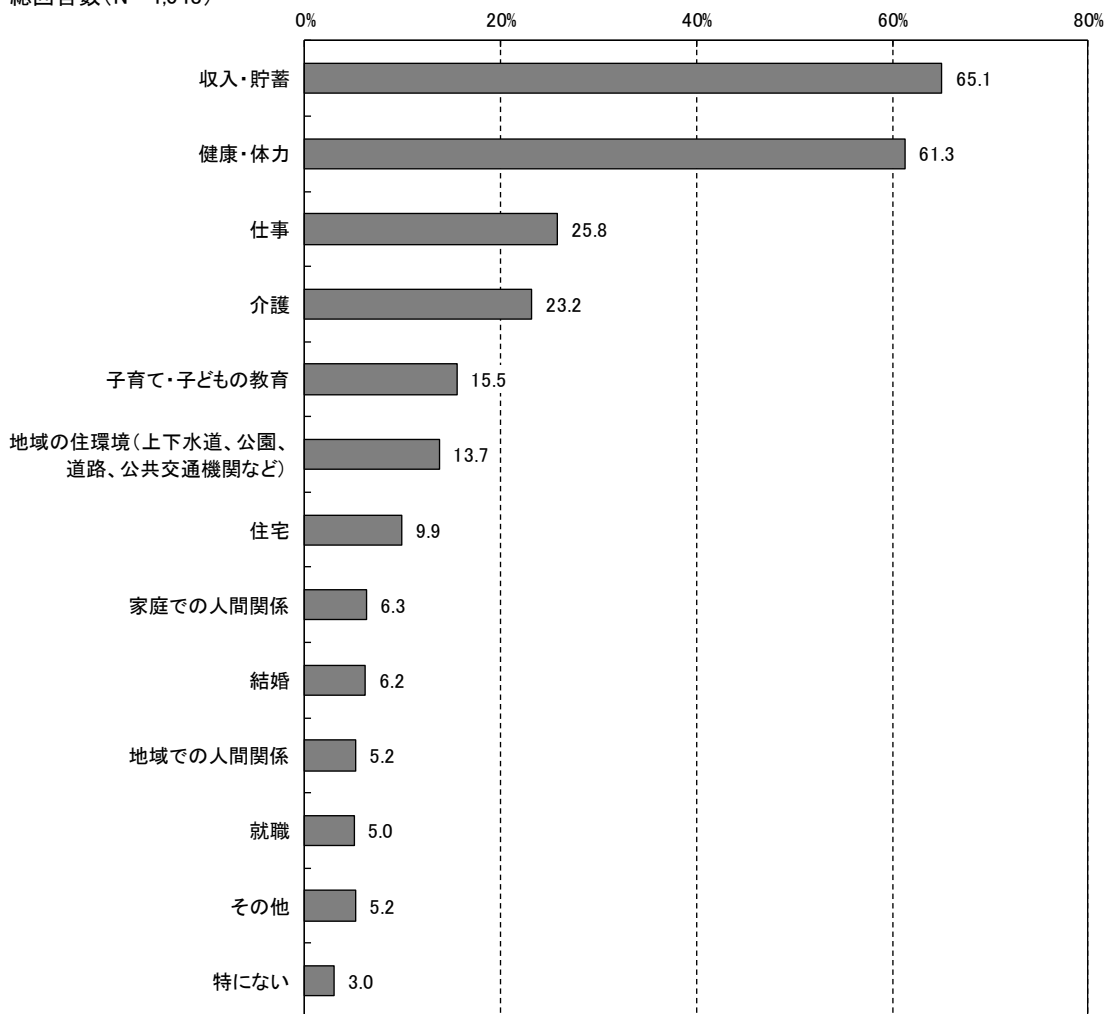
問3 あなたは、日頃の暮らしの中で、どのようなことに悩みや不安を感じていますか。  
(3つまで)

全体(図3-1)でみると、「収入・貯蓄」が65.1%と最も高く、次いで「健康・体力」(61.3%)、「仕事」(25.8%)の順となっている。

図3-1 生活面での不安

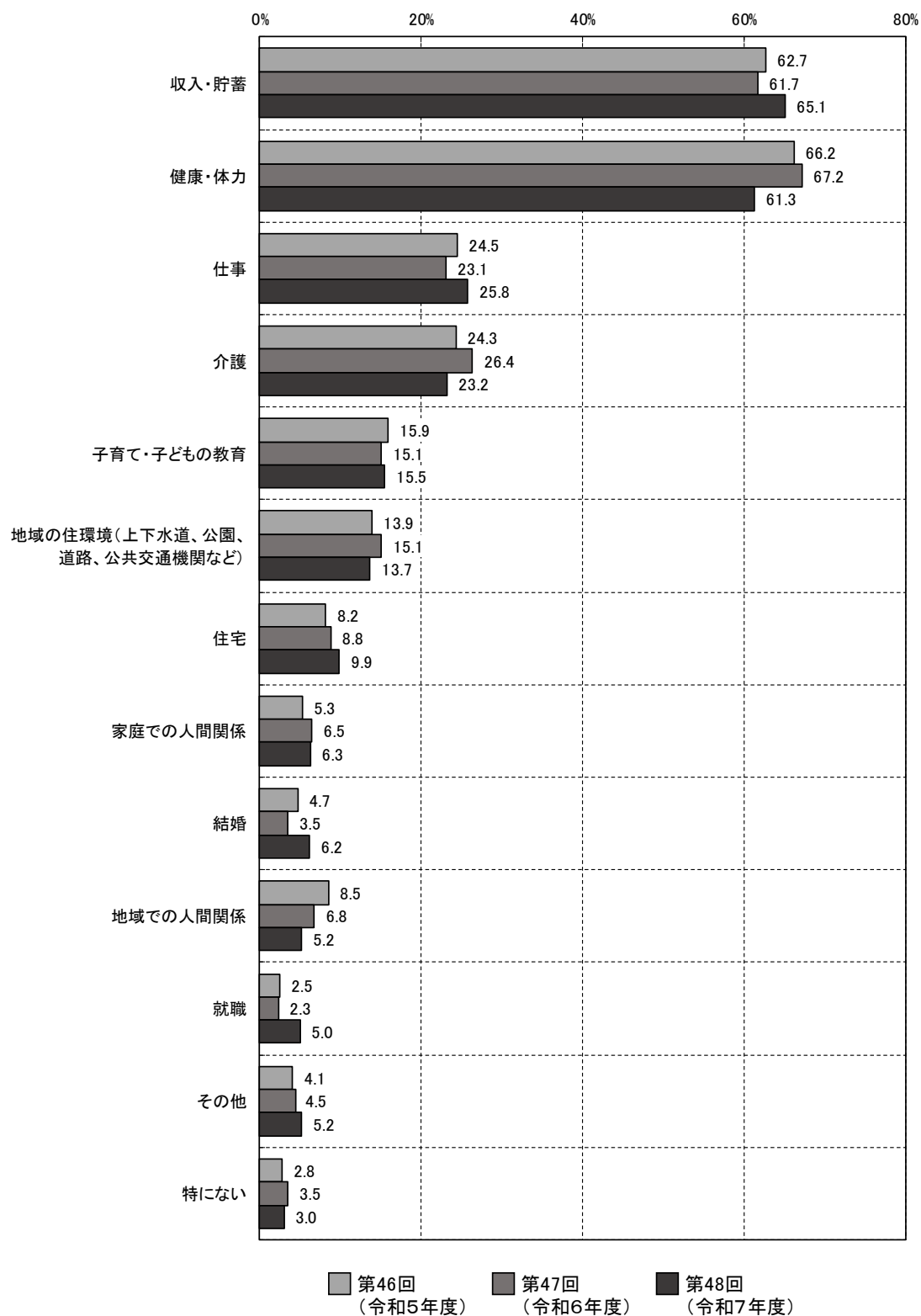
回答者数(n=1,644)

総回答数(N=4,048)



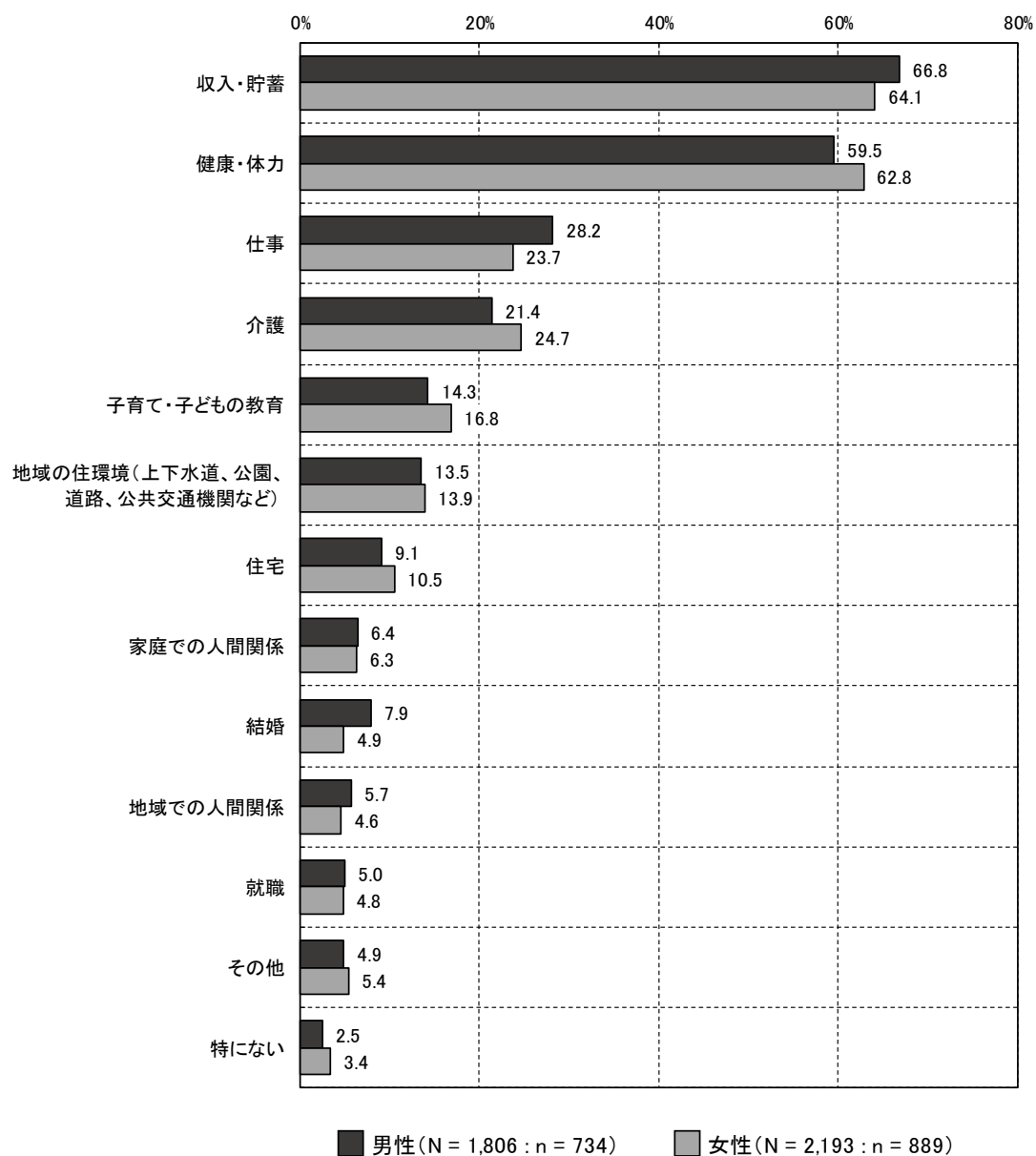
前々回・前回比較（図 3-2）でみると、「収入・貯蓄」は前回に比べて 3.4 ポイント増加している。また、「住宅」が年々高くなっている。一方、「健康・体力」は前回に比べて 5.9 ポイント減少している。

図 3-2 【前々回・前回比較】生活面での不安



性別（図 3-3）でみると、男女ともに「収入・貯蓄」が最も高く、次いで「健康・体力」の順となっている。「仕事」では男性が女性より 4.5 ポイント高くなっている。

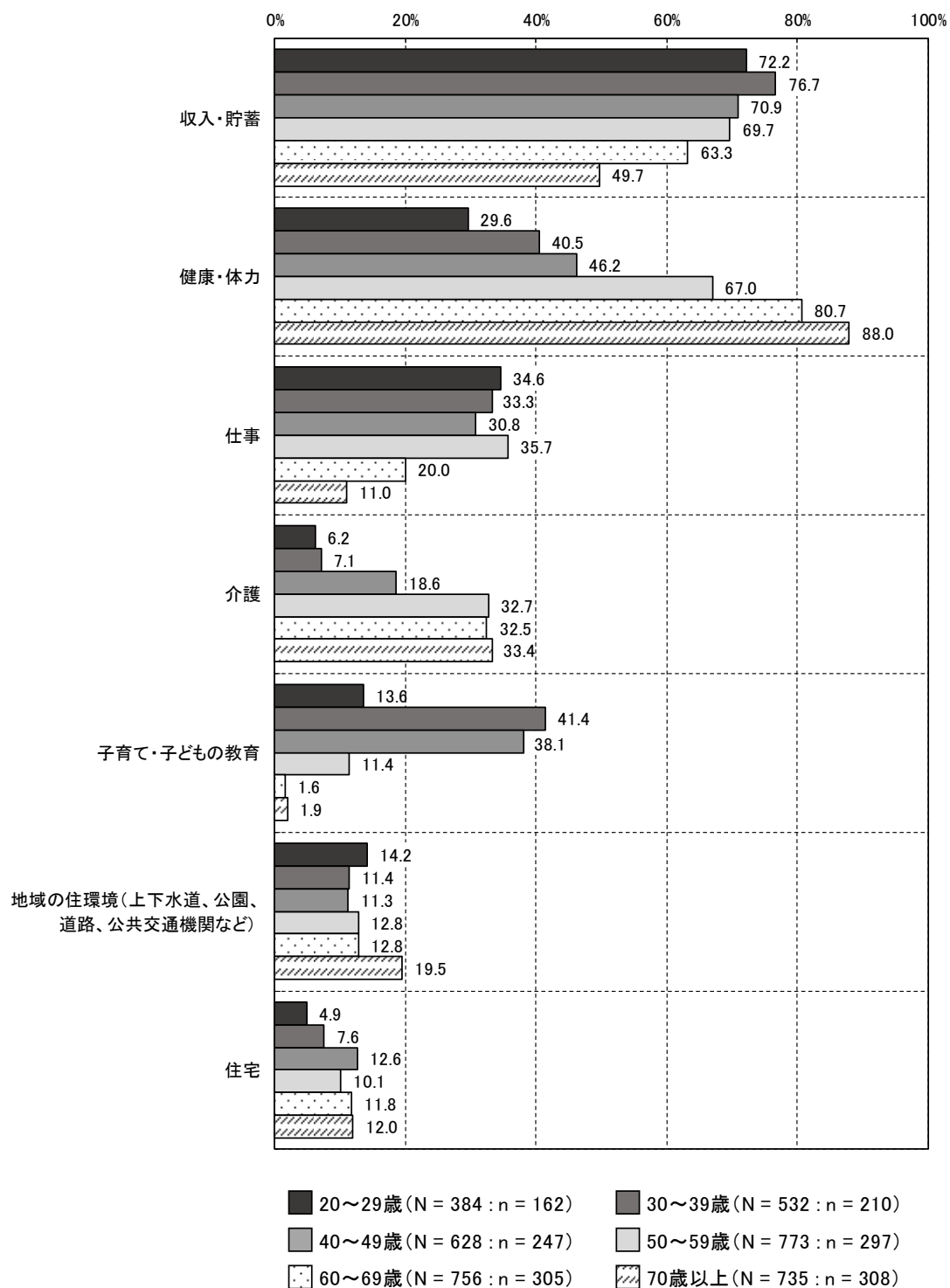
図 3-3 【性別】生活面での不安



※ N=総回答数 n=回答者数

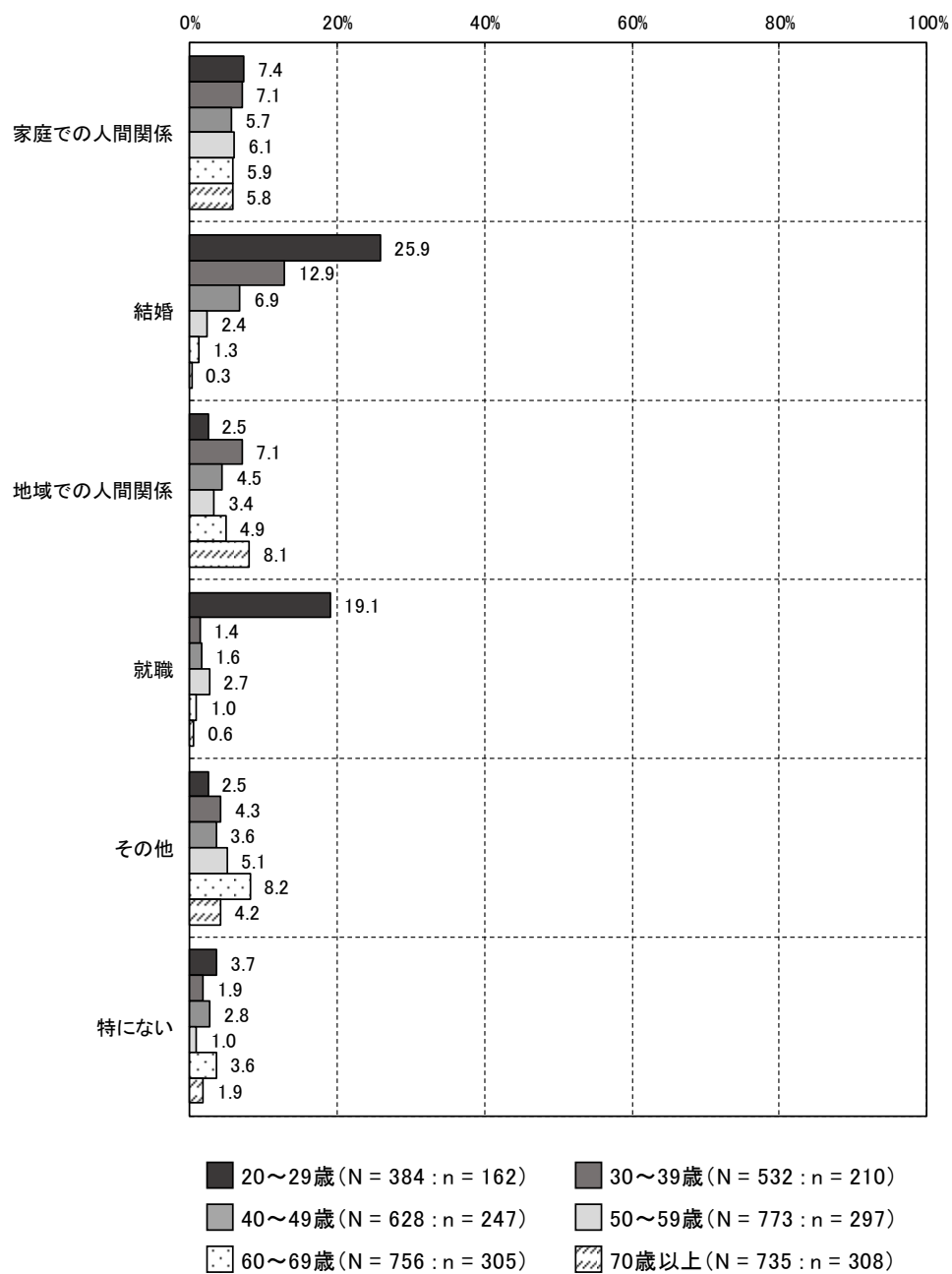
年代別（図 3-4）でみると、20 歳代、30 歳代、40 歳代、50 歳代では「収入・貯蓄」が、60 歳代、70 歳以上では「健康・体力」が最も高くなっている。また、20 歳代では「結婚」「就職」、30 歳代、40 歳代では「子育て・子どもの教育」、50 歳代、60 歳代、70 歳以上では「介護」が他の年代に比べて高くなっている。

図 3-4 【年代別】生活面での不安



※ N＝総回答数 n＝回答者数

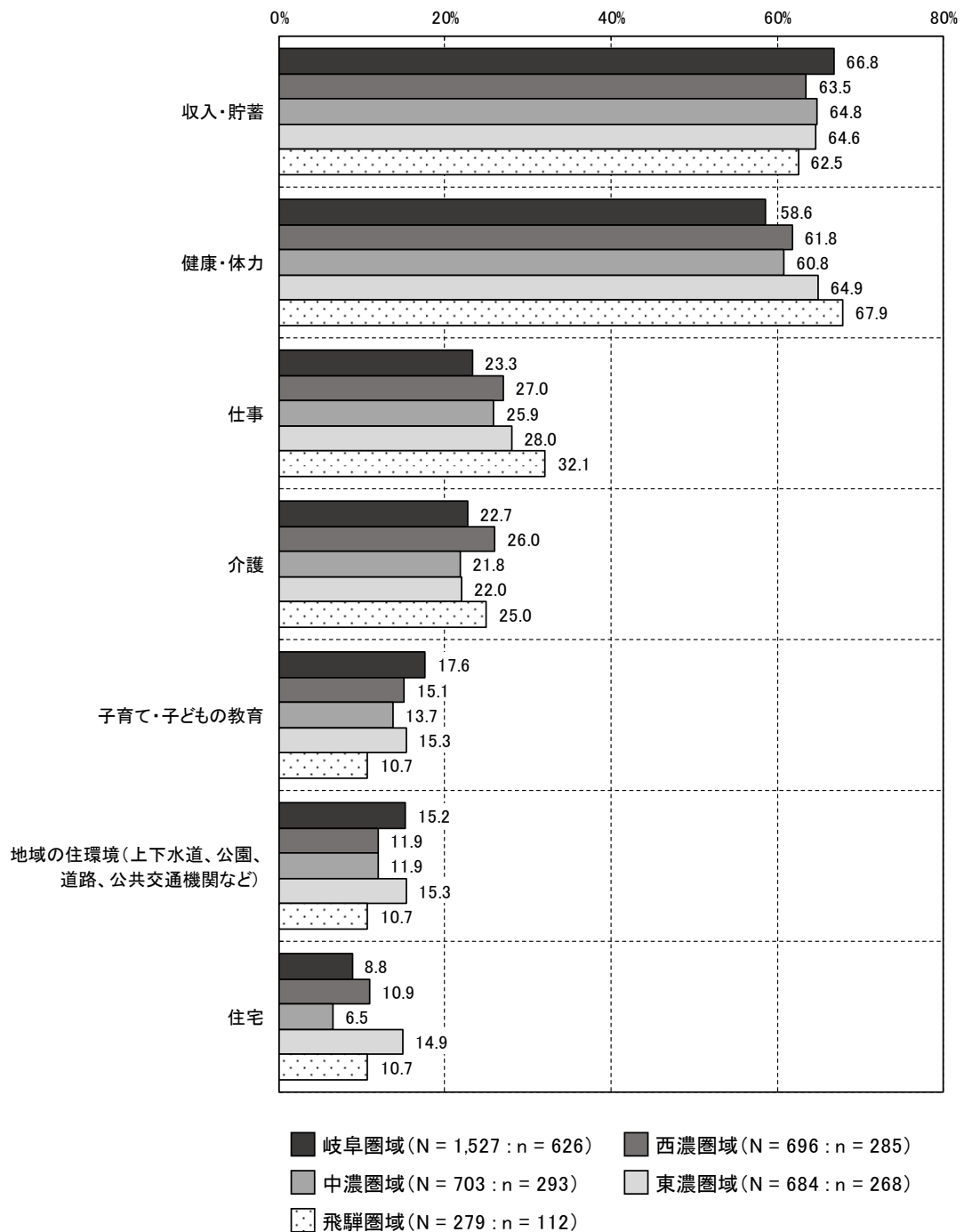
図 3-4 【年代別】生活面での不安（続き）



※ N=総回答数 n=回答者数

居住圏域別（図 3-5）でみると、岐阜圏域、西濃圏域、中濃圏域では「収入・貯蓄」が最も高くなっており、東濃圏域、飛騨圏域では「健康・体力」が最も高くなっている。

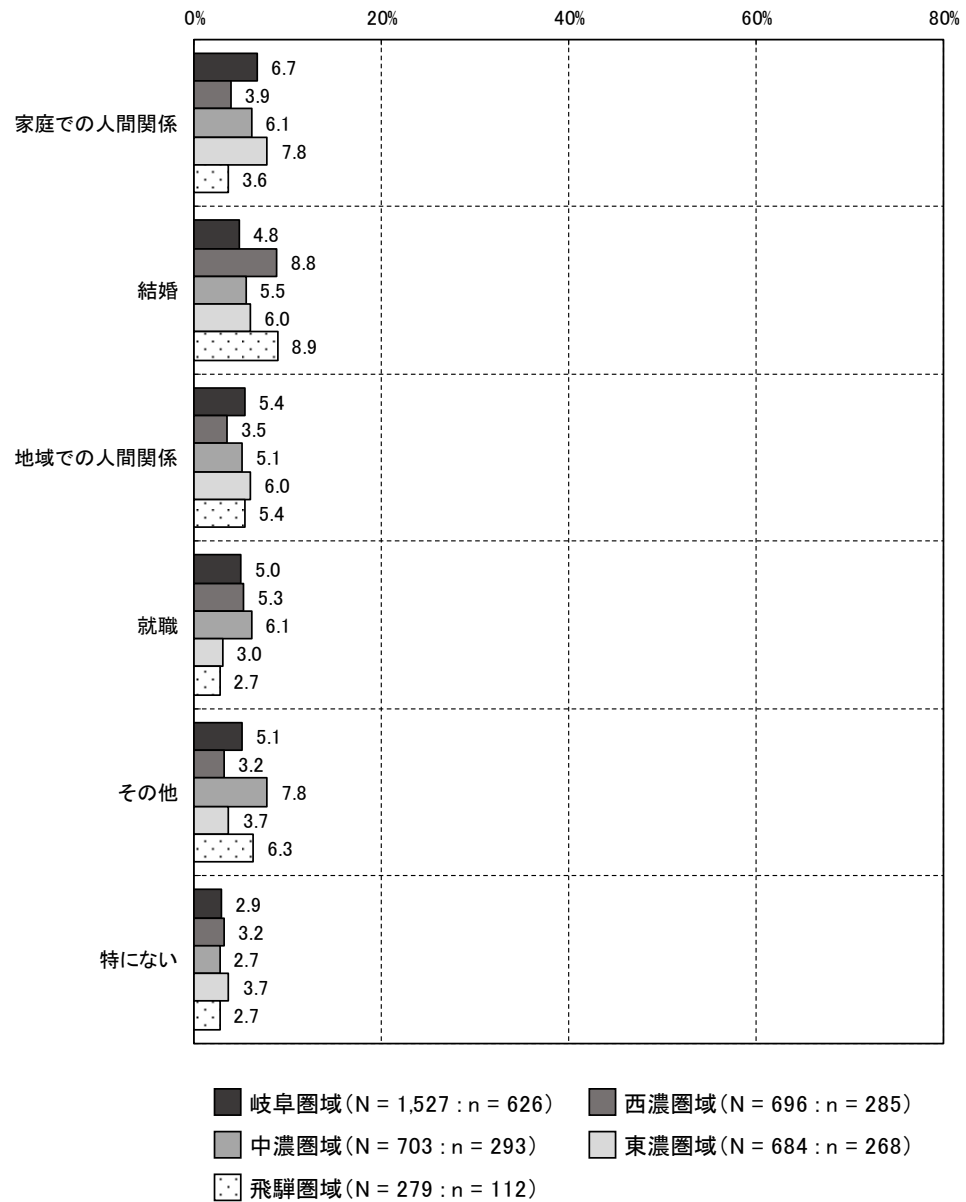
図 3-5 【居住圏域別】生活面での不安



※ N=総回答数 n=回答者数



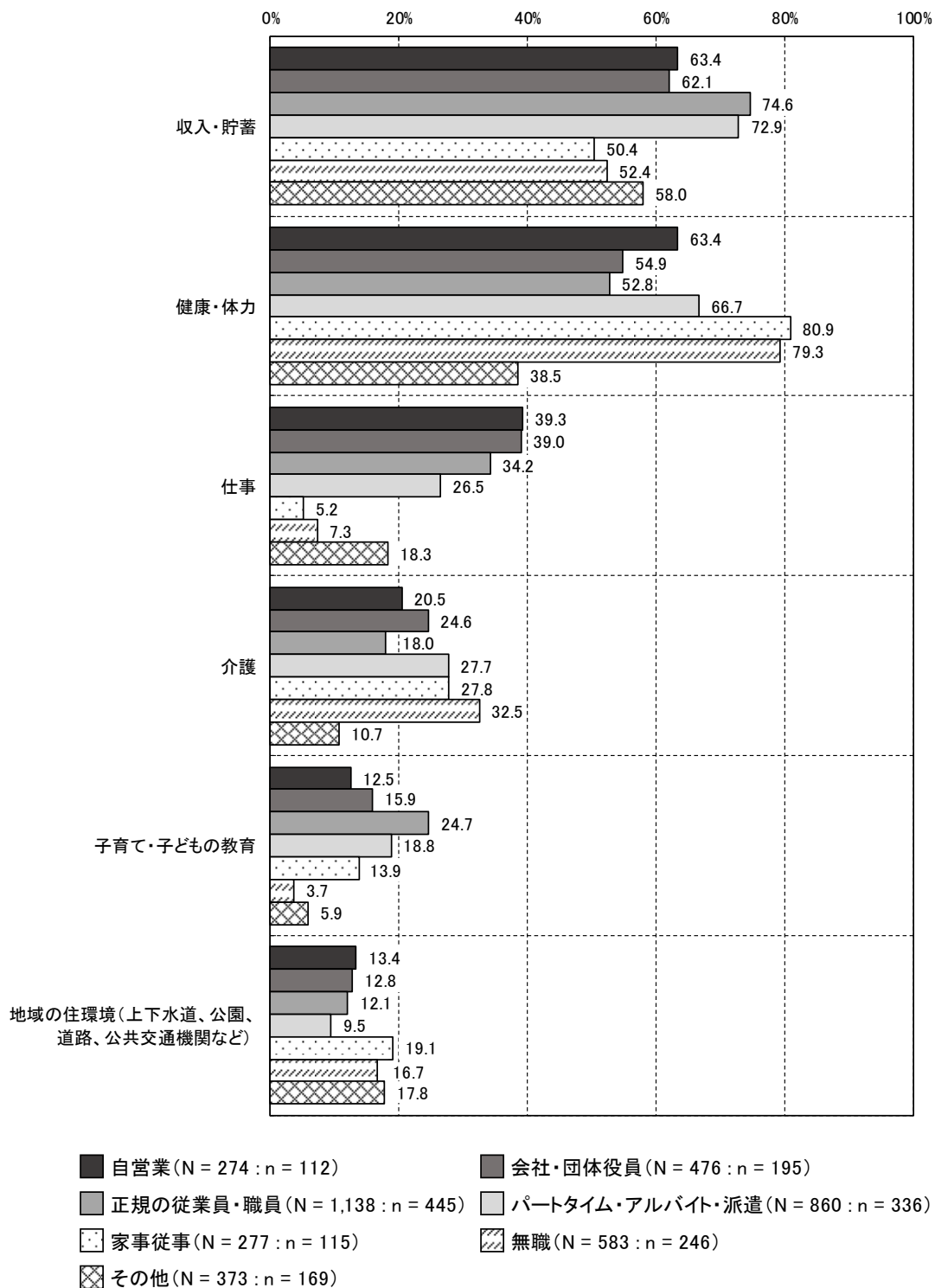
図 3-5 【居住圏域別】生活面での不安（続き）



※ N＝総回答数 n＝回答者数

職業別（図 3-6）でみると、会社・団体役員、正規の従業員・職員、パートタイム・アルバイト・派遣、その他では「収入・貯蓄」、家事従事、無職では「健康・体力」が最も高くなっており、自営業では「収入・貯蓄」「健康・体力」が同率で最も高くなっている。

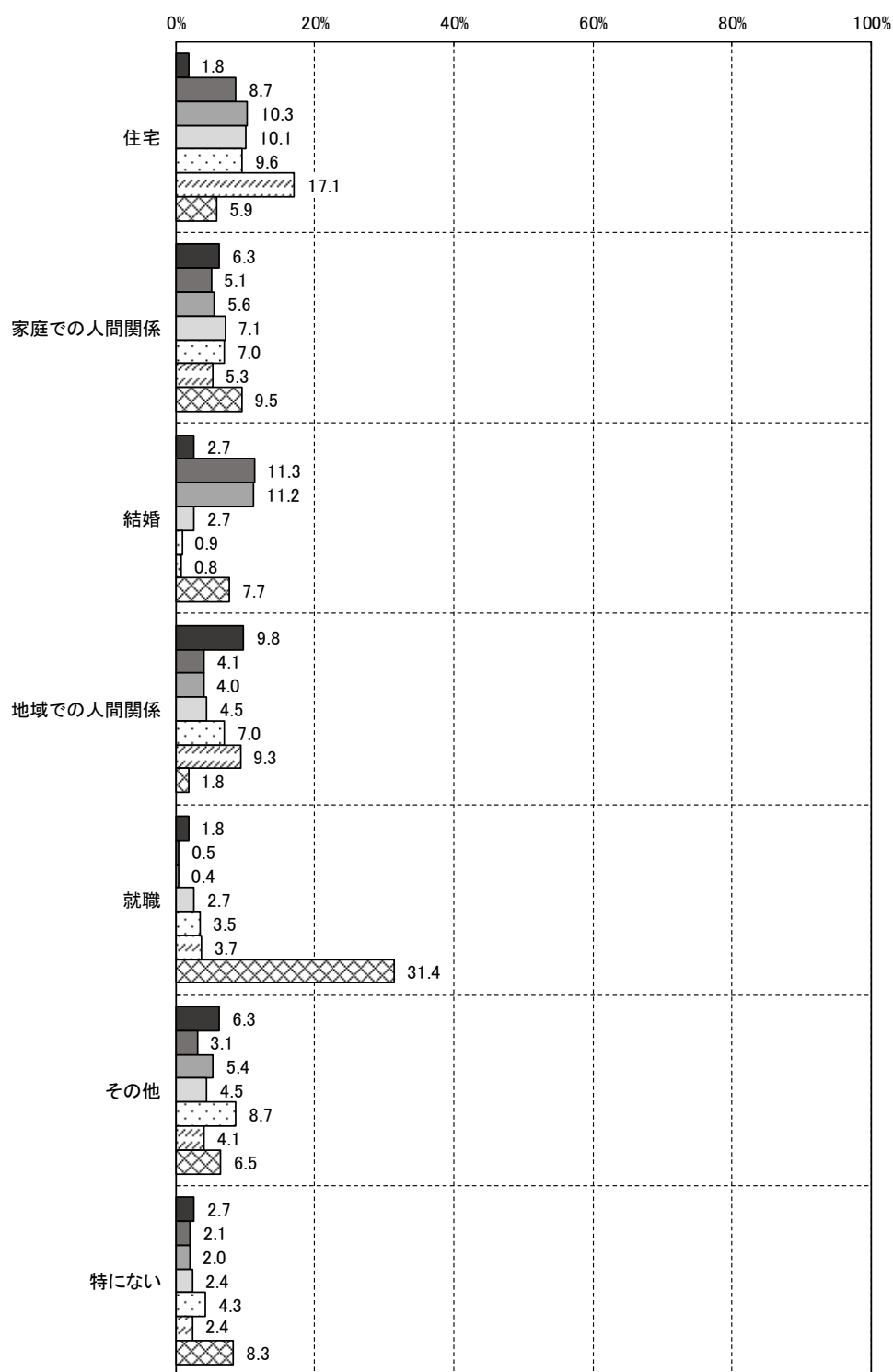
図 3-6 【職業別】生活面での不安



※ その他には、自由業、学生を含む。

※ N=総回答数 n=回答者数

図 3-6 【職業別】 生活面での不安（続き）



■ 自営業 (N = 274 : n = 112)

■ 会社・団体役員 (N = 476 : n = 195)

■ 正規の従業員・職員 (N = 1,138 : n = 445)

■ パートタイム・アルバイト・派遣 (N = 860 : n = 336)

■ 家事従事 (N = 277 : n = 115)

■ 無職 (N = 583 : n = 246)

■ その他 (N = 373 : n = 169)

※ その他には、自由業、学生を含む。

※ N=総回答数 n=回答者数

#### 問4 今後の暮らしの中で重視していきたいこと

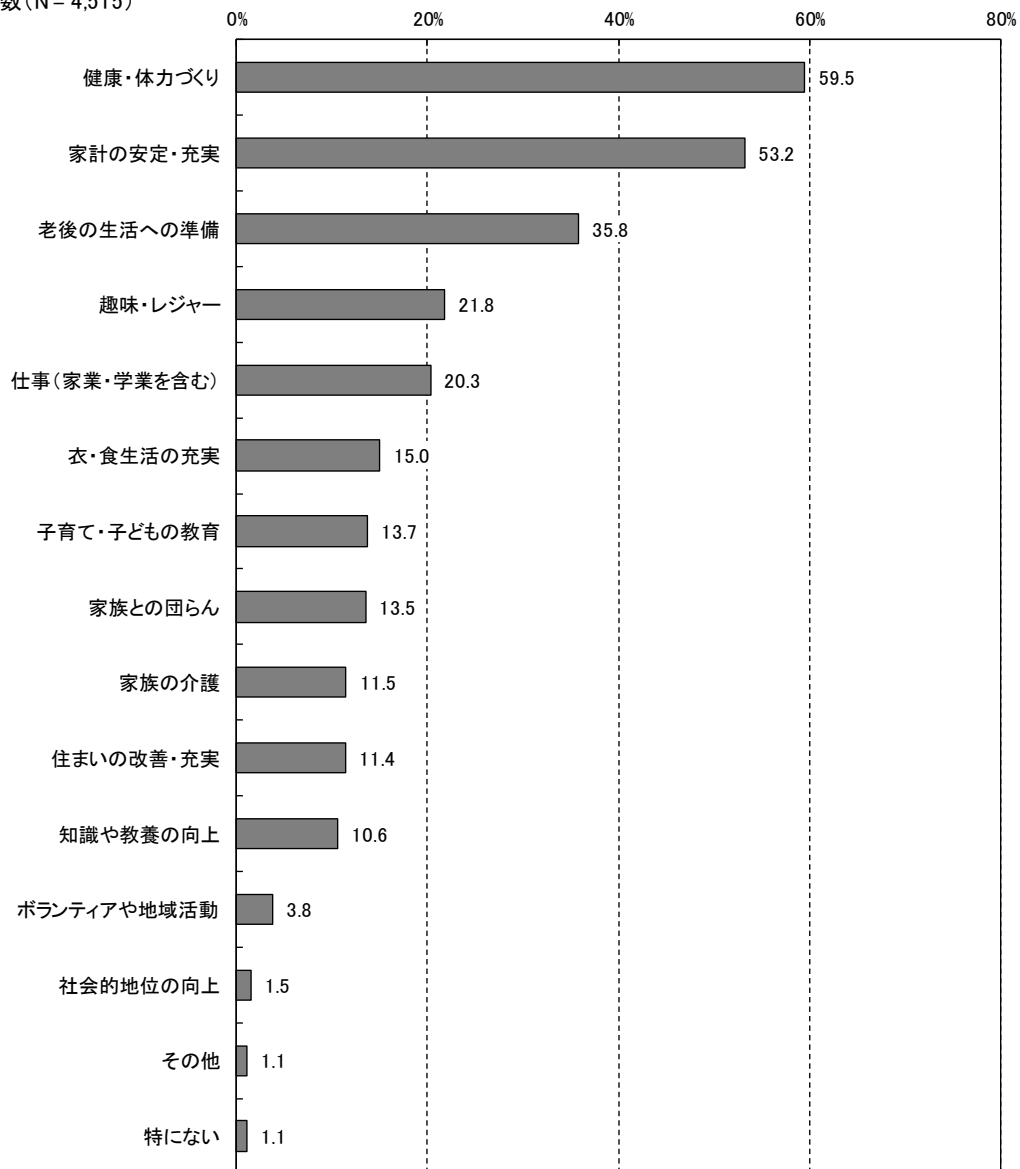
問4 あなたが、今後の暮らしの中で重視していきたいと思うことは何ですか。（3つまで）

全体（図4-1）でみると、「健康・体力づくり」が59.5%と最も高く、次いで「家計の安定・充実」（53.2%）、「老後の生活への準備」（35.8%）の順となっている。

図4-1 今後の暮らしの中で重視していきたいこと

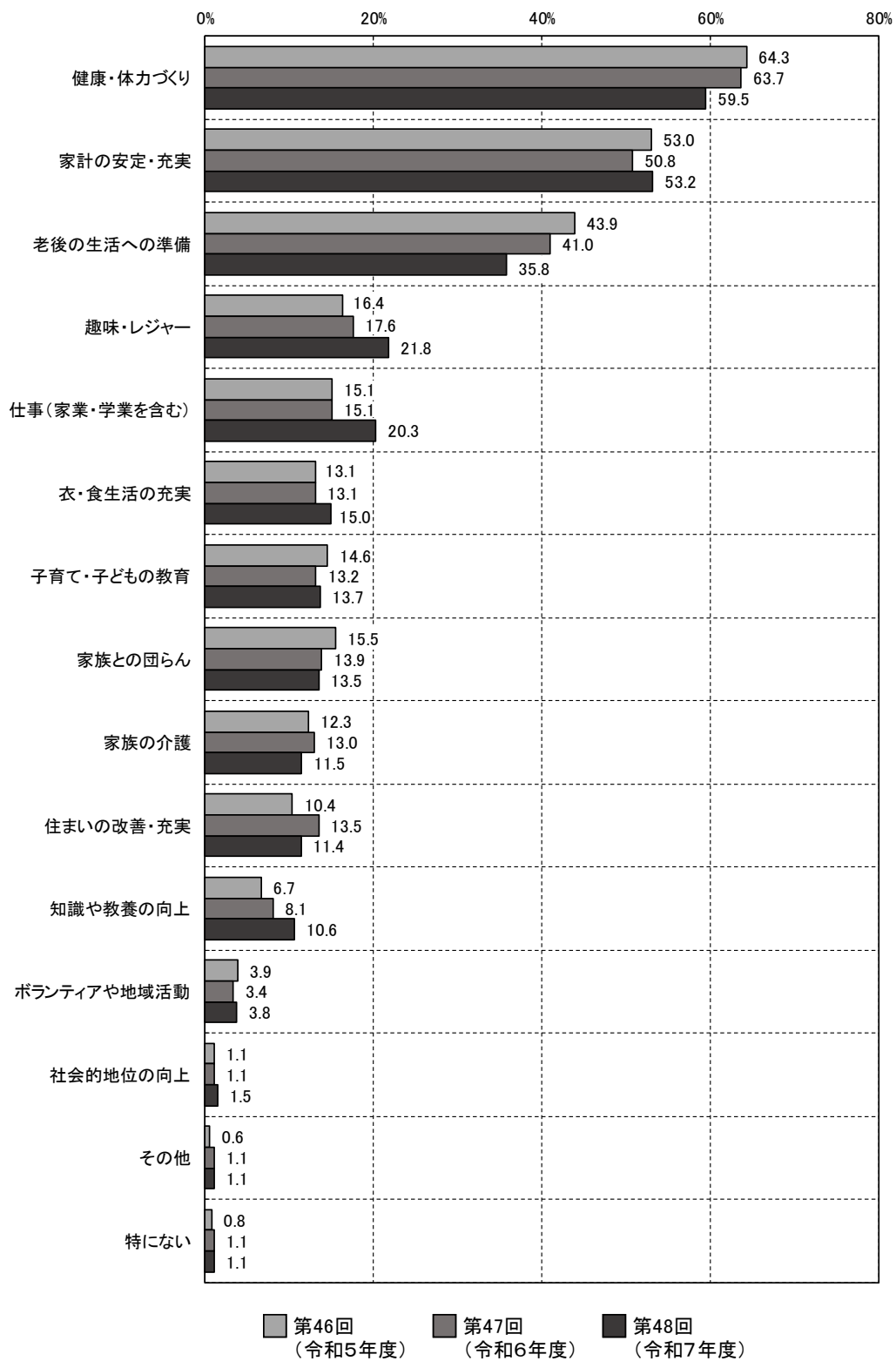
回答者数(n=1,644)

総回答数(N=4,515)



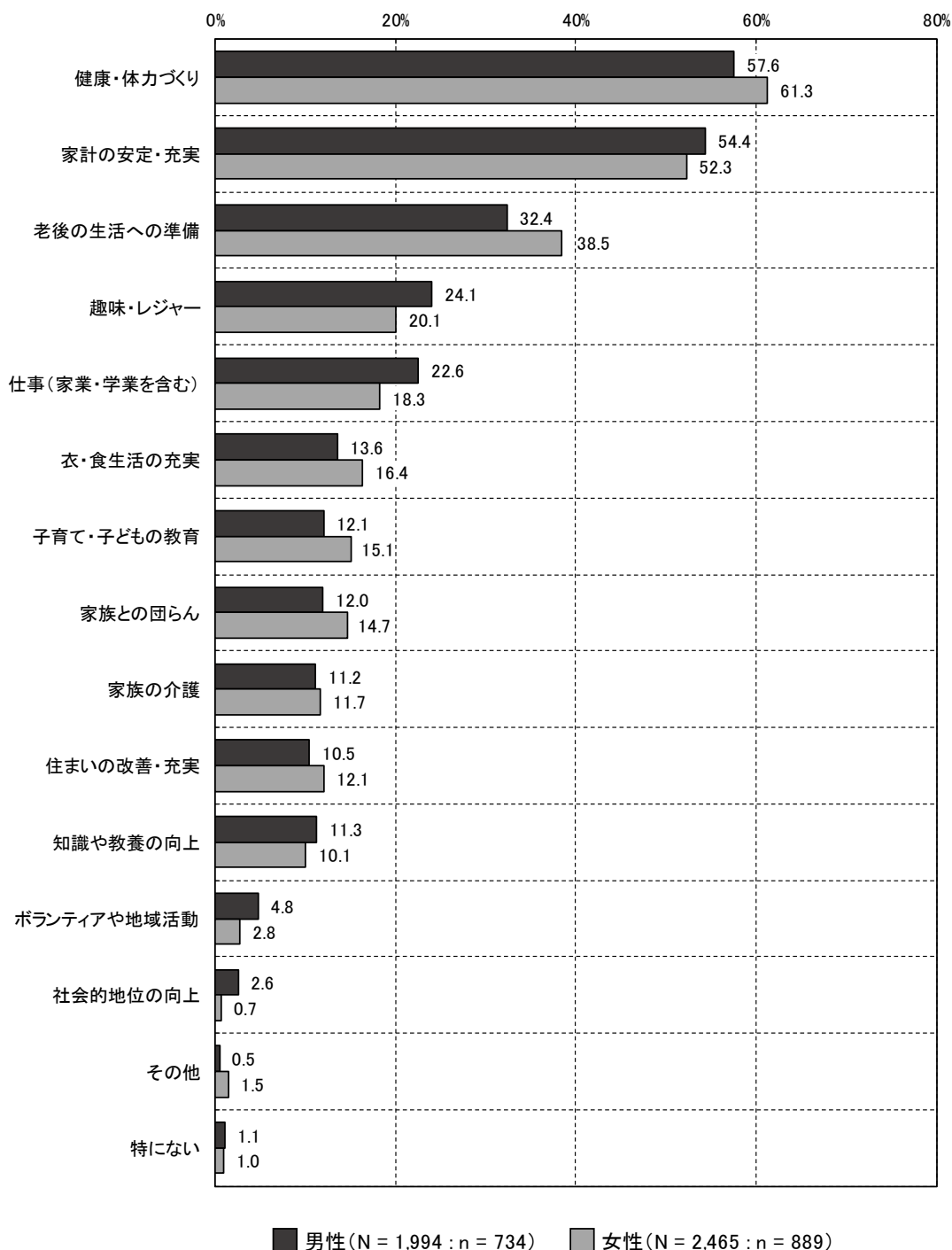
前々回・前回比較（図 4-2）でみると、前々回・前回・今回と一貫して「健康・体力づくり」が最も高く、次いで「家計の安定・充実」、「老後の生活への準備」の順となっている。

図 4-2 【前々回・前回比較】 今後の暮らしの中で重視していきたいこと



性別（図 4-3）でみると、男女ともに「健康・体力づくり」が最も高く、次いで「家計の安定・充実」、「老後の生活への準備」の順となっている。「老後の生活への準備」では女性が男性より 6.1 ポイント高くなっており、「仕事（家業・学業を含む）」では男性が女性より 4.3 ポイント高くなってきている。

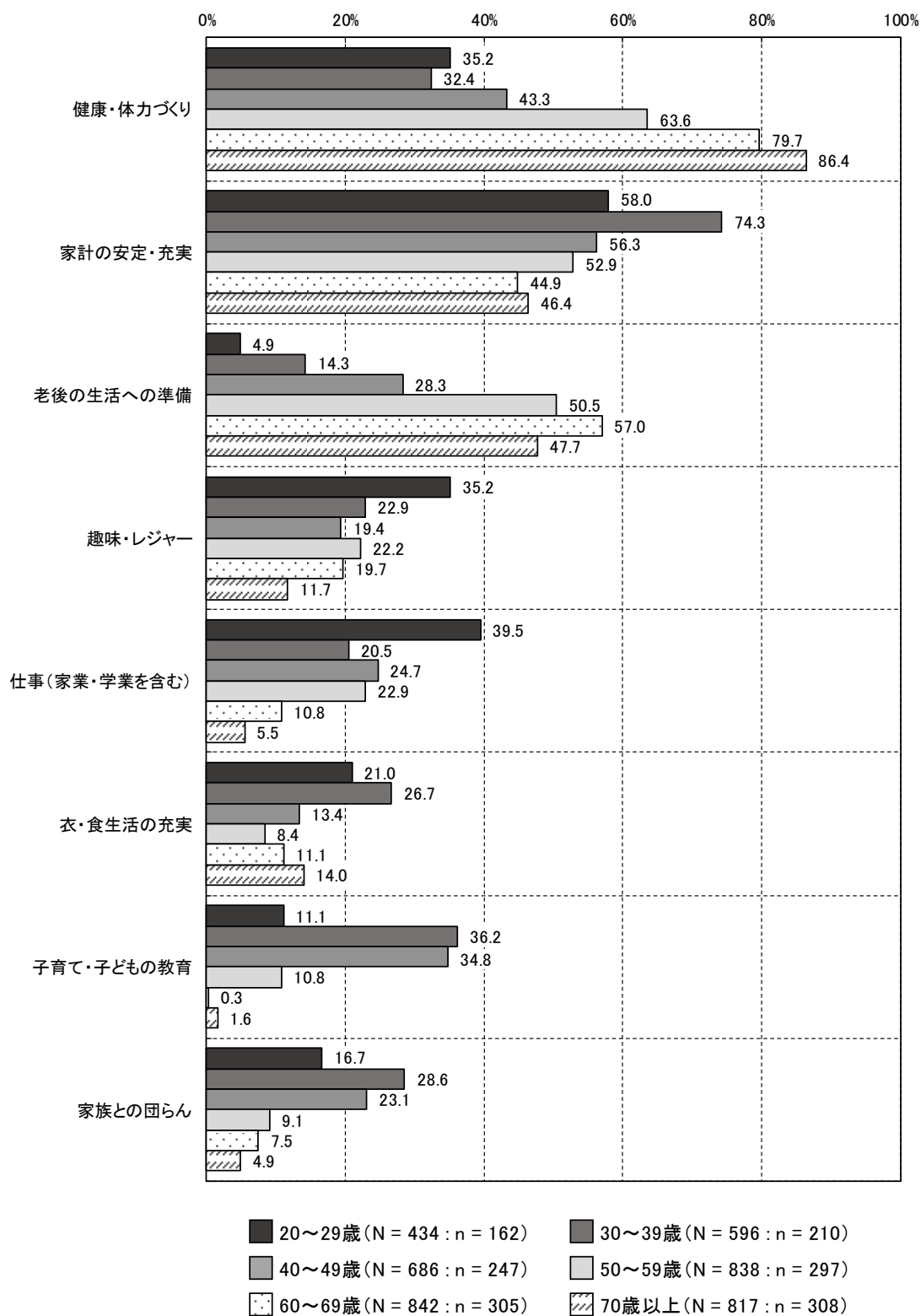
図 4-3 【性別】 今後の暮らしの中で重視していきたいこと



※ N=総回答数 n=回答者数

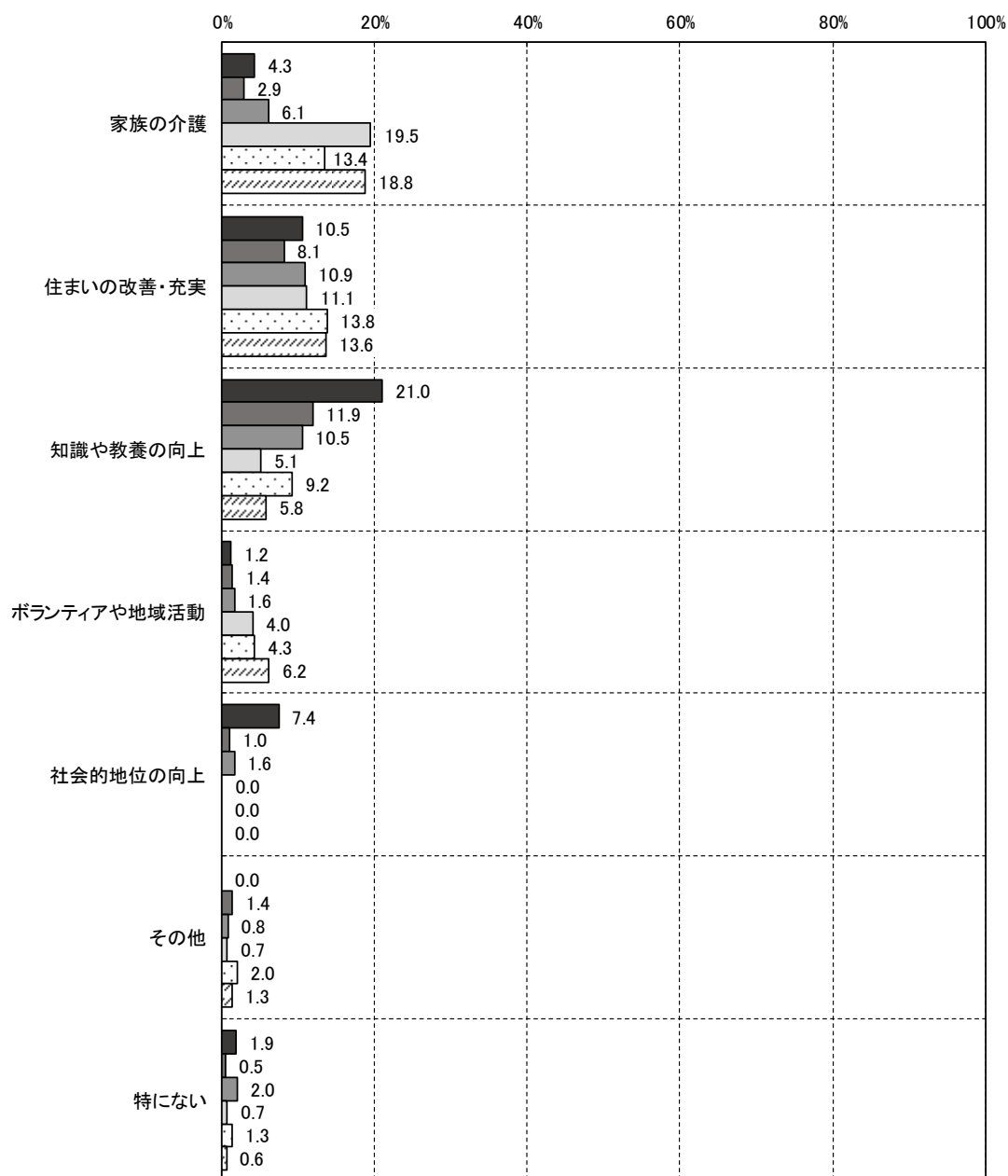
年代別（図 4-4）でみると、20 歳代、30 歳代、40 歳代では「家計の安定・充実」が最も高く、50 歳代、60 歳代、70 歳以上では「健康・体力づくり」が最も高くなっている。20 歳代では「趣味・レジャー」「仕事（家業・学業を含む）」が他の年代に比べて高くなっている。

図 4-4 【年代別】 今後の暮らしの中で重視していきたいこと



※ N=総回答数 n=回答者数

図 4-4 【年代別】 今後の暮らしの中で重視していきたいこと（続き）



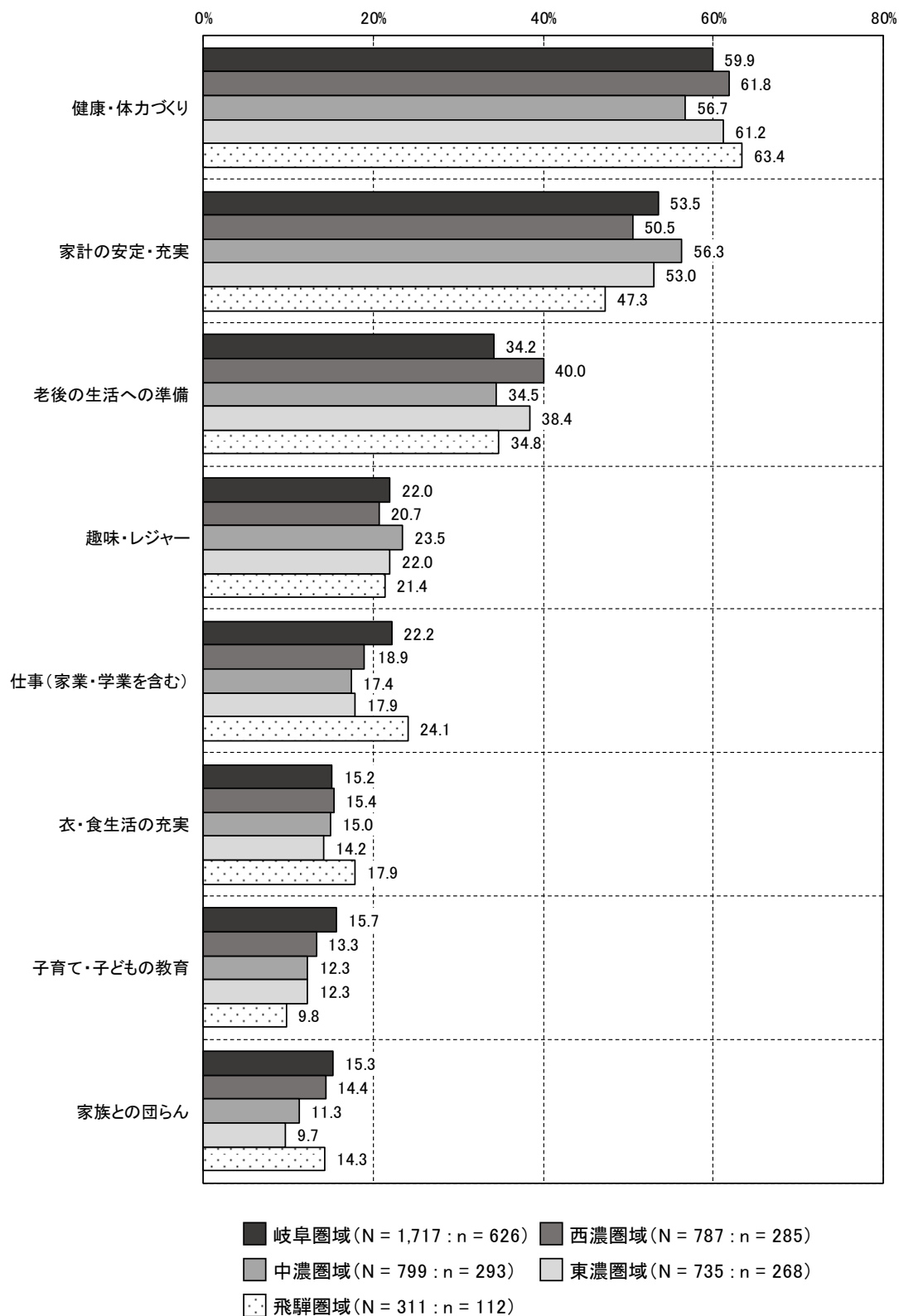
20~29歳 (N = 434 : n = 162)      30~39歳 (N = 596 : n = 210)  
 40~49歳 (N = 686 : n = 247)      50~59歳 (N = 838 : n = 297)  
 60~69歳 (N = 842 : n = 305)      70歳以上 (N = 817 : n = 308)

※ N=総回答数 n=回答者数



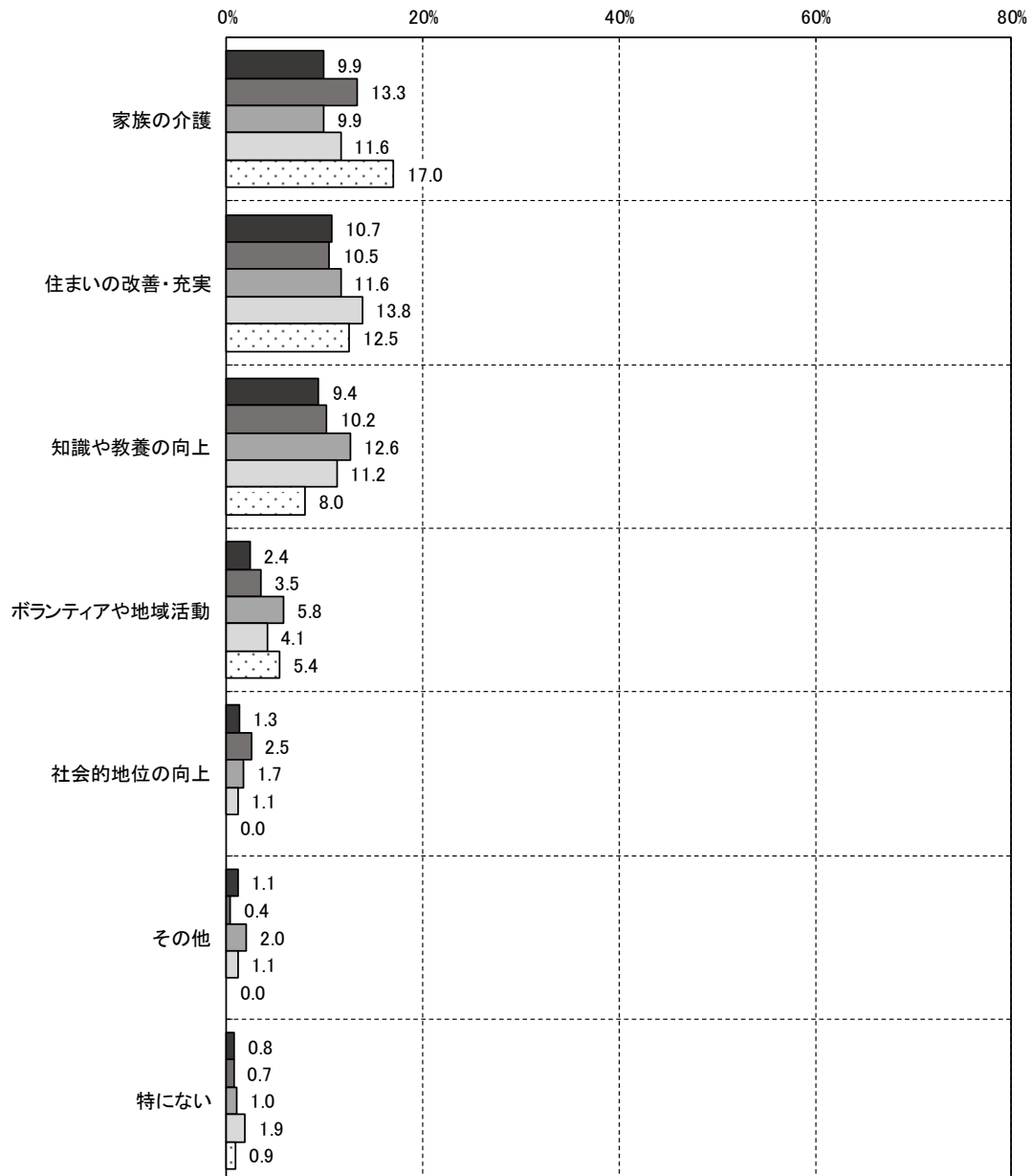
居住圏域別（図 4-5）でみると、いずれの居住圏域においても「健康・体力づくり」が最も高くなっている。

図 4-5 【居住圏域別】 今後の暮らしの中で重視していきたいこと



※ N＝総回答数 n＝回答者数

図 4-5 【居住圏域別】 今後の暮らしの中で重視していきたいこと（続き）

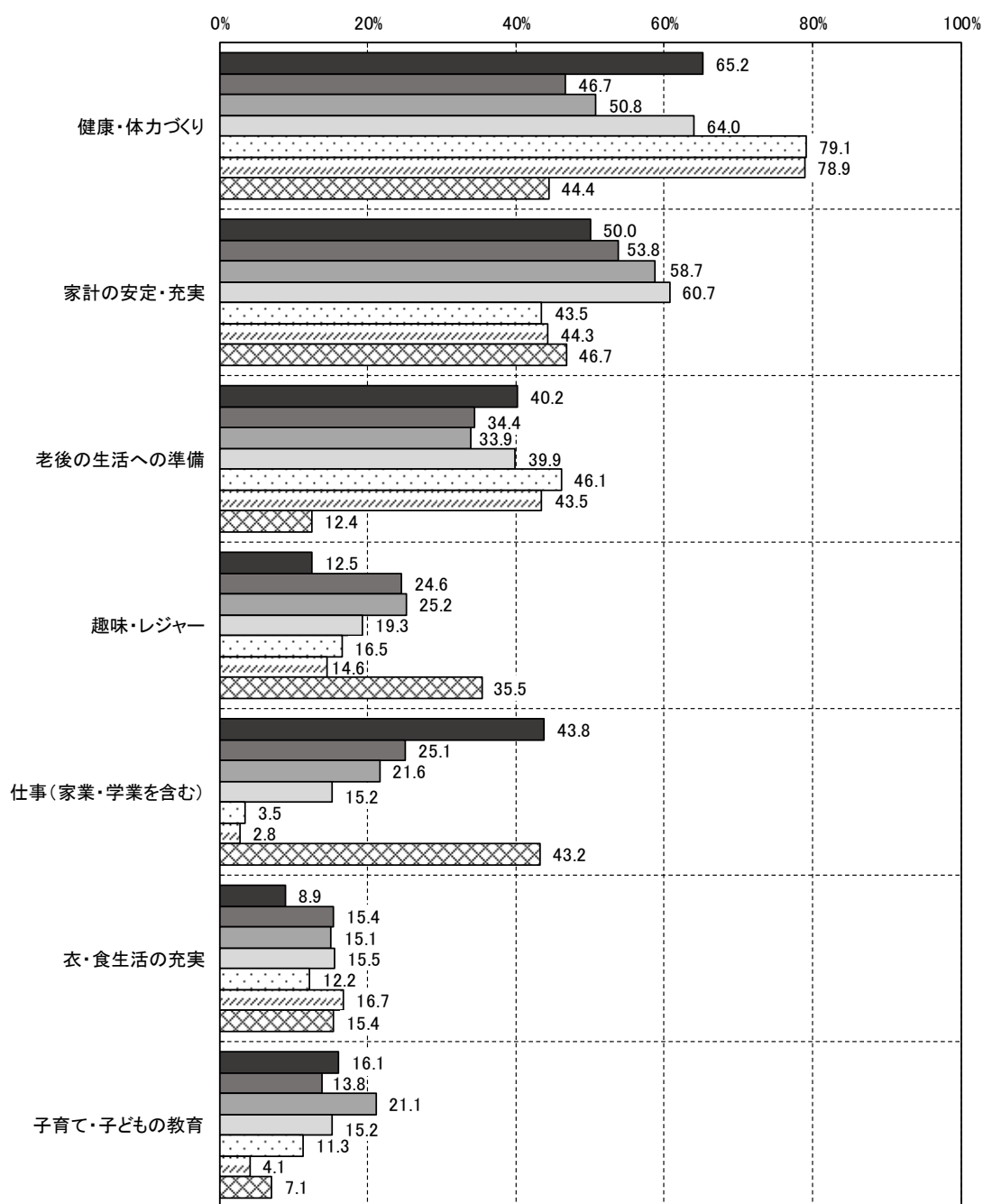


■ 岐阜圏域 (N = 1,717 : n = 626) ■ 西濃圏域 (N = 787 : n = 285)  
 ■ 中濃圏域 (N = 799 : n = 293) ■ 東濃圏域 (N = 735 : n = 268)  
 ■ 飛騨圏域 (N = 311 : n = 112)

※ N＝総回答数 n＝回答者数

職業別（図 4-6）でみると、自営業、パートタイム・アルバイト・派遣、家事従事、無職では「健康・体力づくり」が最も高く、そのうち家事従事が 79.1%と最も高くなっている。会社・団体役員、正規の従業員・職員、その他では「家計の安定・充実」が最も高くなっている。

図 4-6 【職業別】 今後の暮らしの中で重視していきたいこと



■ 自営業 (N = 311 : n = 112)

■ 会社・団体役員 (N = 536 : n = 195)

■ 正規の従業員・職員 (N = 1,244 : n = 445)

■ パートタイム・アルバイト・派遣 (N = 938 : n = 336)

■ 家事従事 (N = 318 : n = 115)

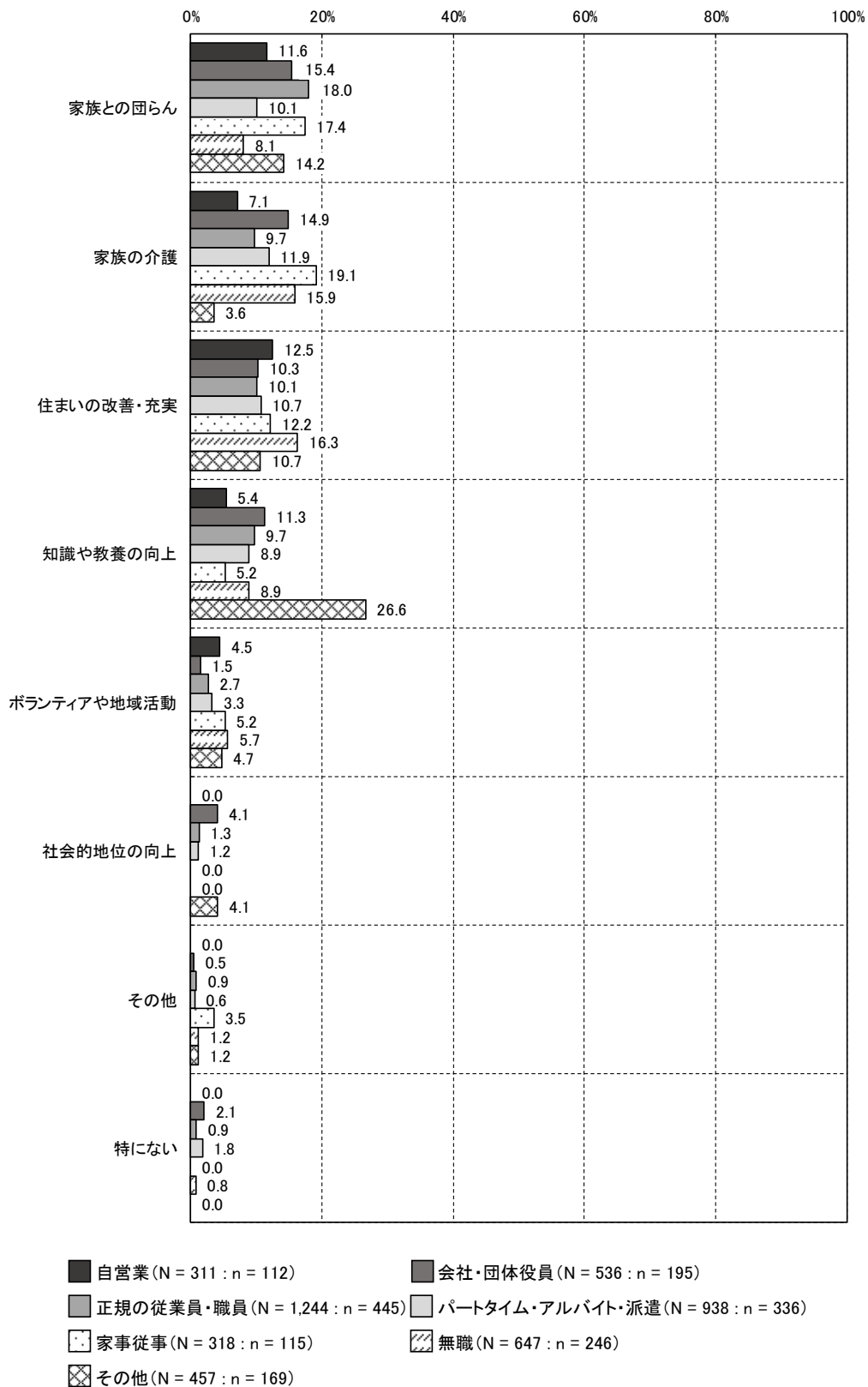
■ 無職 (N = 647 : n = 246)

■ その他 (N = 457 : n = 169)

※ その他には、自由業、学生を含む。

※ N=総回答数 n=回答者数

図 4-6 【職業別】 今後の暮らしの中で重視していきたいこと（続き）



※ その他には、自由業、学生を含む。

※ N＝総回答数 n＝回答者数

## 問5 生活に必要な情報の入手媒体

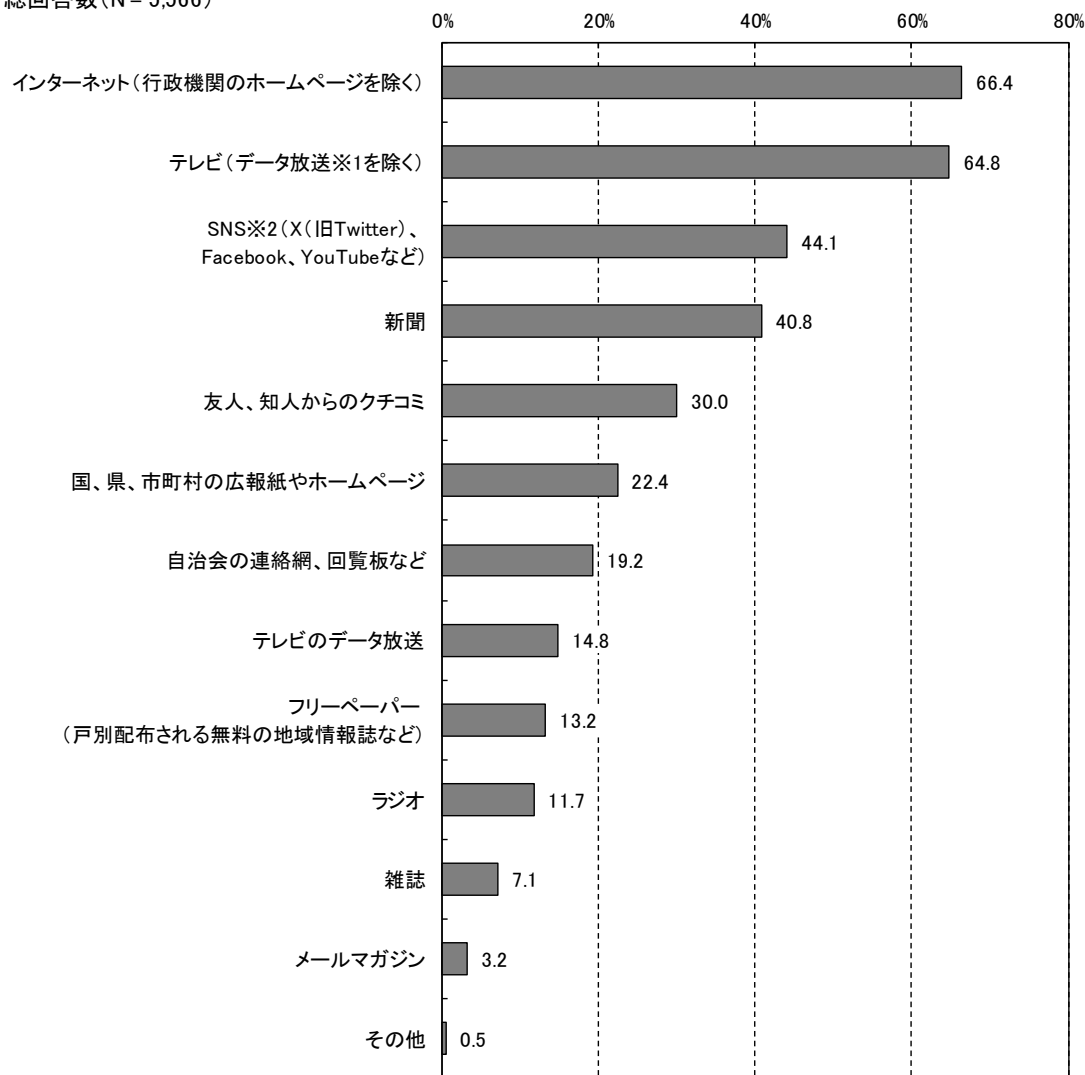
問5 あなたは、生活に必要な情報を何から得ていますか。（いくつでも）

全体（図 5-1）でみると、「インターネット（行政機関のホームページを除く）」が 66.4%と最も高く、次いで「テレビ（データ放送を除く）」（64.8%）、「SNS（X（旧 Twitter）、Facebook、YouTube など）」（44.1%）の順となっている。

図 5-1 生活に必要な情報の入手媒体

回答者数（n = 1,644）

総回答数（N = 5,566）



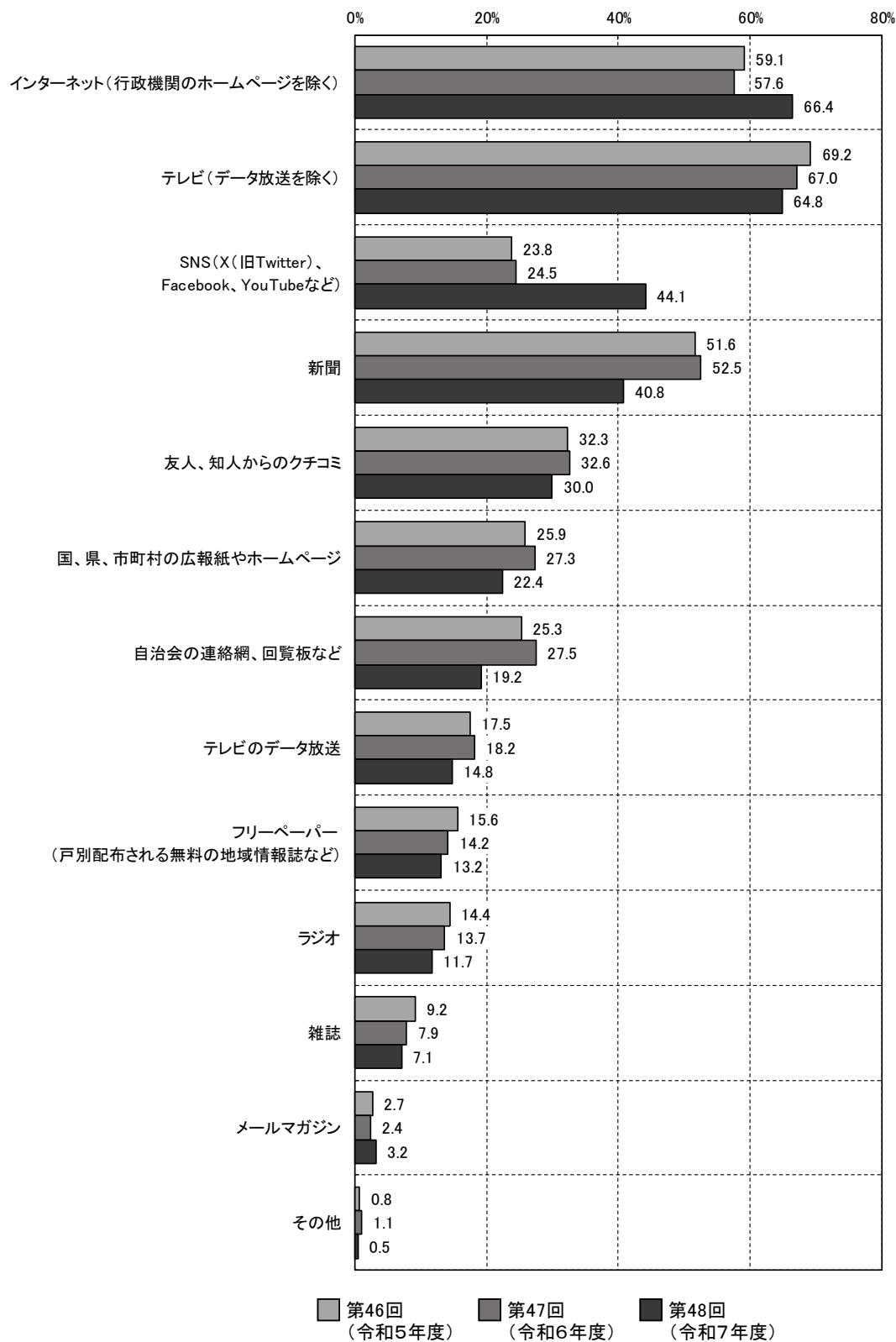
※1 データ放送: リモコンの「dボタン」を押すと天気やニュースなどの情報を入手できるサービス

※2 SNS: ソーシャル・ネットワーキング・サービス

※ 本問における選択肢「SNS（X（旧 Twitter）、Facebook、YouTube など）」は前回調査「フェイスブック、X（旧 Twitter）などの SNS（ソーシャル・ネットワーキング・サービス）」より変更

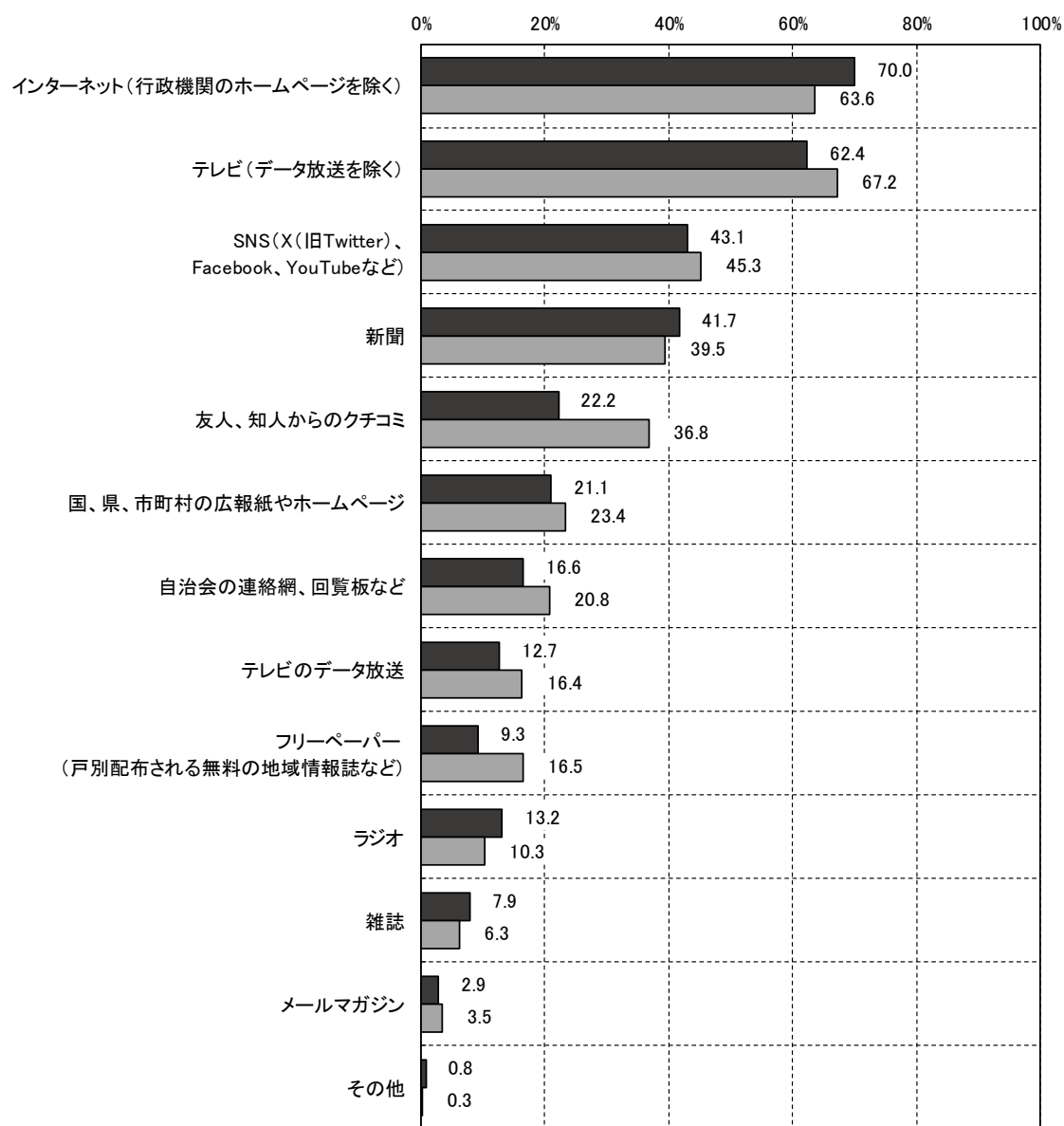
前々回・前回比較（図 5-2）でみると、前回に比べて、「SNS（X（旧 Twitter）、Facebook、YouTube など）」は 19.6 ポイント、「インターネット（行政機関のホームページを除く）」は 8.8 ポイント、それぞれ増加している。一方、「新聞」は前回に比べて 11.7 ポイント減少している。また、「テレビ（データ放送を除く）」が年々低くなっている。

図 5-2 【前々回・前回比較】生活に必要な情報の入手媒体



性別（図5-3）でみると、男性では「インターネット（行政機関のホームページを除く）」（70.0%）、女性では「テレビ（データ放送を除く）」（67.2%）が最も高くなっている。また、「インターネット（行政機関のホームページを除く）」では男性が女性より6.4ポイント、「友人、知人からのクチコミ」では女性が男性より14.6ポイント高くなっている。

図 5-3 【性別】 生活に必要な情報の入手媒体

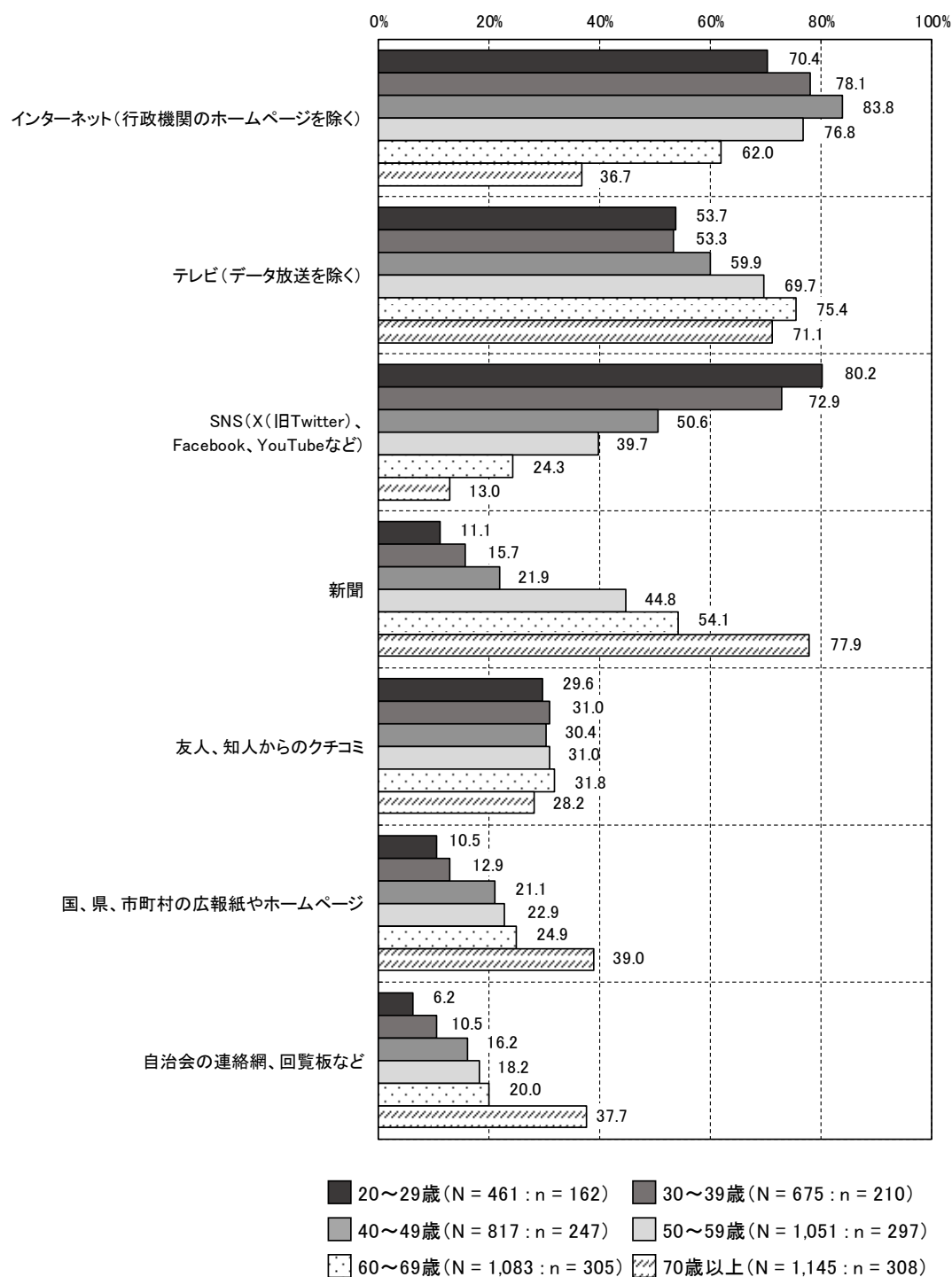


■ 男性(N = 2,380 : n = 734)    ■ 女性(N = 3,112 : n = 889)

※ N=総回答数 n=回答者数

年代別（図 5-4）でみると、20 歳代では「SNS（X（旧 Twitter）、Facebook、YouTube など）」、30 歳代、40 歳代、50 歳代では「インターネット（行政機関のホームページを除く）」、60 歳代では「テレビ（データ放送を除く）」、70 歳以上では「新聞」が最も高くなっている。また、「新聞」、「国、県、市町村の広報紙やホームページ」、「自治会の連絡網、回覧板など」は年代が上がるにつれて高くなっている。一方で、「SNS（X（旧 Twitter）、Facebook、YouTube など）」は年代が下がるにつれて高くなっている。

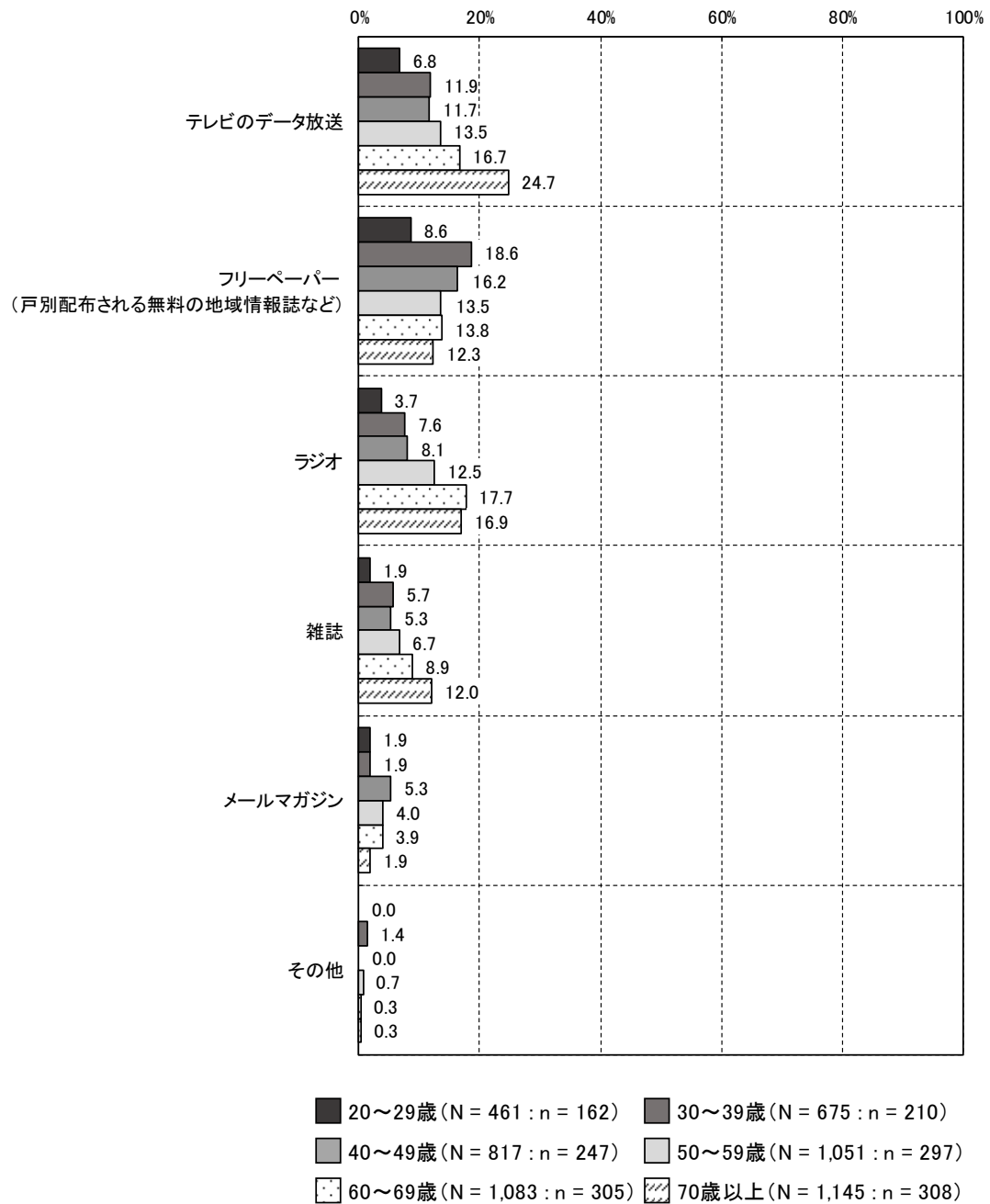
図 5-4 【年代別】生活に必要な情報の入手媒体



※ N=総回答数 n=回答者数



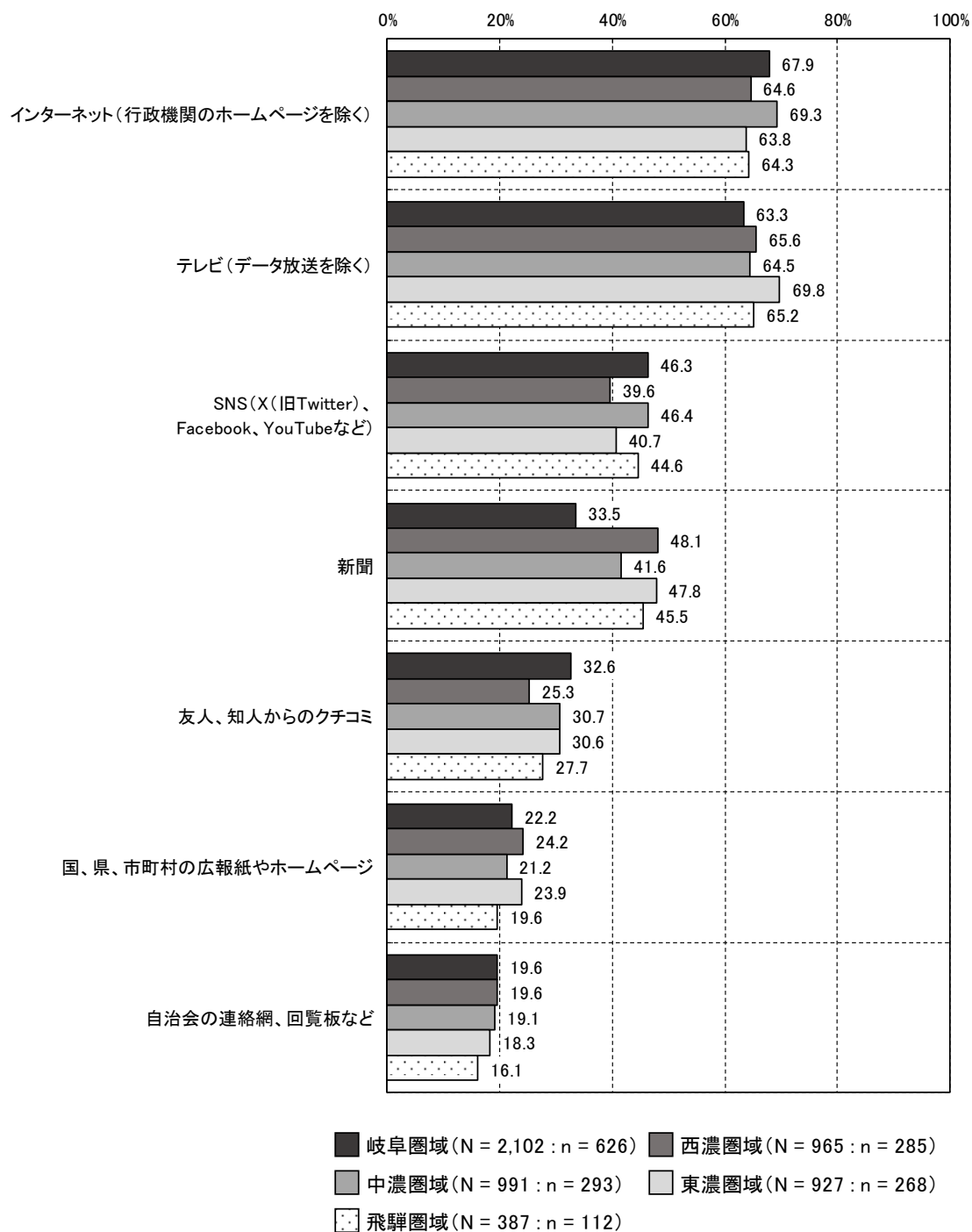
図 5-4 【年代別】生活に必要な情報の入手媒体（続き）



※ N=総回答数 n=回答者数

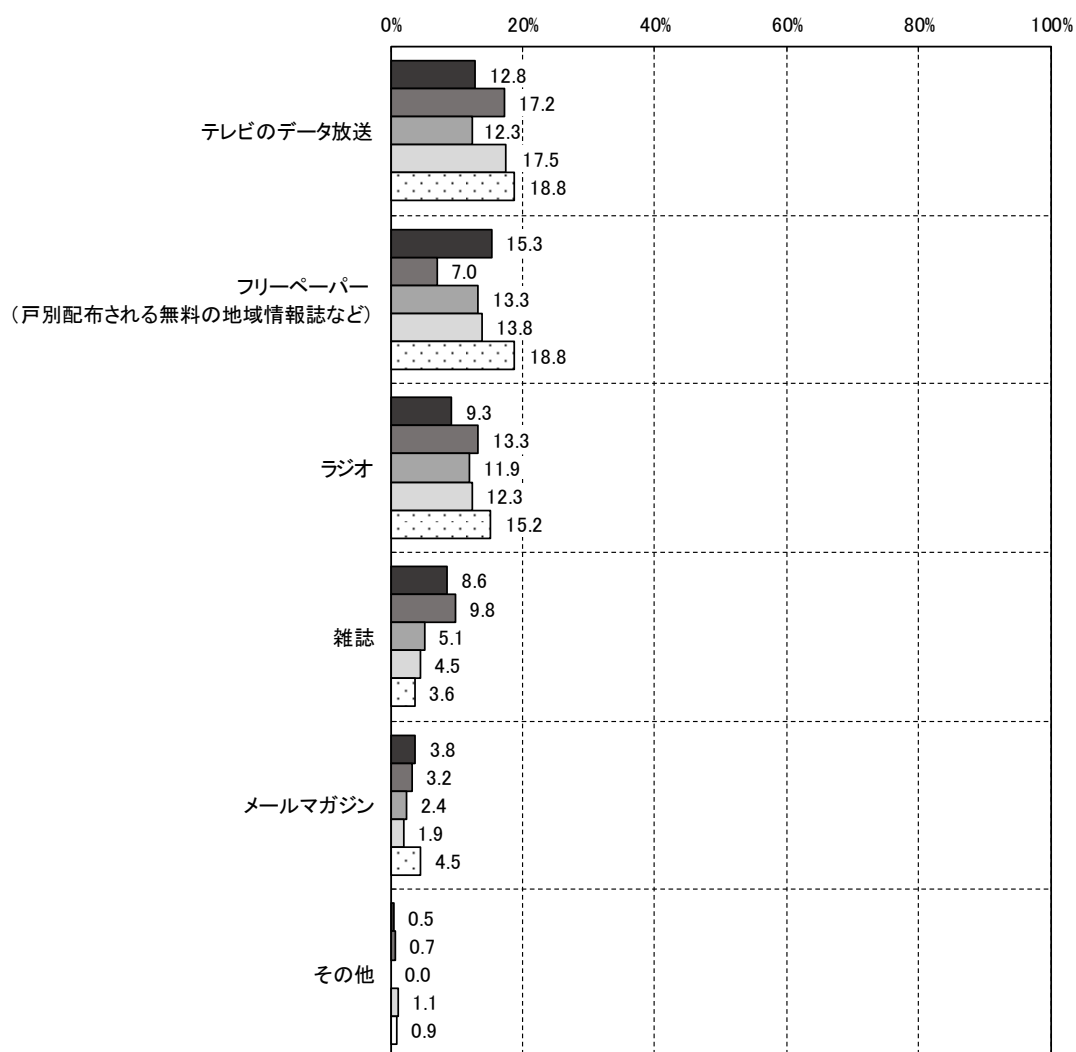
居住圏域別（図 5-5）でみると、岐阜圏域、中濃圏域では「インターネット（行政機関のホームページを除く）」が最も高く、西濃圏域、東濃圏域、飛騨圏域では「テレビ（データ放送を除く）」が最も高くなっている。

図 5-5 【居住圏域別】生活に必要な情報の入手媒体



※ N=総回答数 n=回答者数

図 5-5 【居住圏域別】 生活に必要な情報の入手媒体 （続き）



■ 岐阜圏域 (N = 2,102 : n = 626) ■ 西濃圏域 (N = 965 : n = 285)  
 ■ 中濃圏域 (N = 991 : n = 293) ■ 東濃圏域 (N = 927 : n = 268)  
 ■ 飛騨圏域 (N = 387 : n = 112)

※ N=総回答数 n=回答者数

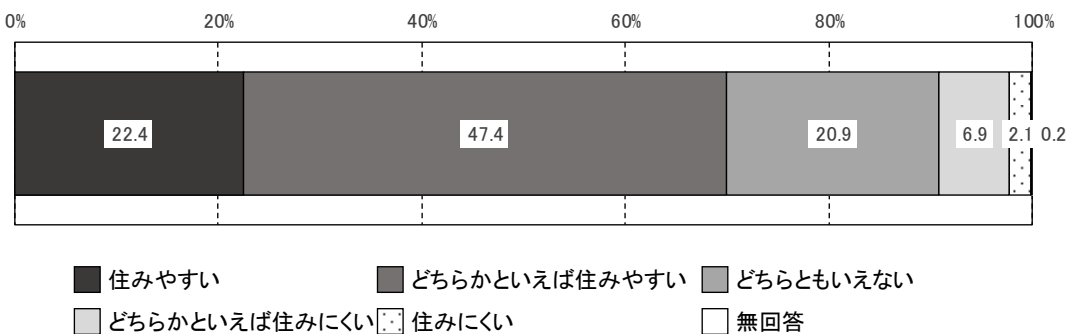
## 問6 現在住んでいる地域は住みやすいか

問6 あなたにとって、現在お住まいの地域は住みやすいですか。（1つだけ）

全体（図6-1）でみると、「どちらかといえば住みやすい」が47.4%と最も高くなっている。次いで「住みやすい」（22.4%）、「どちらともいえない」（20.9%）の順となっている。

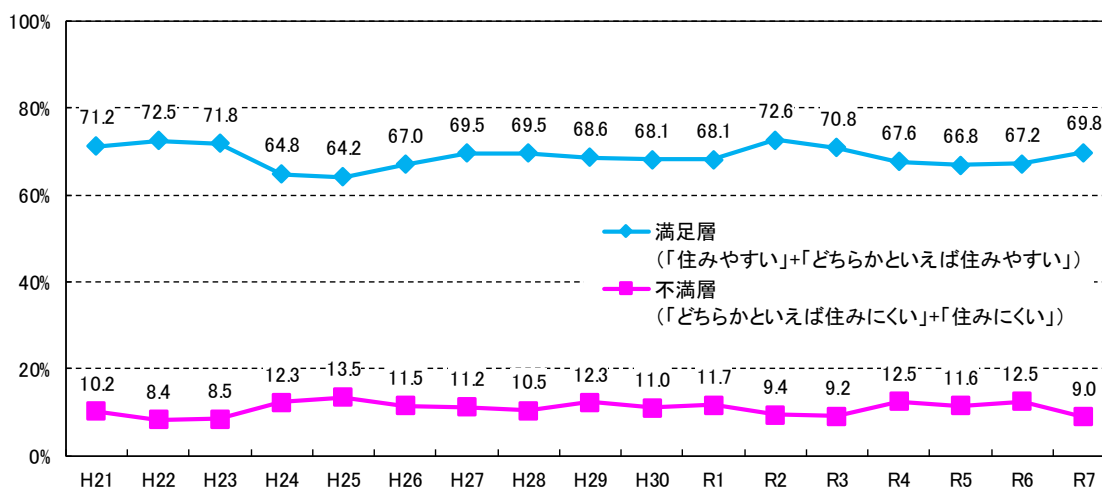
図6-1 現在住んでいる地域は住みやすいか

回答者数(n=1,644)



経年変化（図6-2）でみると、令和7年は、前年に比べて「不満層」（「どちらかといえば住みにくい」+「住みにくい」）が3.5ポイント減少しており、「満足層」（「住みやすい」+「どちらかといえば住みやすい」）が2.6ポイント増加している。

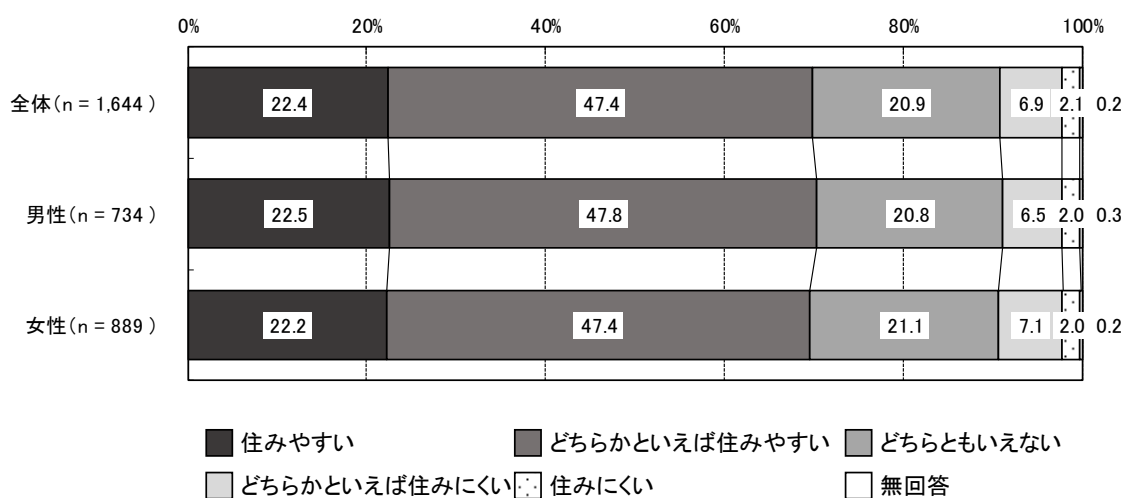
図6-2【経年変化】現在住んでいる地域は住みやすいか



※ 平成21年度から調査

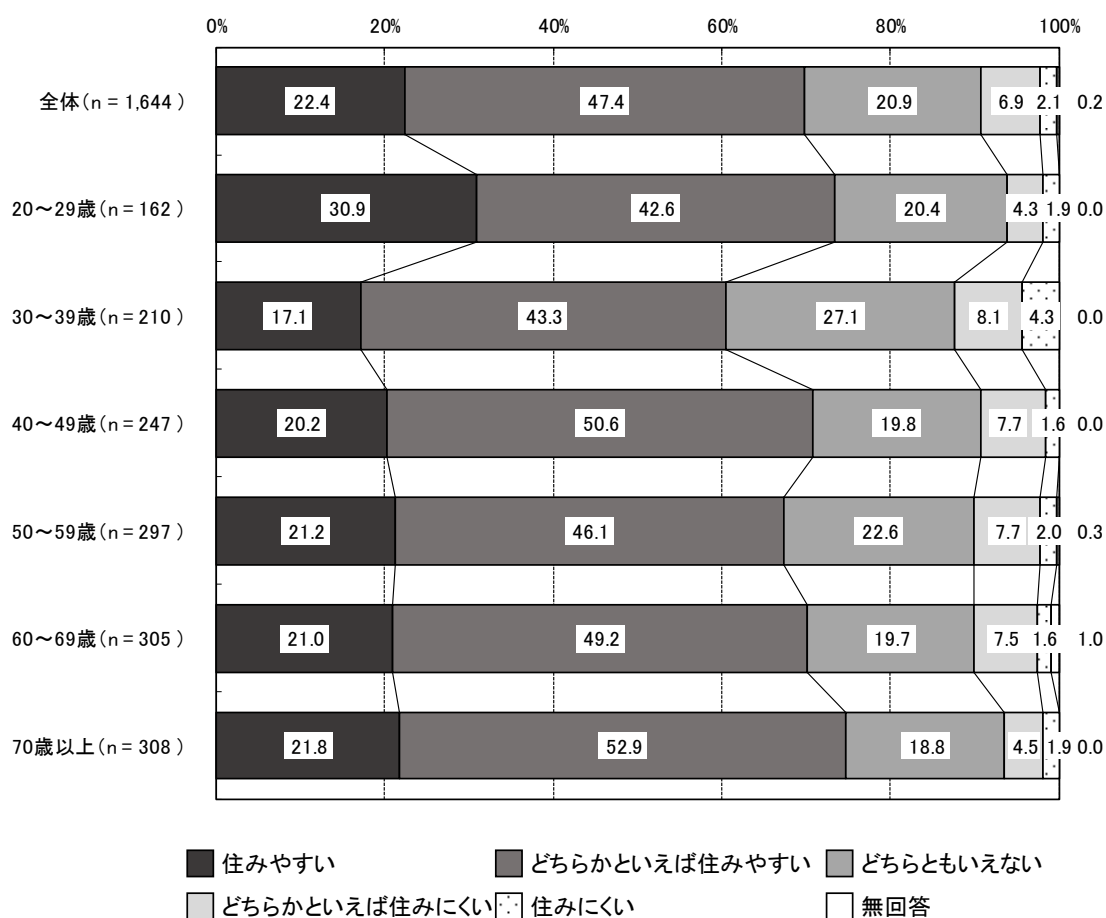
性別（図 6-3）でみると、男女ともに「どちらかといえば住みやすい」が最も高く、男性が 47.8%、女性が 47.4%となっている。

図 6-3 【性別】 現在住んでいる地域は住みやすいか



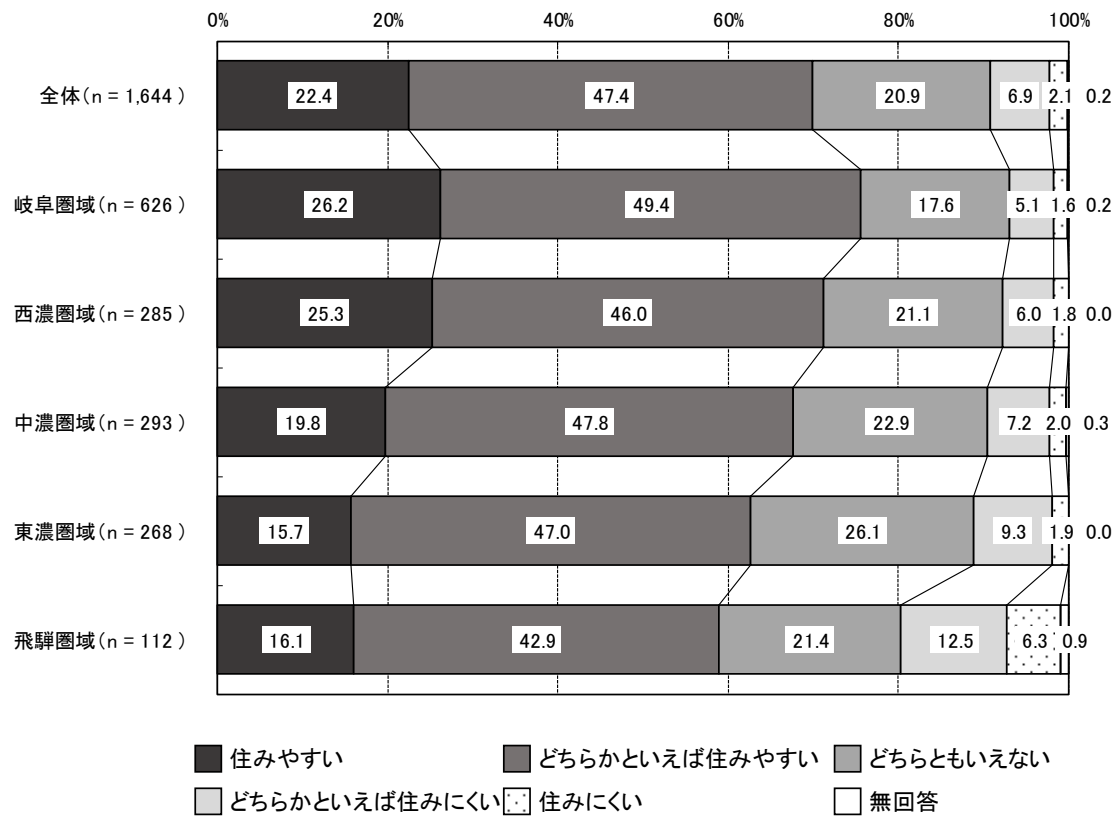
年代別（図 6-4）でみると、いずれの年代においても「どちらかといえば住みやすい」が最も高くなっている。

図 6-4 【年代別】 現在住んでいる地域は住みやすいか



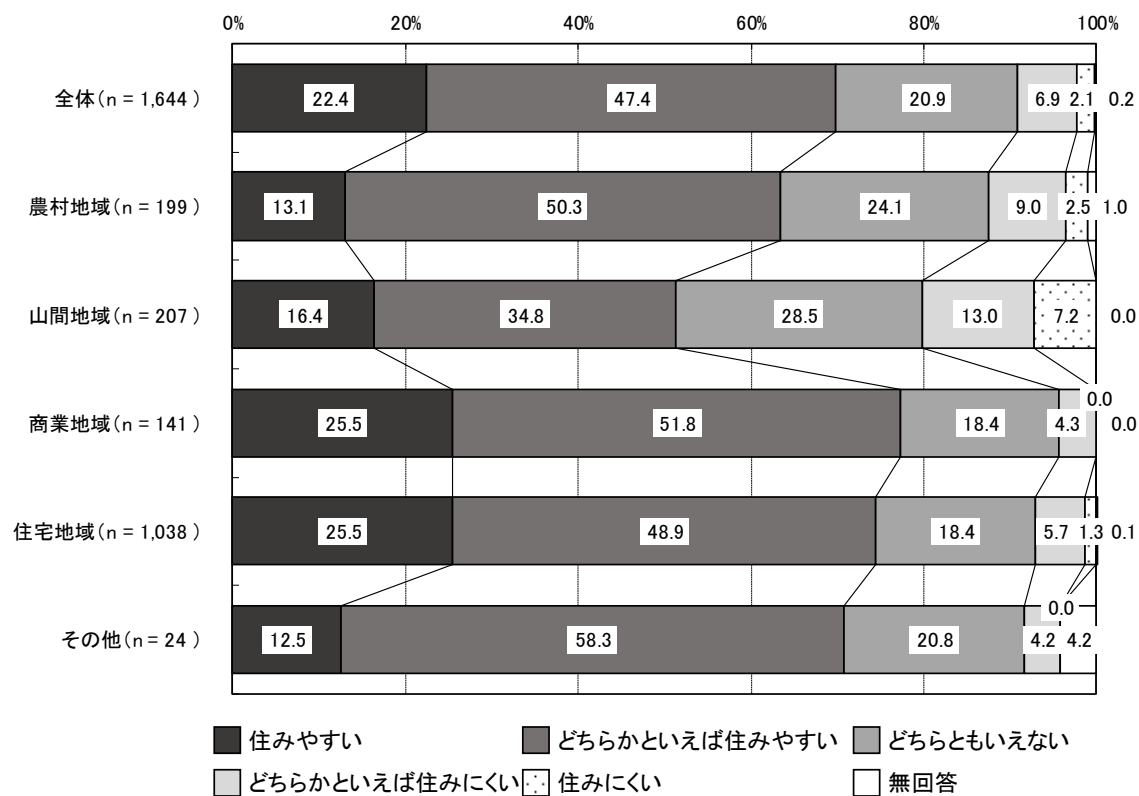
居住圏域別（図 6-5）でみると、いずれの居住圏域においても「どちらかといえば住みやすい」が最も高くなっている。飛騨圏域は「不満層」（「どちらかといえば住みにくい」+「住みにくい」）が 18.8%と、他の居住圏域に比べて高くなっている。

図 6-5 【居住圏域別】 現在住んでいる地域は住みやすいか



居住環境別（図 6-6）でみると、いずれの居住環境においても「どちらかといえば住みやすい」が最も高くなっている。山間地域では「不満層」（「どちらかといえば住みにくい」＋「住みにくい」）が 20.2%と、他の居住環境に比べて高くなっている。

図 6-6 【居住環境別】 現在住んでいる地域は住みやすいか



## 問6-2 住んでいる地域が住みやすいと感じる点

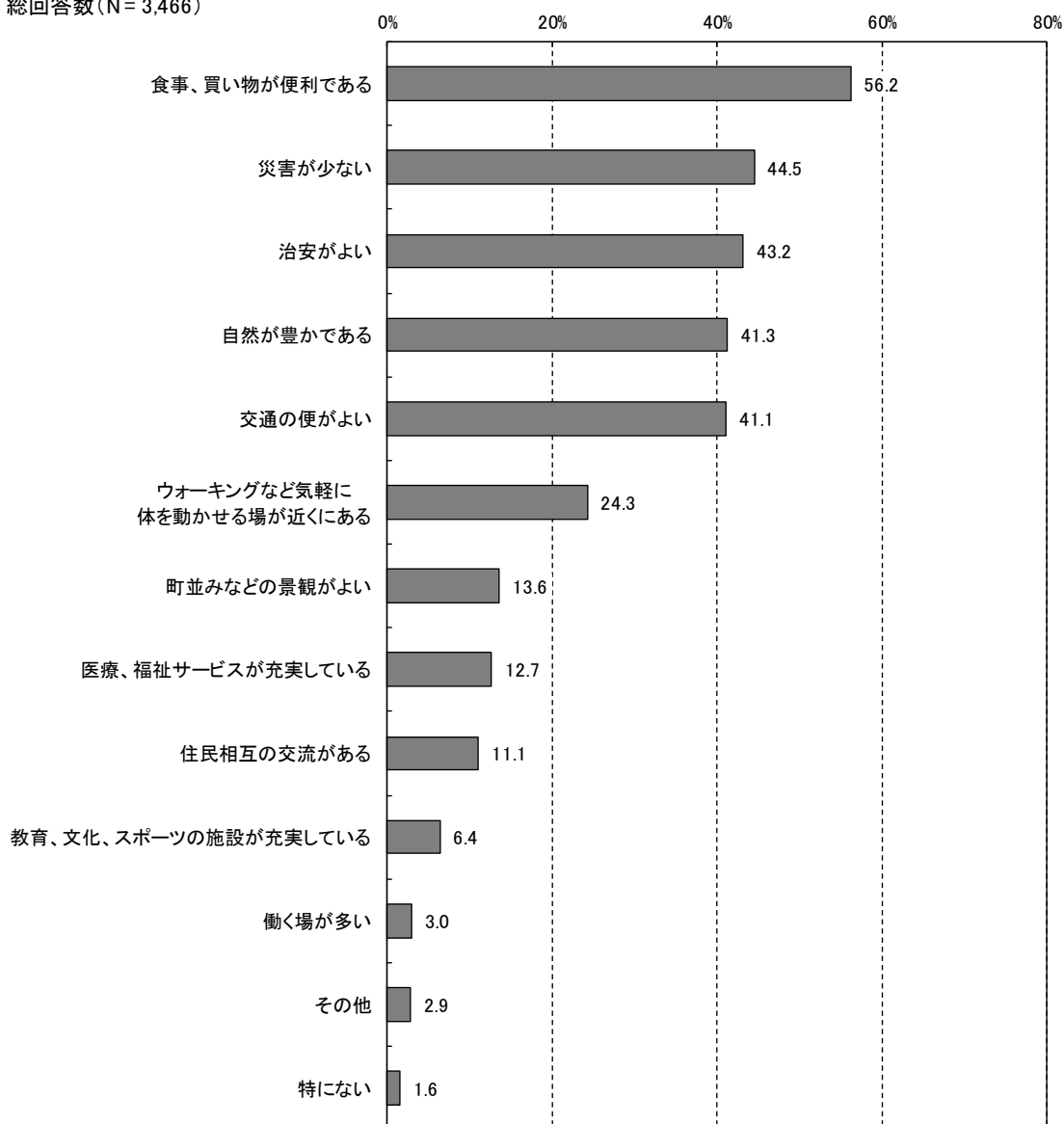
問6-2 「住みやすい」「どちらかといえば住みやすい」と答えた方にお尋ねします。  
あなたが、現在お住まいの地域が住みやすいと感じるのは、特にどのような点ですか。（いくつでも）

全体（図6-2-1）でみると、「食事、買い物が便利である」が56.2%と最も高く、次いで「災害が少ない」（44.5%）、「治安がよい」（43.2%）、「自然が豊かである」（41.3%）の順となっている。

図6-2-1 住んでいる地域が住みやすいと感じる点

回答者数(n=1,148)※

総回答数(N=3,466)

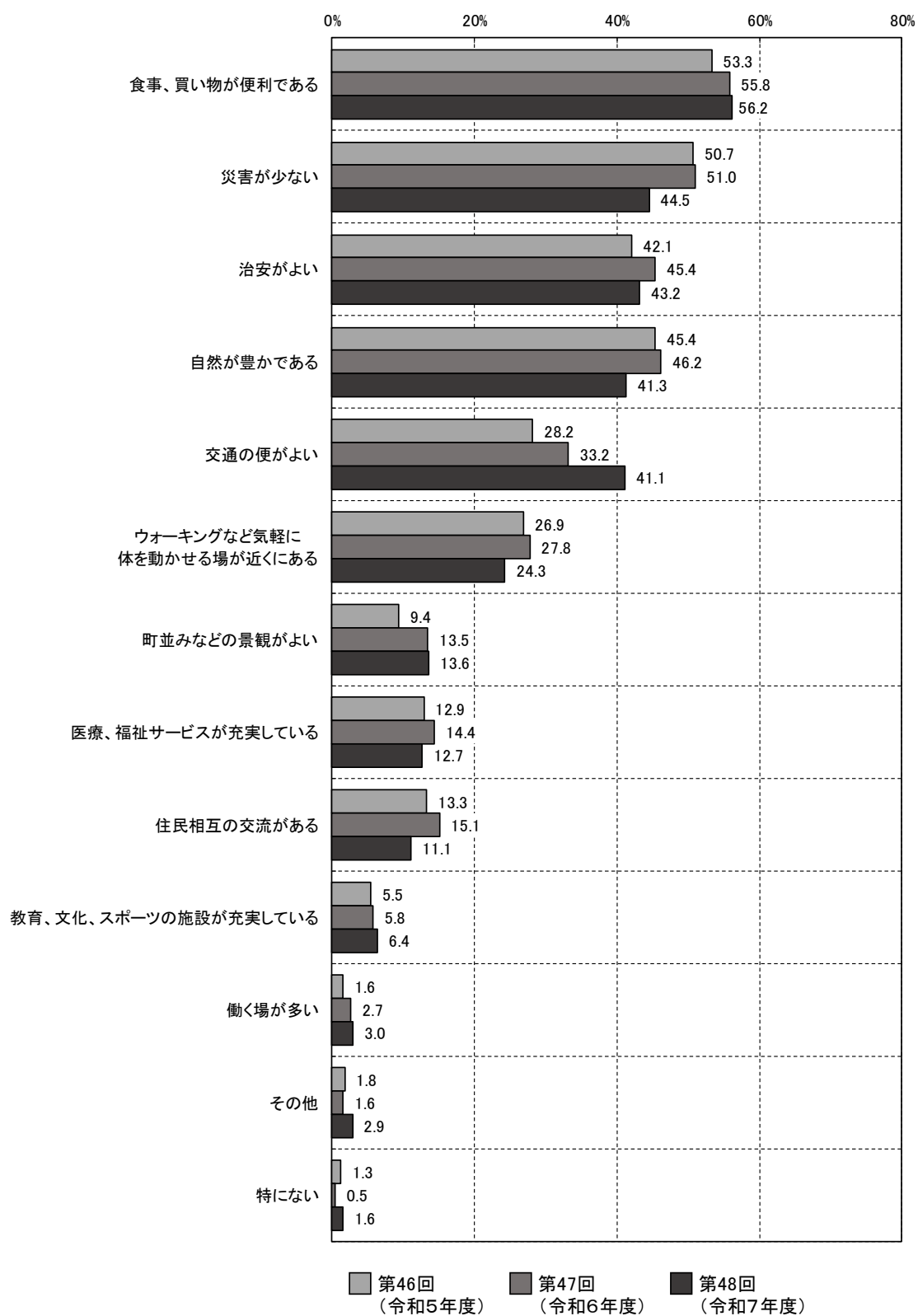


※ 問6で「住みやすい」「どちらかといえば住みやすい」と答えた方のみ



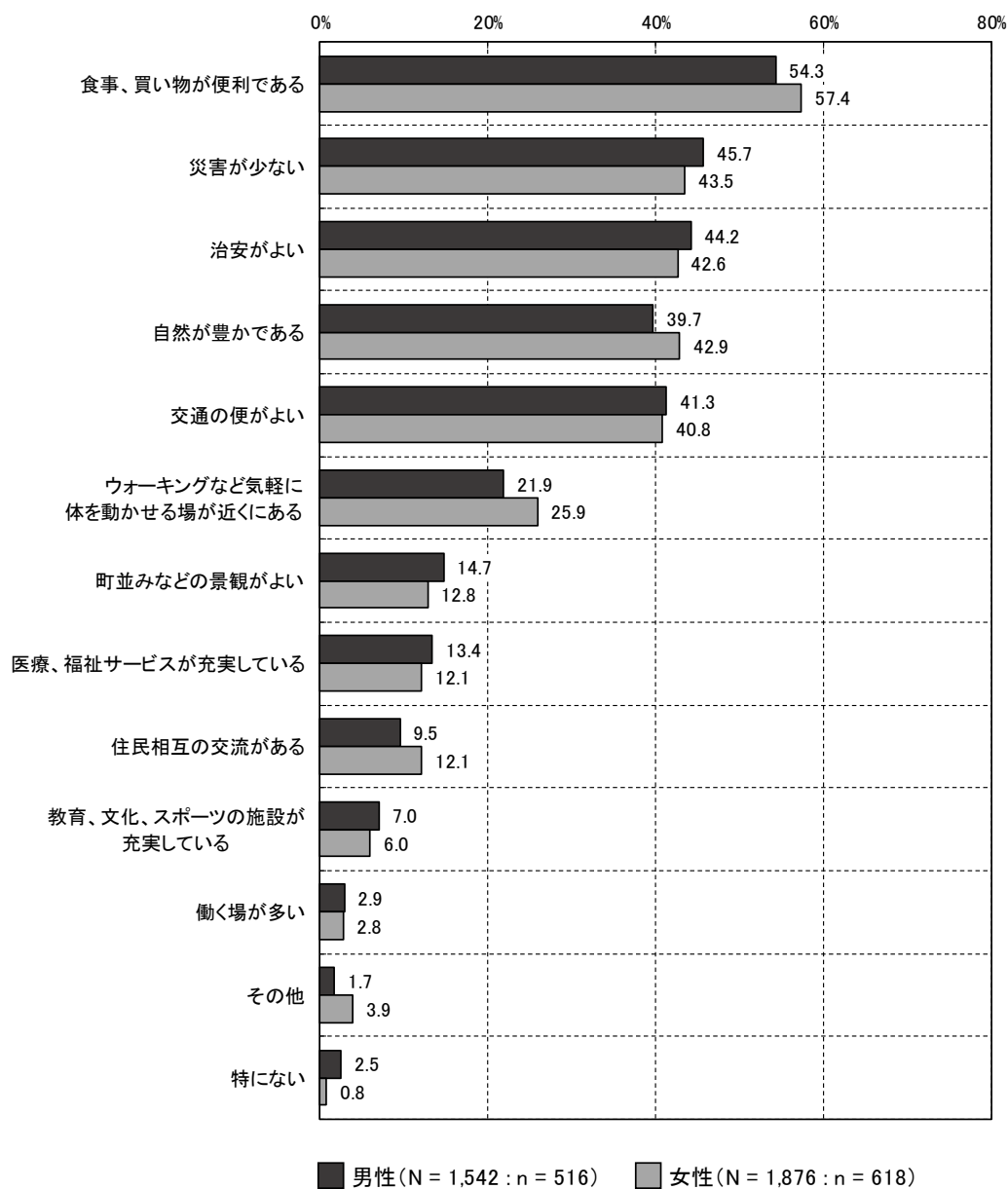
前々回・前回比較（図 6-2-2）でみると、前々回・前回・今回と一貫して「食事、買い物が便利である」が最も高くなっている。前回に比べて、「交通の便がよい」は7.9ポイント増加し、「災害が少ない」は6.5ポイント減少している。

図 6-2-2 【前々回・前回比較】 住んでいる地域が住みやすいと感じる点



性別（図 6-2-3）でみると、男女ともに「食事、買い物が便利である」が最も高く、男性が 54.3%、女性が 57.4%となっている。次いで「災害が少ない」の順となっている。

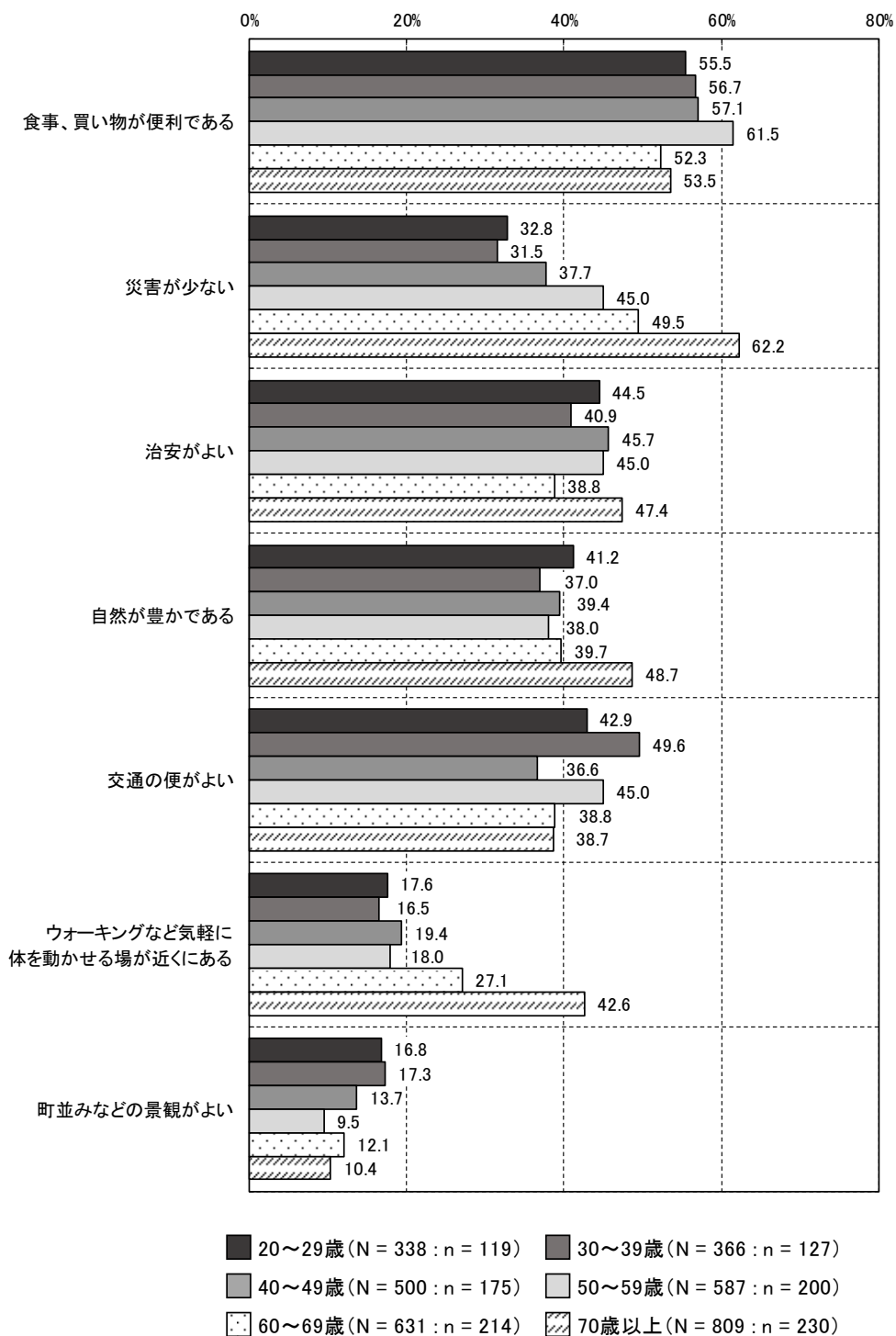
図 6-2-3 【性別】住んでいる地域が住みやすいと感じる点



※ N=総回答数 n=回答者数

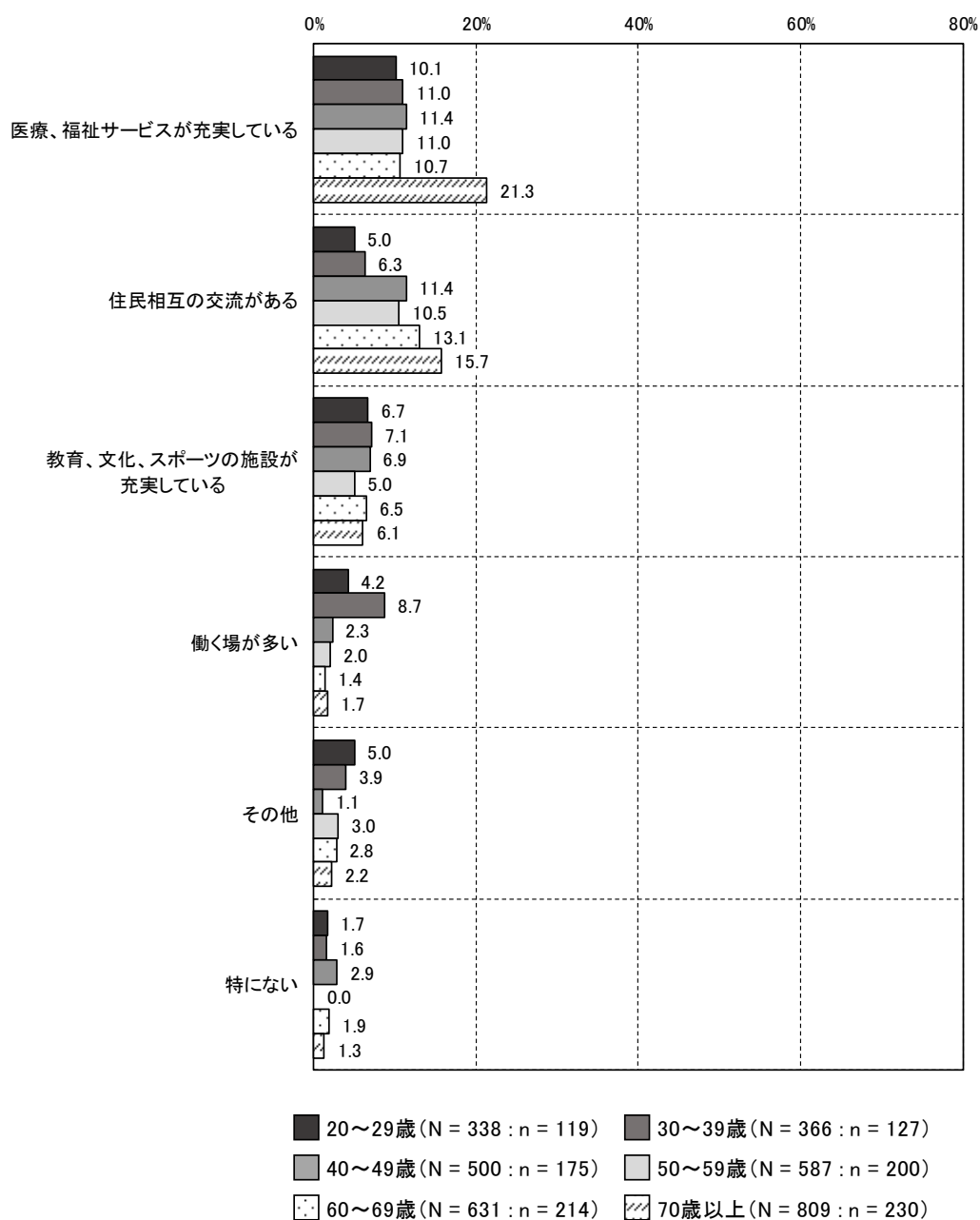
年代別（図 6-2-4）でみると、70 歳以上を除くいずれの年代においても「食事、買い物が便利である」が最も高く、70 歳以上では「災害が少ない」が最も高くなっている。30 歳代では「交通の便がよい」、70 歳以上では「災害が少ない」「自然が豊かである」「ウォーキングなど気軽に体を動かせる場が近くにある」が他の年代に比べて高くなっている。

図 6-2-4 【年代別】住んでいる地域が住みやすいと感じる点



※ N=総回答数 n=回答者数

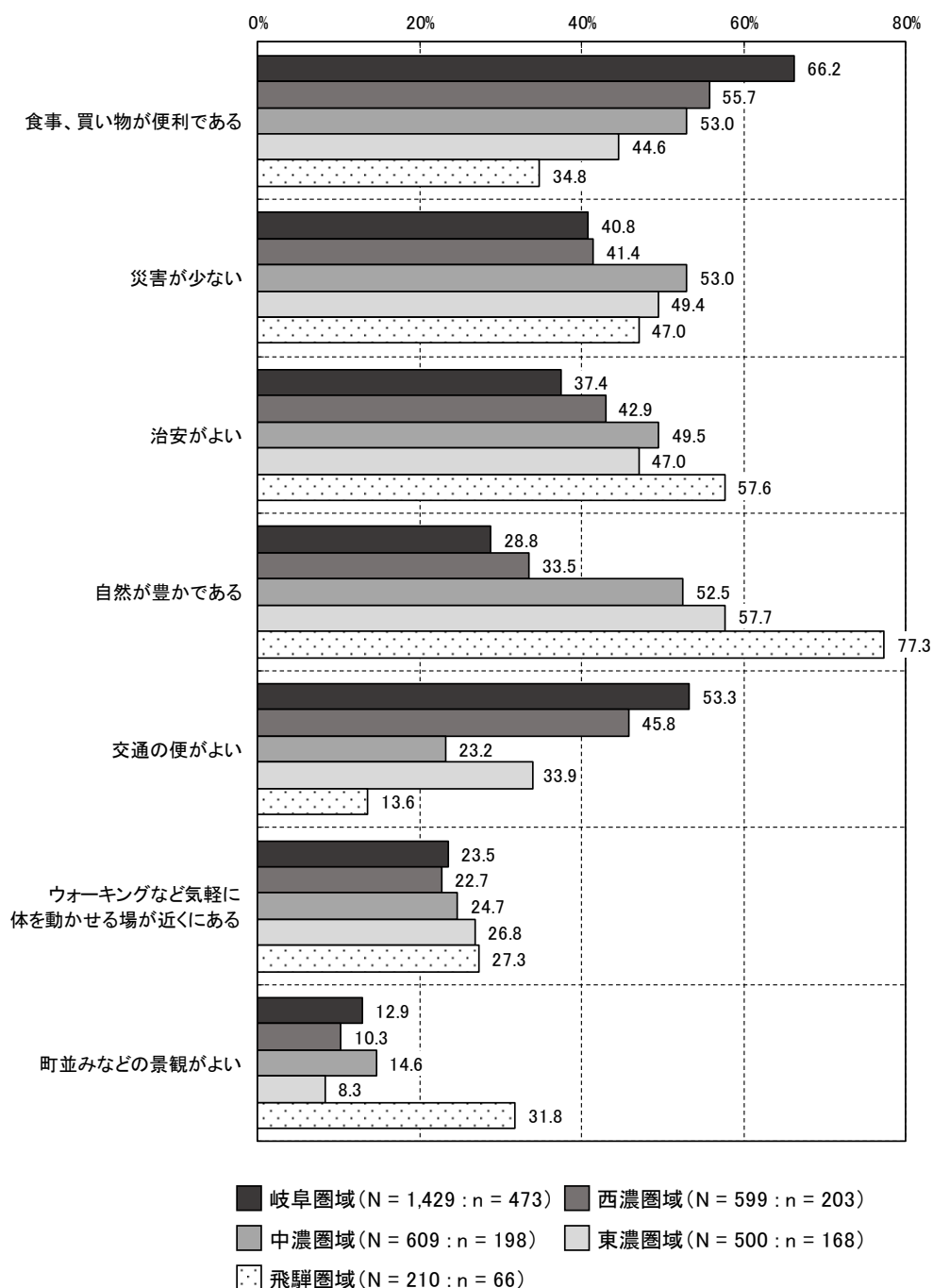
図 6-2-4 【年代別】住んでいる地域が住みやすいと感じる点（続き）



※ N=総回答数 n=回答者数

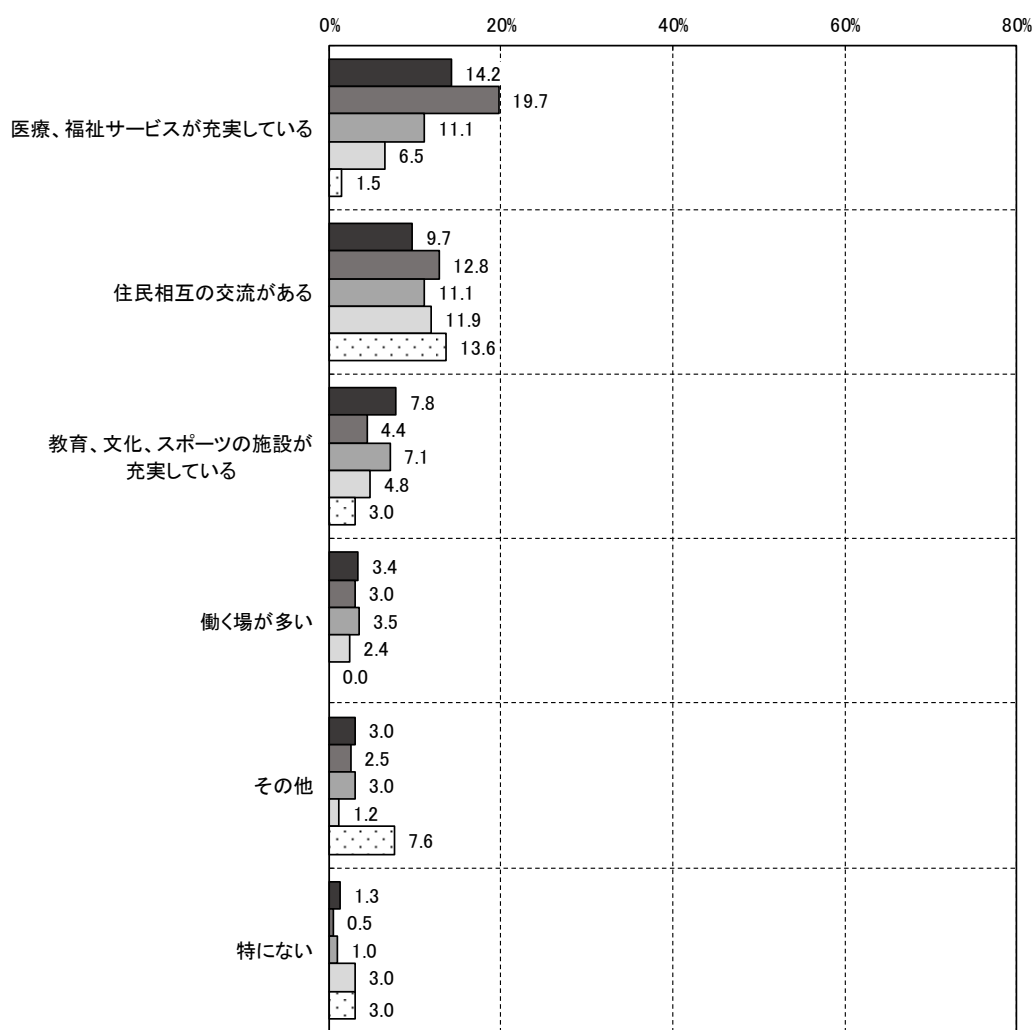
居住圏域別（図 6-2-5）でみると、岐阜圏域、西濃圏域では「食事、買い物が便利である」、東濃圏域、飛騨圏域では「自然が豊かである」が最も高く、中濃圏域では「食事、買い物が便利である」「災害が少ない」が同率で最も高くなっている。

図 6-2-5 【居住圏域別】住んでいる地域が住みやすいと感じる点



※ N=総回答数 n=回答者数

図 6-2-5 【居住圏域別】 住んでいる地域が住みやすいと感じる点（続き）



■ 岐阜圏域 (N = 1,429 : n = 473) ■ 西濃圏域 (N = 599 : n = 203)  
 ■ 中濃圏域 (N = 609 : n = 198) ■ 東濃圏域 (N = 500 : n = 168)  
 ■ 飛騨圏域 (N = 210 : n = 66)

※ N＝総回答数 n＝回答者数

### 問6-3 住んでいる地域が住みにくいと感じる点

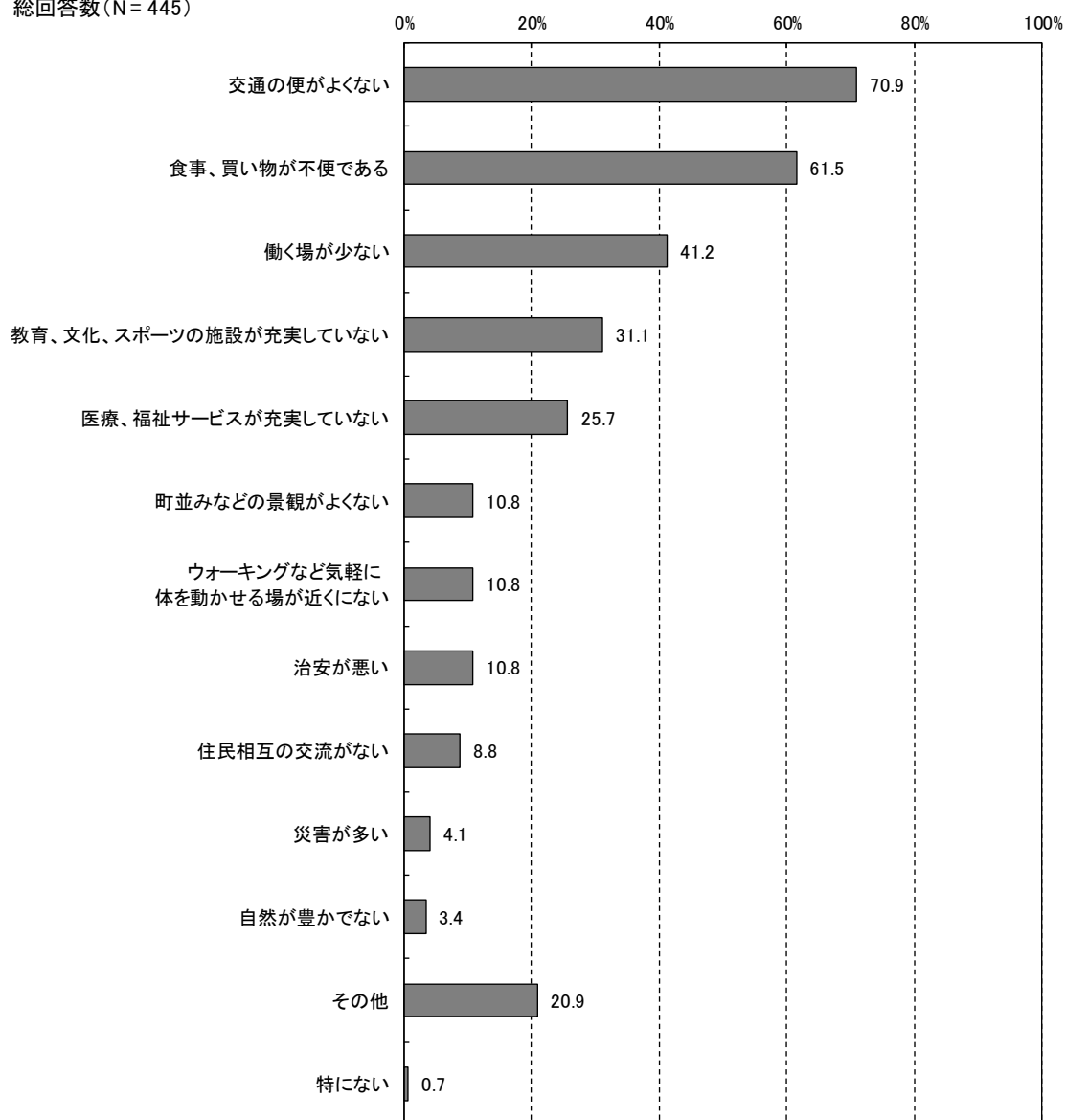
問6-3 「どちらかといえば住みにくい」「住みにくい」と答えた方にお尋ねします。  
あなたが、現在お住まいの地域が住みにくいと感じるのは、特にどのような点ですか。（いくつでも）

全体（図6-3-1）でみると、「交通の便がよいくない」が70.9%と最も高く、次いで「食事、買い物に不便である」（61.5%）、「働く場が少ない」（41.2%）の順となっている。

図6-3-1 住んでいる地域が住みにくいと感じる点

回答者数(n=148)※

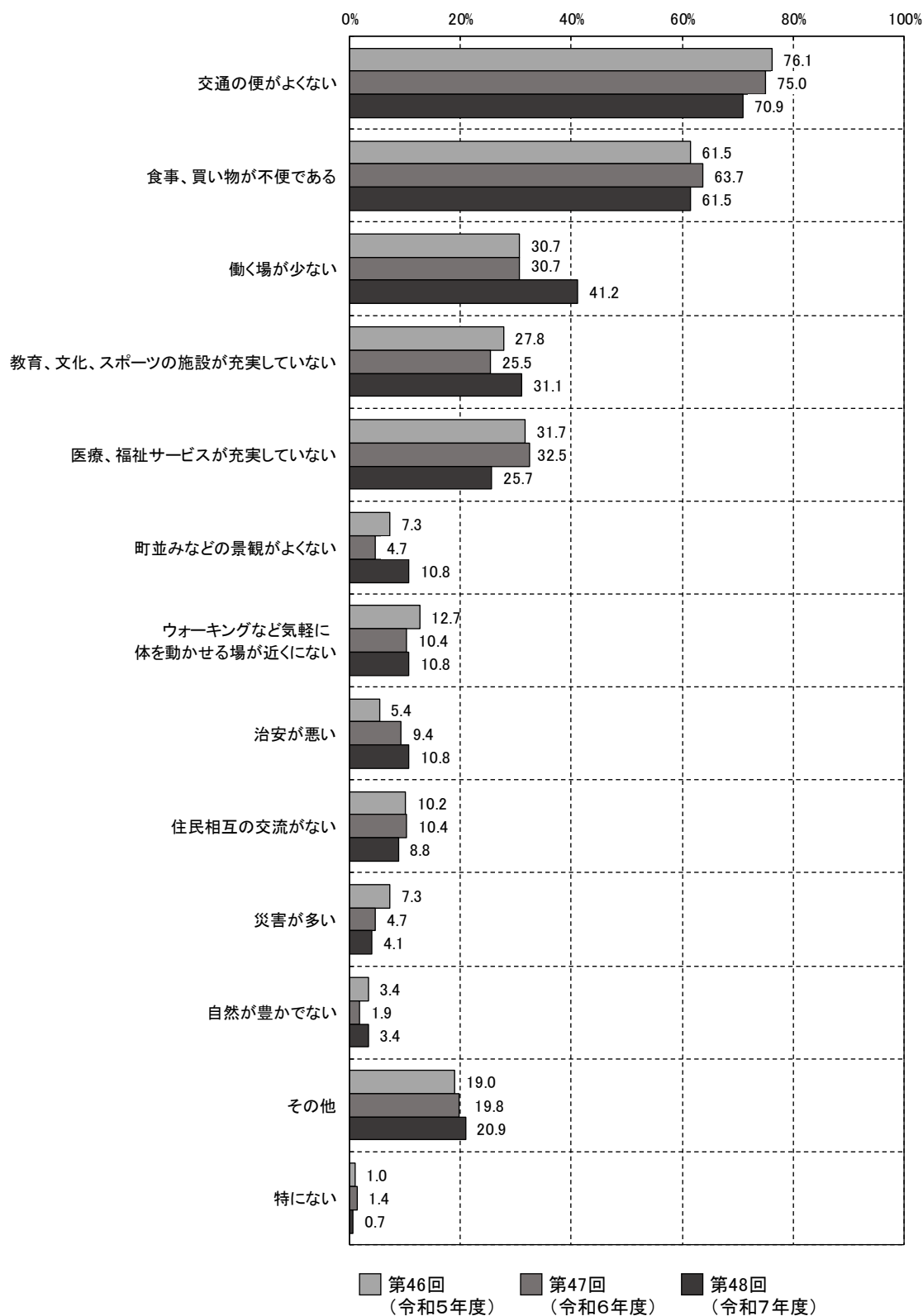
総回答数(N=445)



※ 問6で「どちらかといえば住みにくい」「住みにくい」と答えた方のみ

前々回・前回比較（図 6-3-2）でみると、前々回・前回・今回と一貫して「交通の便がよくない」が最も高く、次いで「食事、買い物が不便である」の順となっている。前回に比べて、「働く場が少ない」は 10.5 ポイント、「教育、文化、スポーツの施設が充実していない」は 5.6 ポイント、それぞれ増加している。

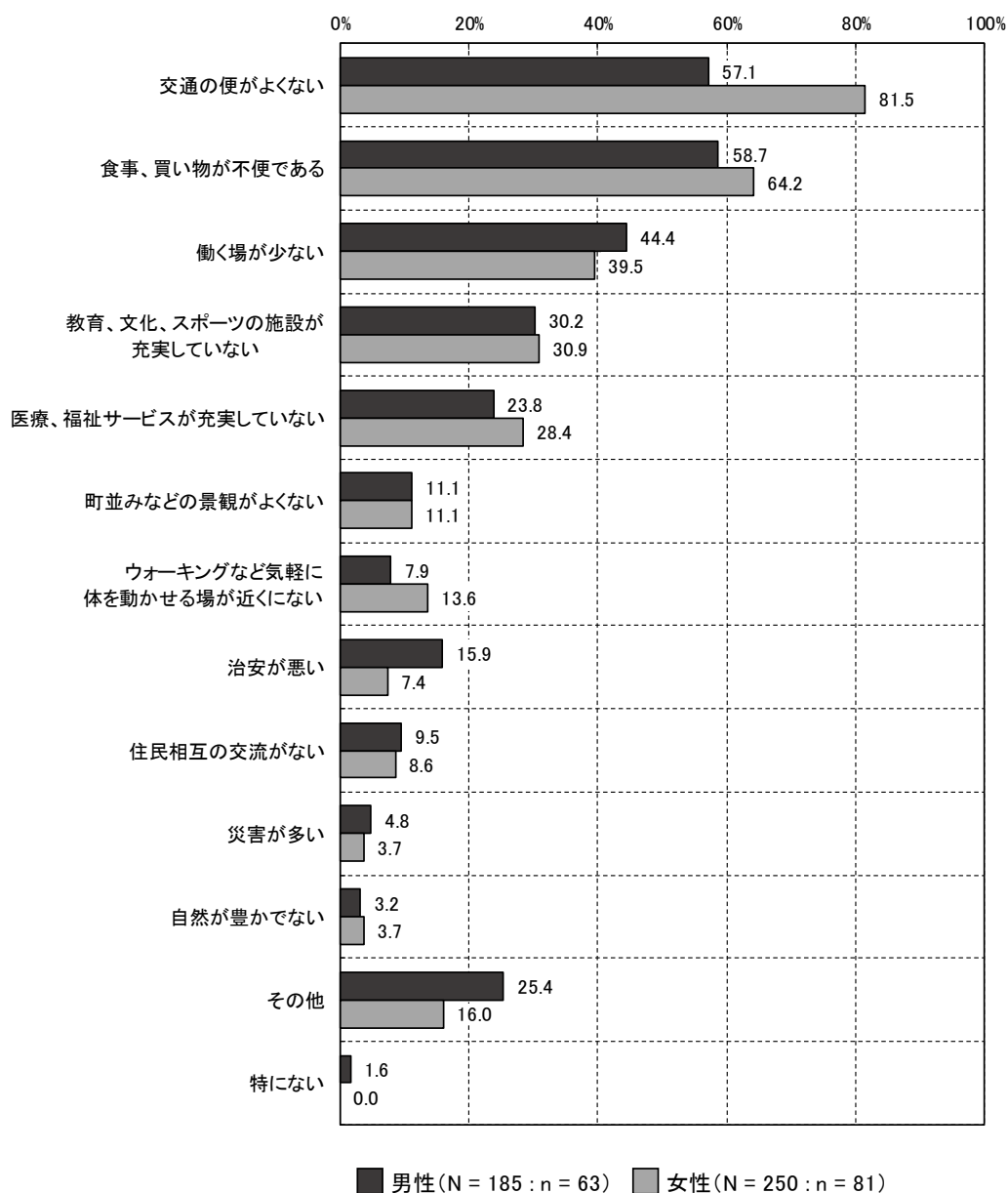
図 6-3-2 【前々回・前回比較】住んでいる地域が住みにくいと感じる点





性別（図 6-3-3）でみると、男性は「食事、買い物が不便である」（58.7%）、女性は「交通の便がよくない」（81.5%）が最も高くなっている。「交通の便がよくない」では女性が男性より 24.4 ポイント、「治安が悪い」では男性が女性より 8.5 ポイント高くなっている。

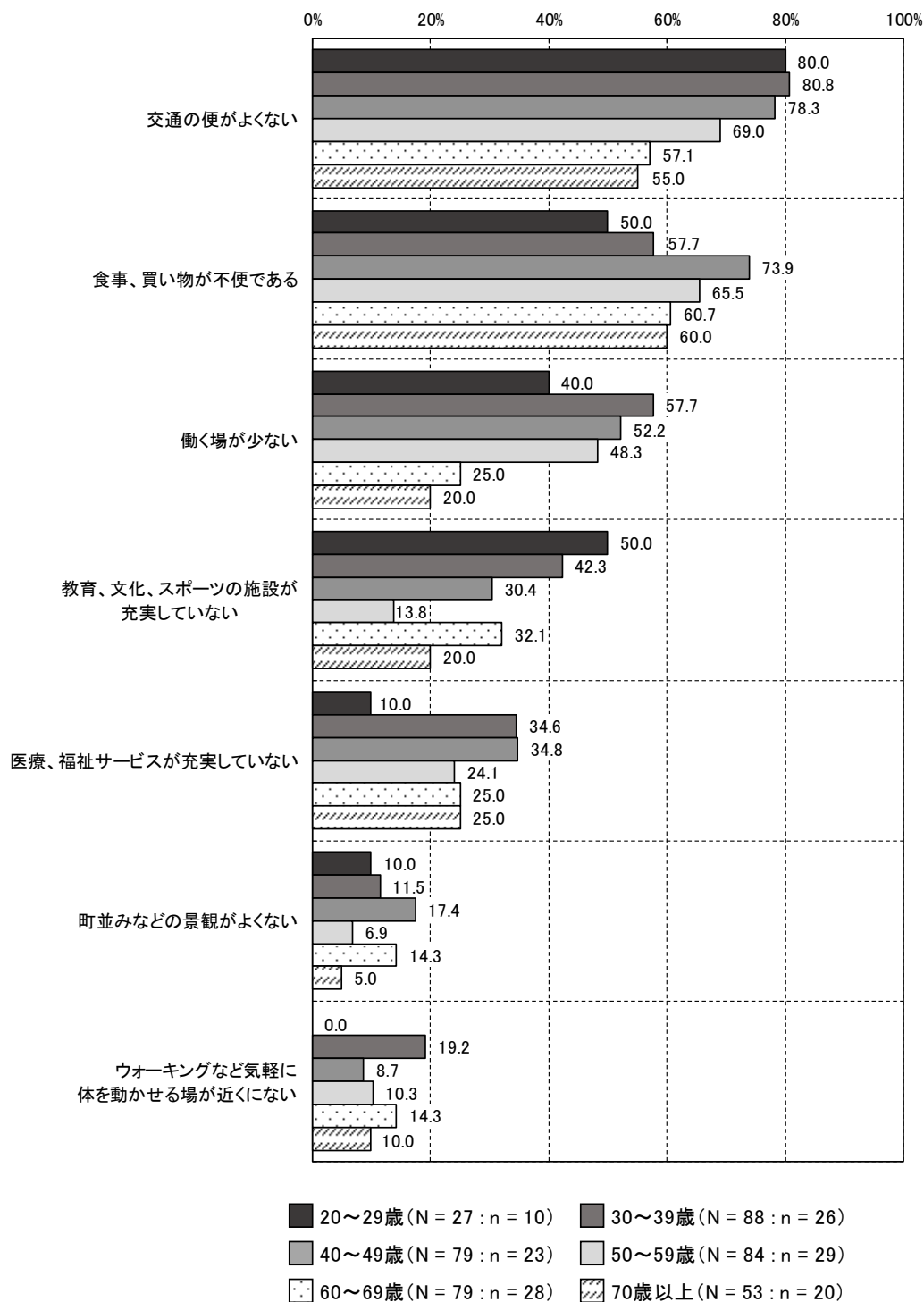
図 6-3-3 【性別】住んでいる地域が住みにくいと感じる点



※ N＝総回答数 n＝回答者数

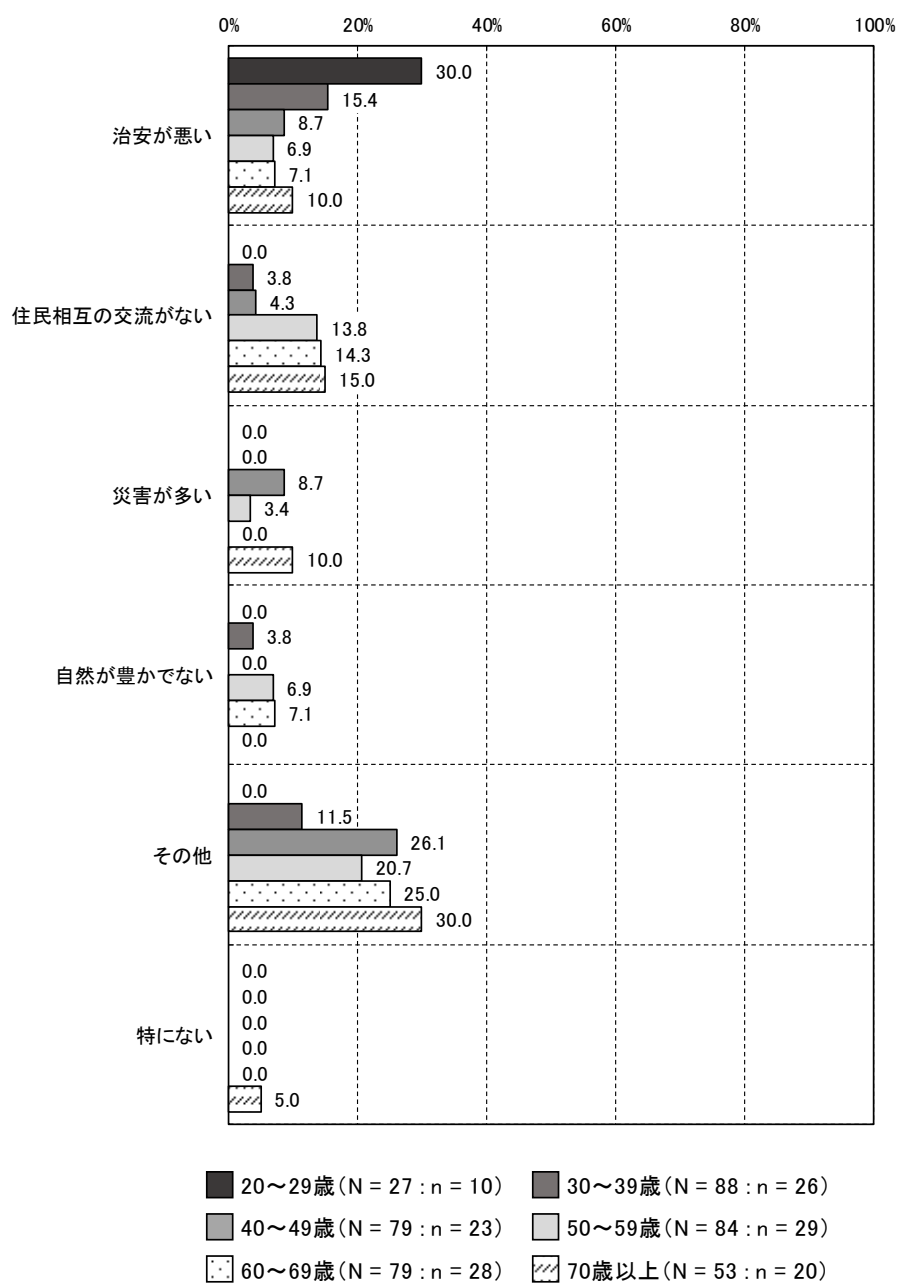
年代別（図 6-3-4）でみると、60 歳代、70 歳以上を除くいずれの年代においても「交通の便がよくない」が、60 歳代、70 歳以上では「食事、買い物が不便である」が最も高くなっている。「教育、文化、スポーツの施設が充実していない」は 20 歳代が他の年代に比べて高くなっており、「住民相互の交流がない」は年代が上がるにつれて高くなっている。

図 6-3-4 【年代別】住んでいる地域が住みにくいと感じる点



※ N＝総回答数 n＝回答者数

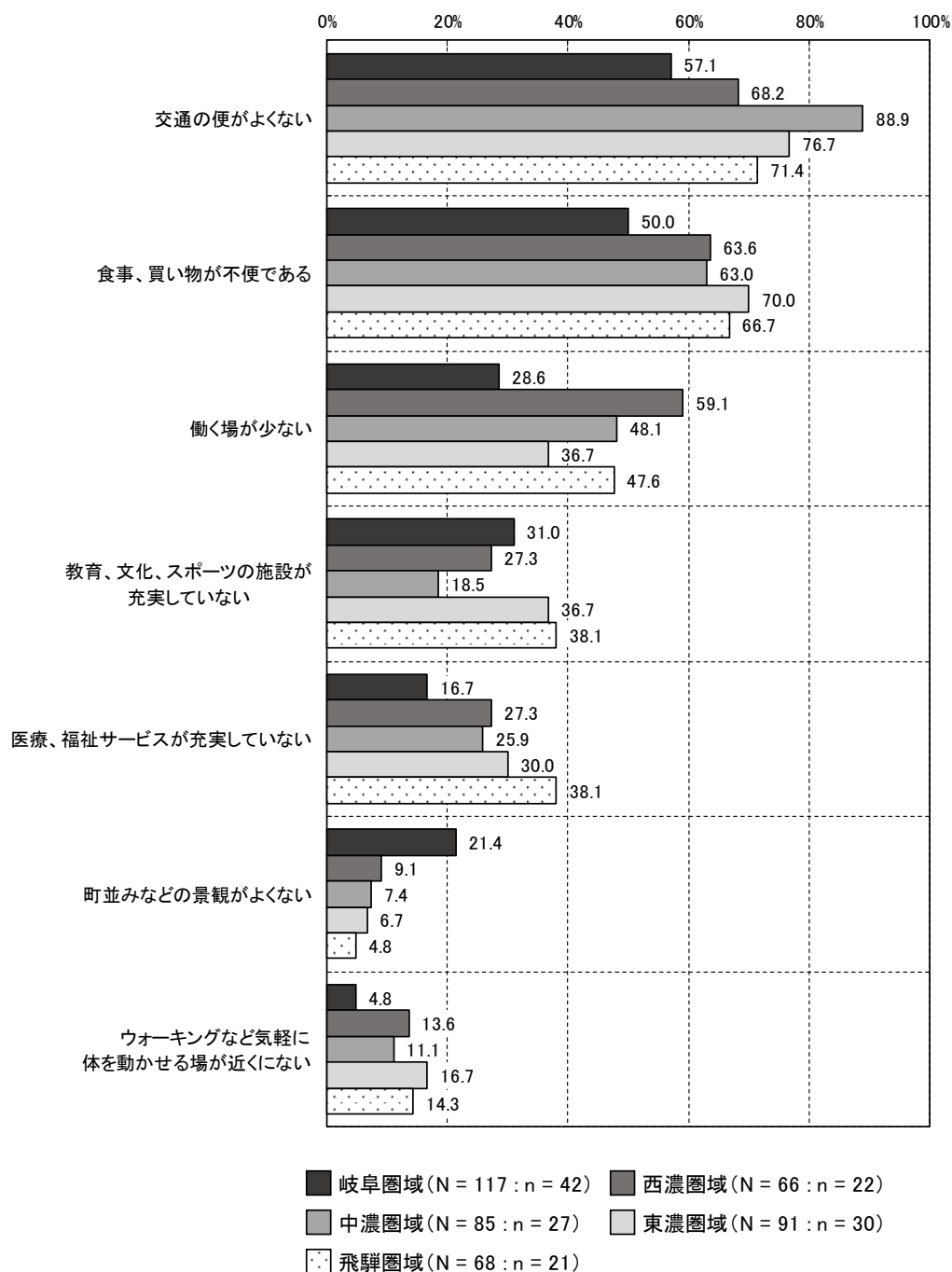
図 6-3-4 【年代別】 住んでいる地域が住みにくいと感じる点（続き）



※ N＝総回答数 n＝回答者数

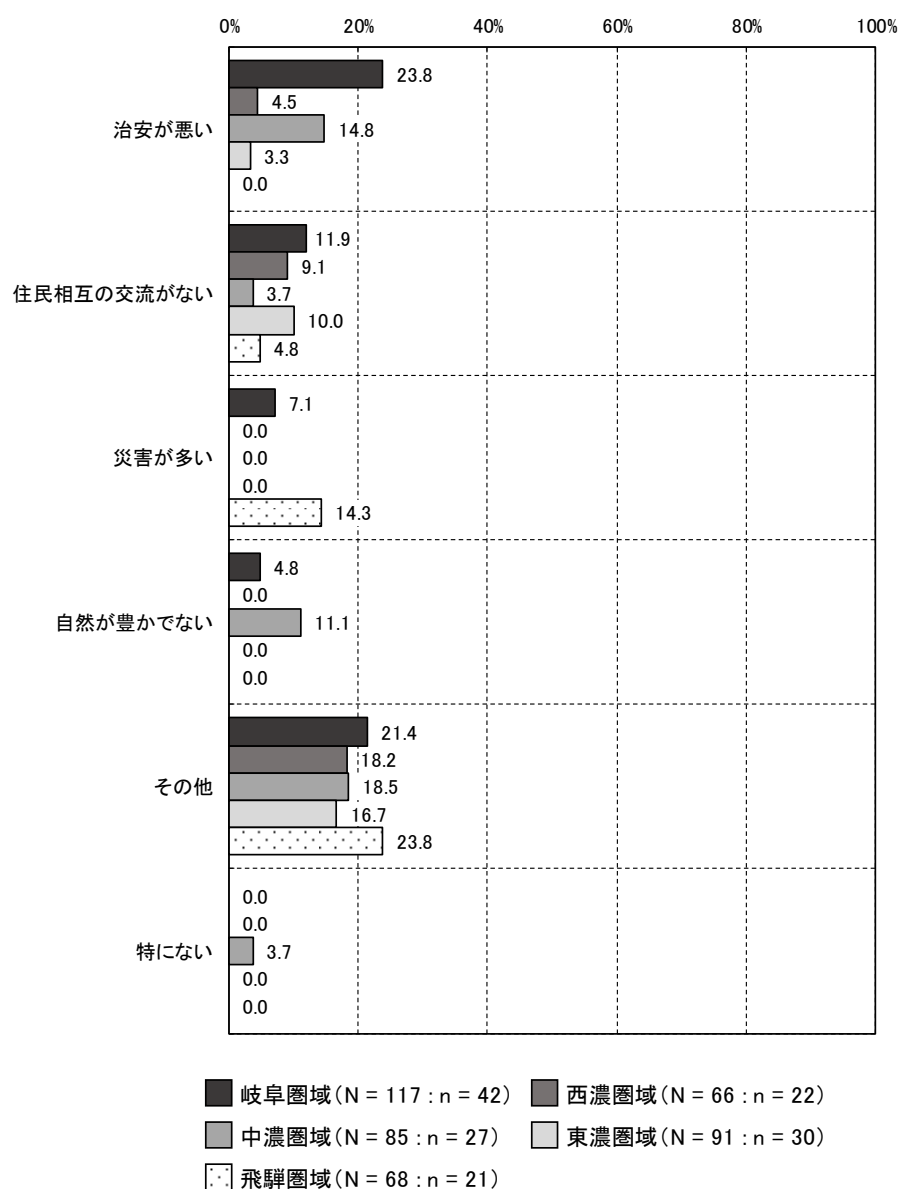
居住圏域別（図 6-3-5）でみると、いずれの居住圏域においても「交通の便がよい」が最も高く、次いで「食事、買い物が不便である」の順となっている。また、岐阜圏域では「町並みなどの景観がよい」、西濃圏域では「働く場が少ない」が他の居住圏域に比べて高くなっている。

図 6-3-5 【居住圏域別】 住んでいる地域が住みにくいと感じる点



※ N=総回答数 n=回答者数

図 6-3-5 【居住圏域別】住んでいる地域が住みにくいと感じる点（続き）



※ N＝総回答数 n＝回答者数

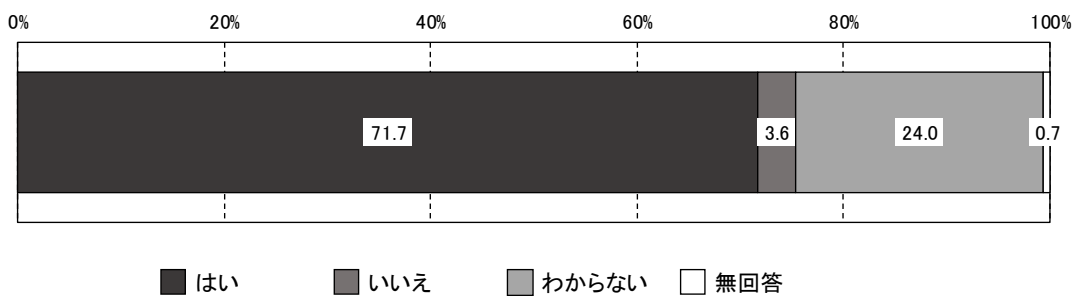
## 問7 今後も岐阜県に住みたいか

問7 あなたは、今後も岐阜県に住みたいと思いますか。（1つだけ）

全体（図7-1）でみると、「はい」が71.7%と最も高くなっている。

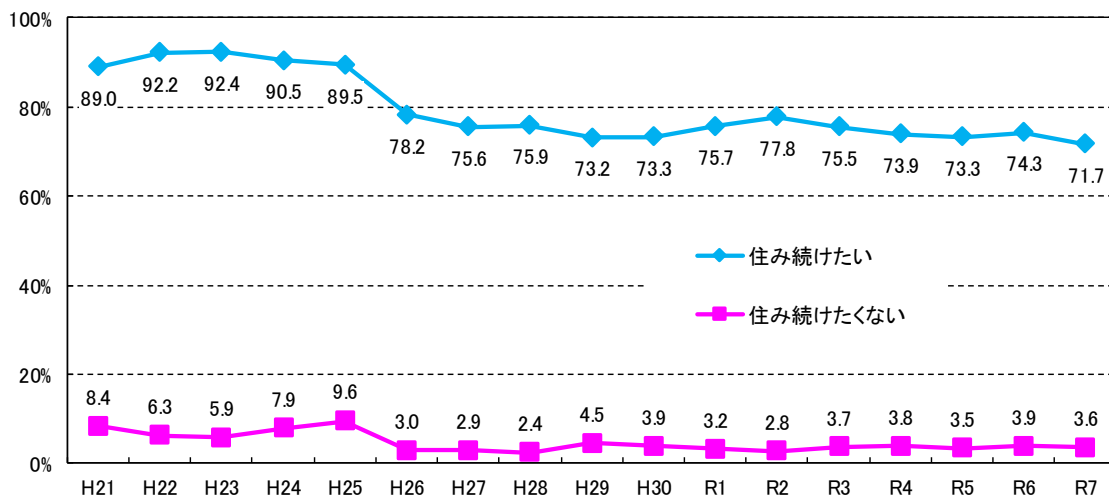
図7-1 今後も岐阜県に住みたいか

回答者数(n=1,644)



経年変化（図7-2）でみると、令和7年は、前年に比べて「住みたい」が2.6ポイント減少している。

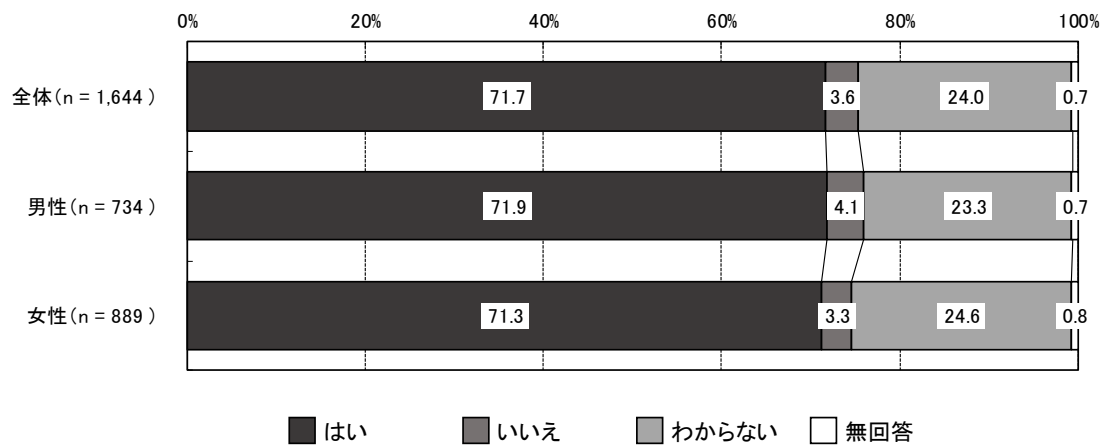
図7-2 【経年変化】 今後も岐阜県に住みたいか



※ 平成21年度から調査

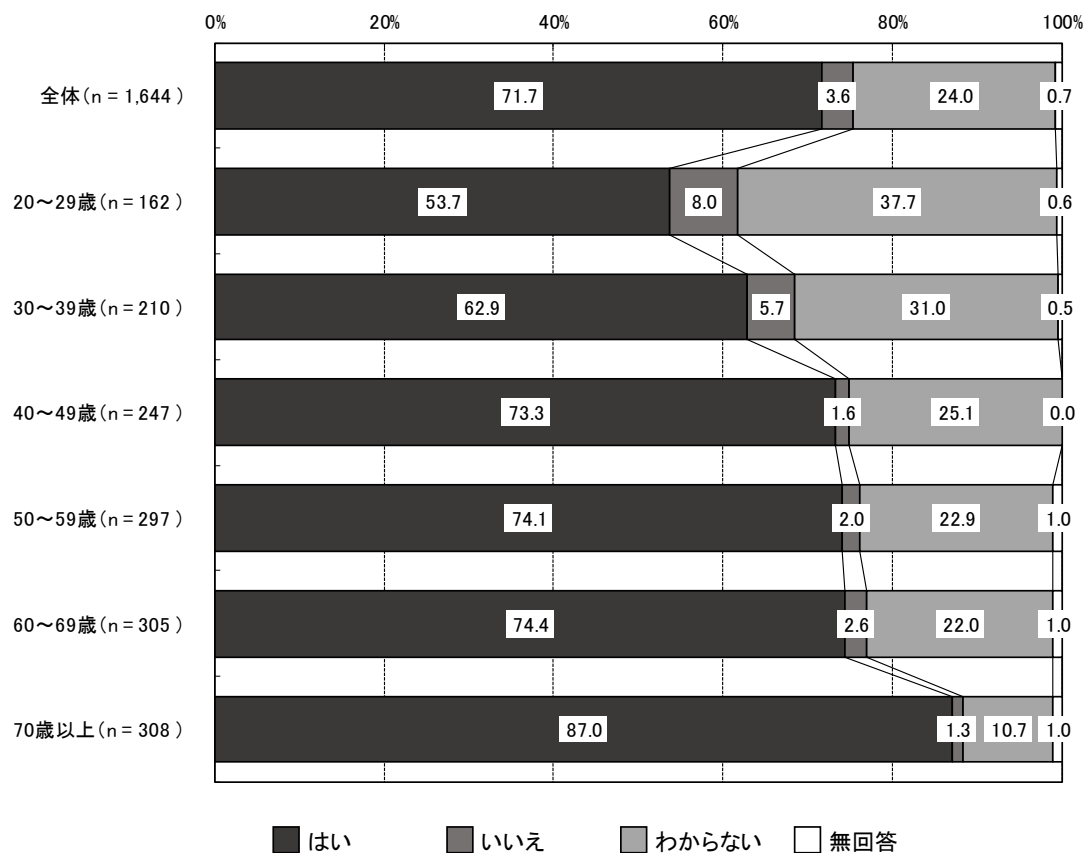
性別（図 7-3）でみると、男女ともに「はい」が最も高く、男性が 71.9%、女性が 71.3% となっている。

図 7-3 【性別】 今後も岐阜県に住み続けたいか



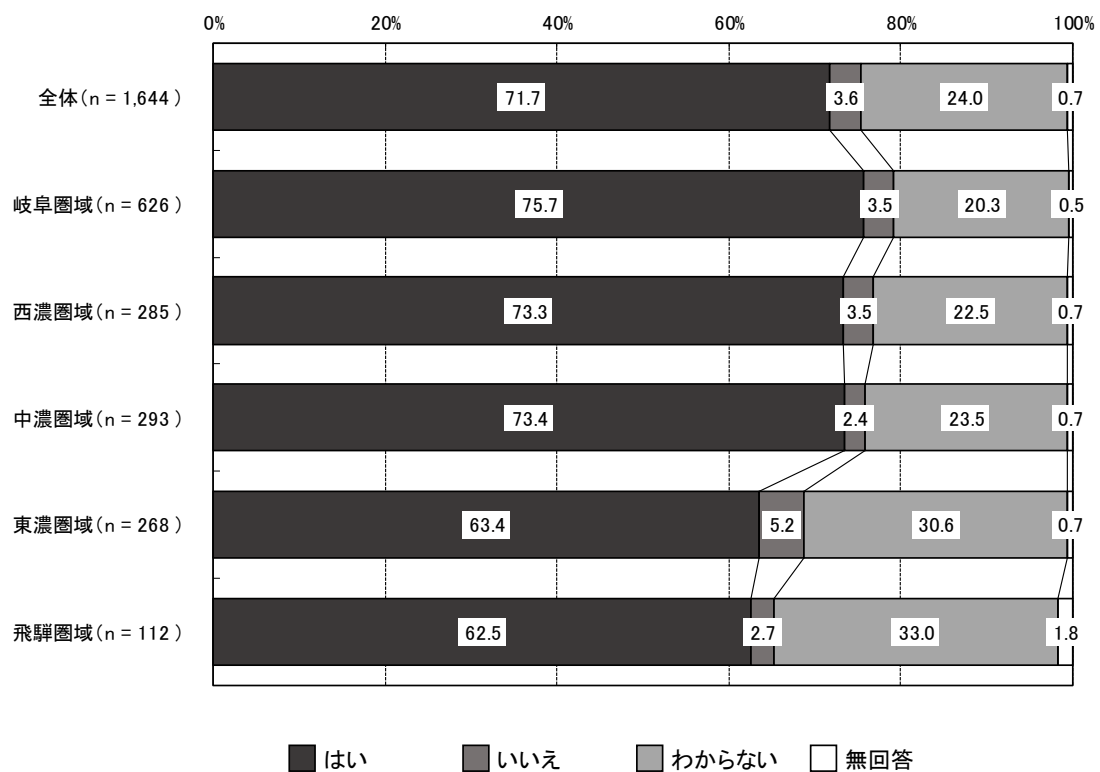
年代別（図 7-4）でみると、いずれの年代においても「はい」が最も高く、そのうち 70 歳以上が 87.0%と最も高くなっている。

図 7-4 【年代別】 今後も岐阜県に住み続けたいか



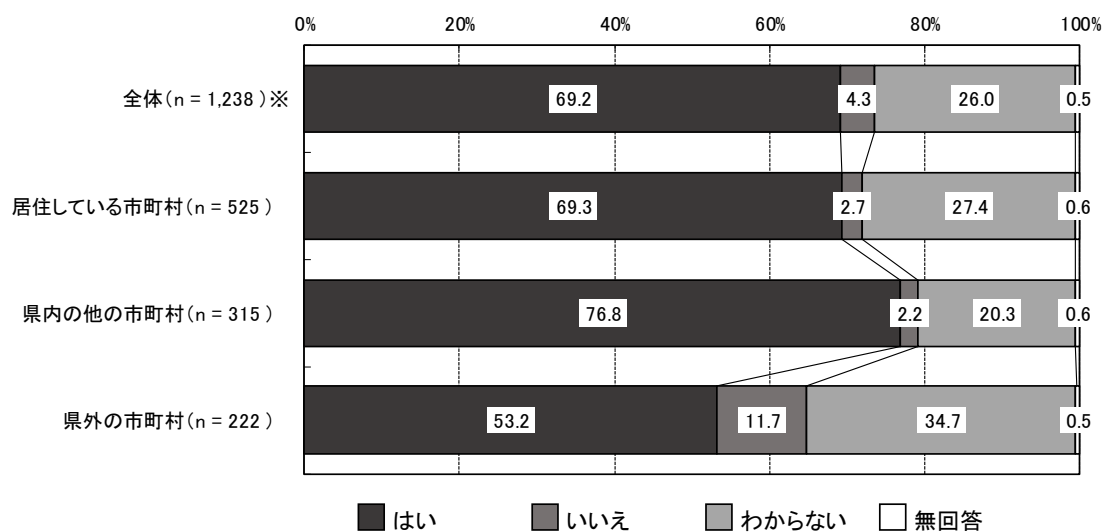
居住圏域別（図 7-5）でみると、いずれの居住圏域においても「はい」が最も高く、そのうち岐阜圏域が 75.7%と最も高くなっている。

図 7-5 【居住圏域別】 今後も岐阜県に住みたいか



通勤、通学先別（図 7-6）でみると、いずれの通勤、通学先においても「はい」が最も高く、そのうち県内の他の市町村が 76.8%と最も高くなっている。

図 7-6 【通勤、通学先別】 今後も岐阜県に住みたいか

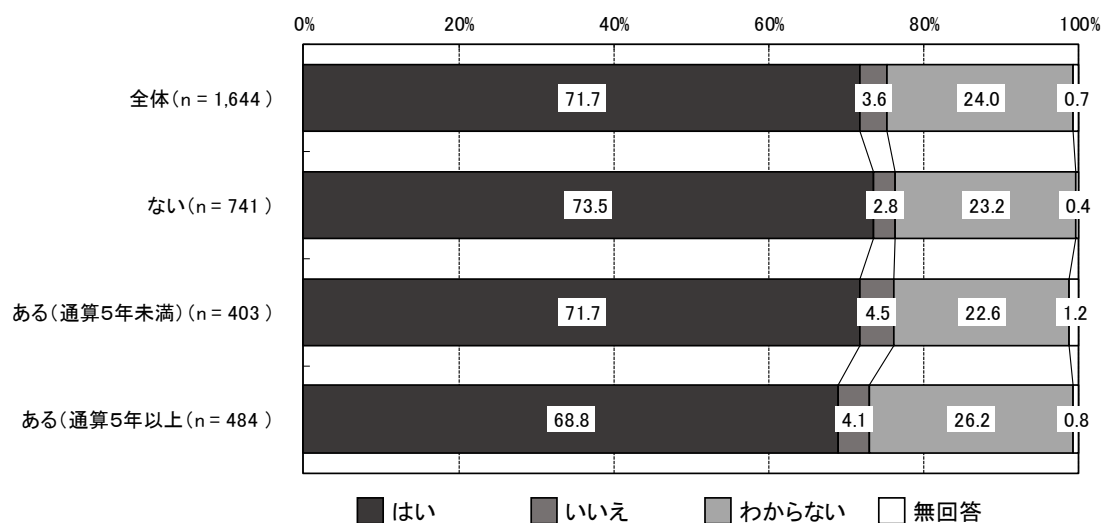


※ 「F-10 職業」で、自営業、自由業、会社・団体役員、正規の従業員・職員、パートタイム・アルバイト・派遣、学生と答えた方のみ



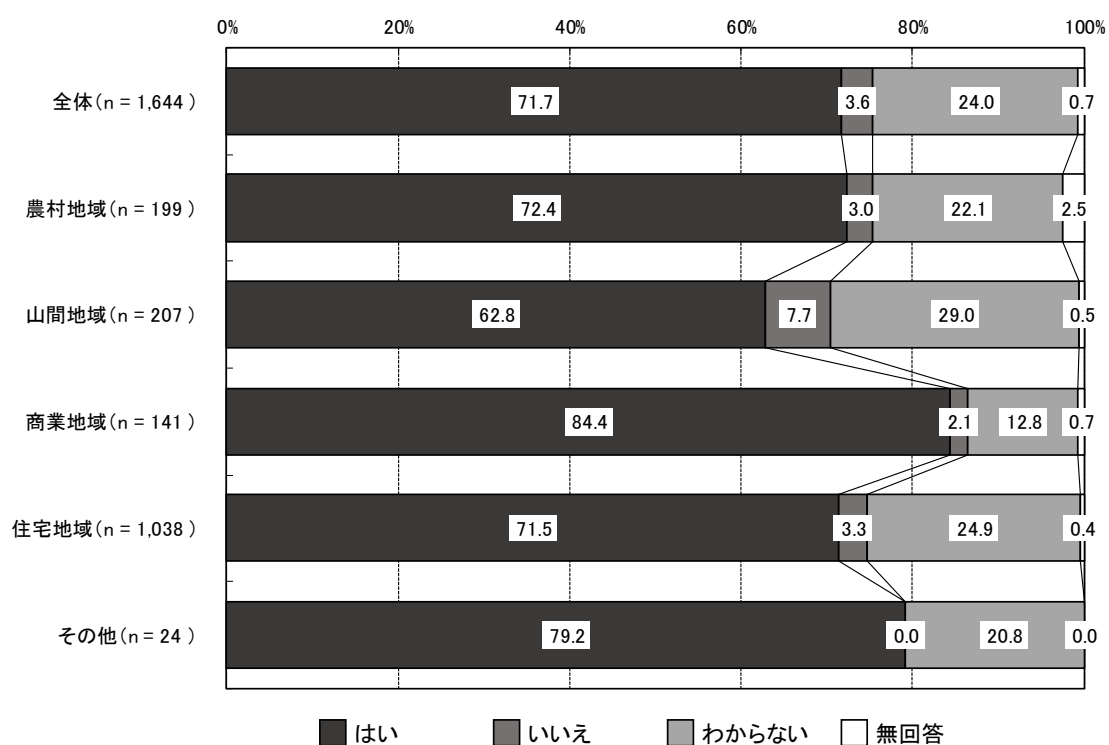
県外居住経験の有無別（図 7-7）でみると、県外居住経験がない人は「はい」が 73.5%と、ある人より高くなっている。

図 7-7 【県外居住経験の有無別】 今後も岐阜県に住みたいか



居住環境別（図 7-8）でみると、いずれの居住環境においても「はい」が最も高く、そのうち商業地域が 84.4%と最も高くなっている。

図 7-8 【居住環境別】 今後も岐阜県に住みたいか



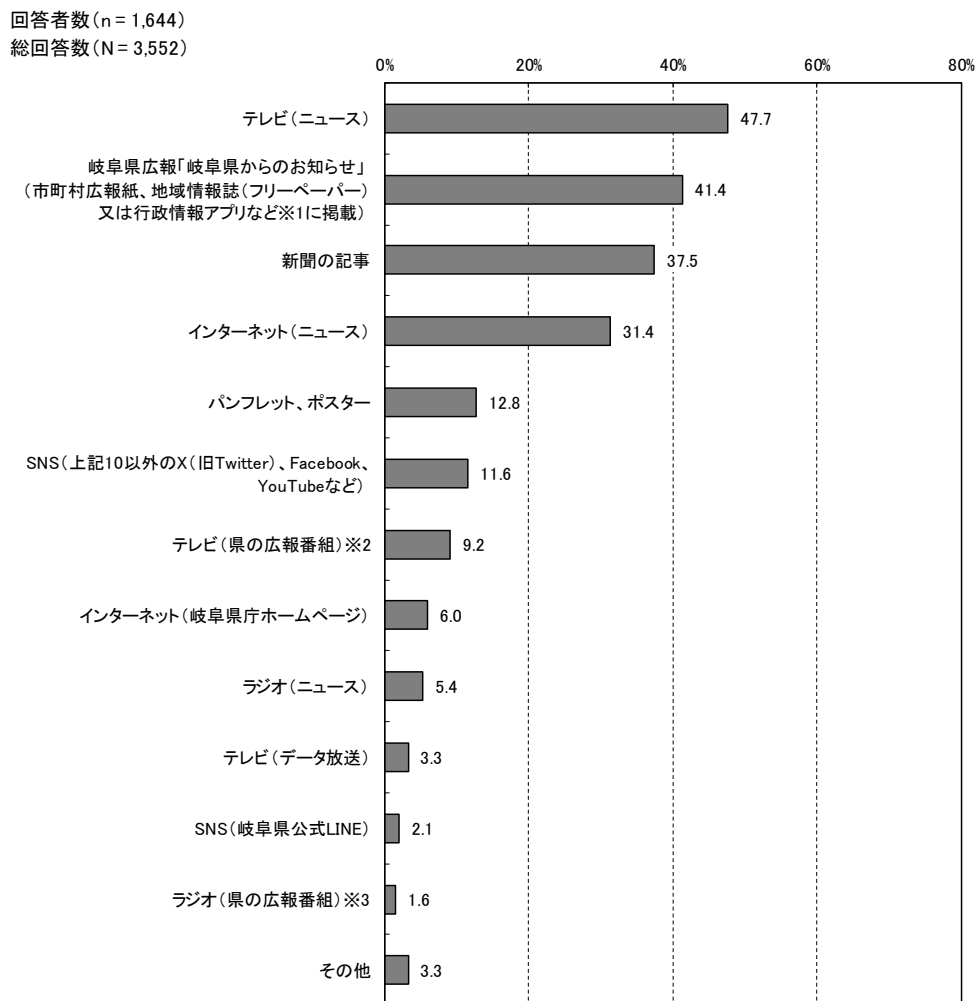
## 2. 2 県の取組み全般について

### 問8 施策や事業についての情報の入手方法

問8 あなたは、岐阜県が行っている施策や事業を、何によって知ることが多いですか。  
(いくつでも)

全体（図 8-1）でみると、「テレビ（ニュース）」が 47.7%と最も高く、次いで「岐阜県広報「岐阜県からのお知らせ」（市町村広報紙、地域情報誌（フリーペーパー）又は行政情報アプリなど※1に掲載）」（41.4%）、「新聞の記事」（37.5%）の順となっている。

図 8-1 施策や事業についての情報の入手方法



※1 行政情報アプリなど:行政情報アプリ「マチイロ」

広報紙配信サービス「マイ広報紙」

電子書籍ポータルサイト「Gifu ebooks」

※2 テレビ(県の広報番組):ぎふチャン(岐阜放送)「ぎふ県政ほっとライン」「ぎふ県だより」

※3 ラジオ(県の広報番組):エフエム岐阜「GIFU インフォメーション」「ギフトピ」

ぎふチャン(岐阜放送)「ぎふ県だより」「週刊ぎふタイム」

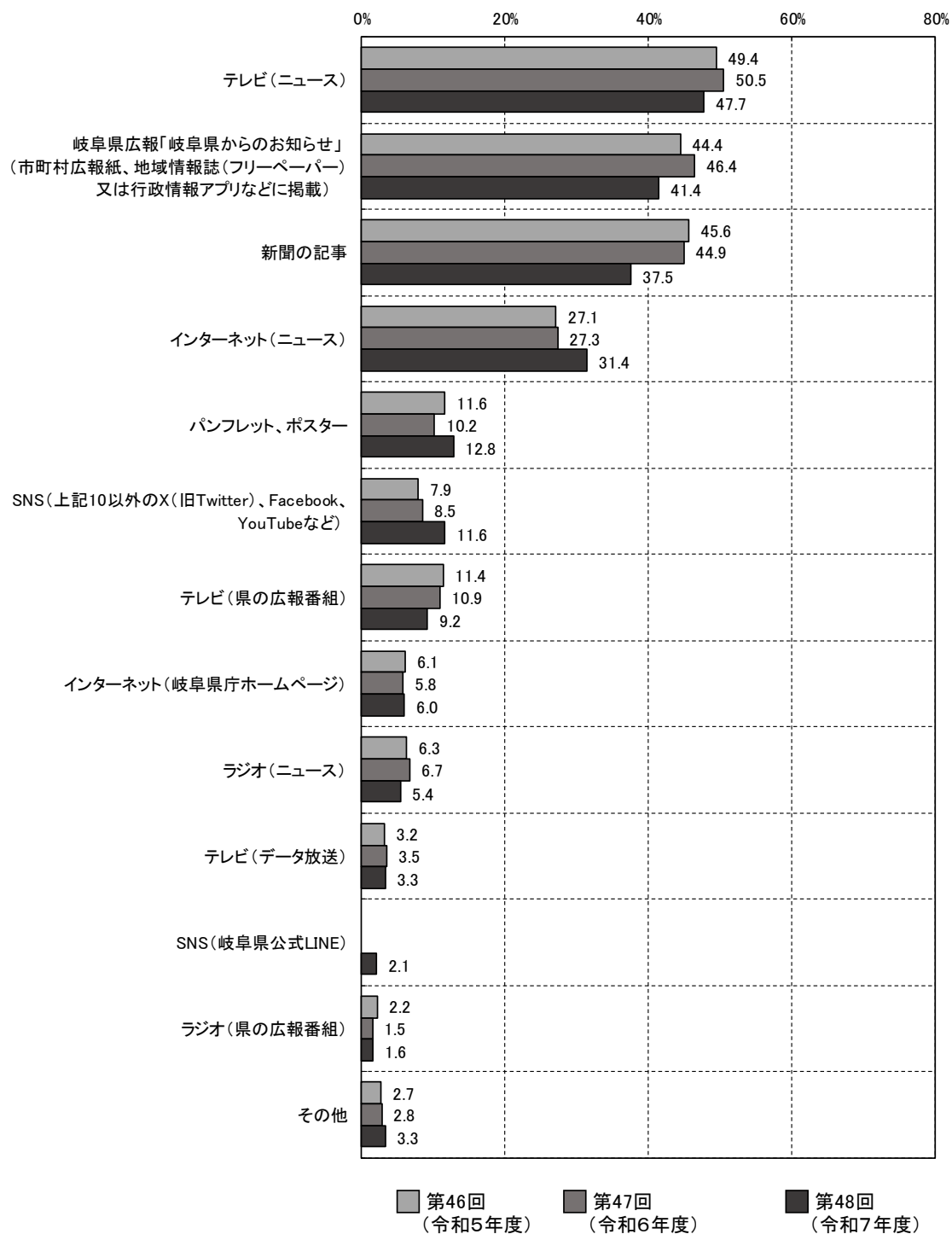
※ 本問における選択肢「SNS(上記10以外のX(旧Twitter)、Facebook、YouTubeなど)」は前回調査「フェイスブック、X(旧Twitter)などのSNS(ソーシャル・ネットワーキング・サービス)」より変更

※ 本問における選択肢「SNS(上記10以外のX(旧Twitter)、Facebook、YouTubeなど)」の上記10とは、選択肢10番の「岐阜県公式LINE」のことである。

※ 本問における選択肢「SNS(岐阜県公式LINE)」は今年度新設

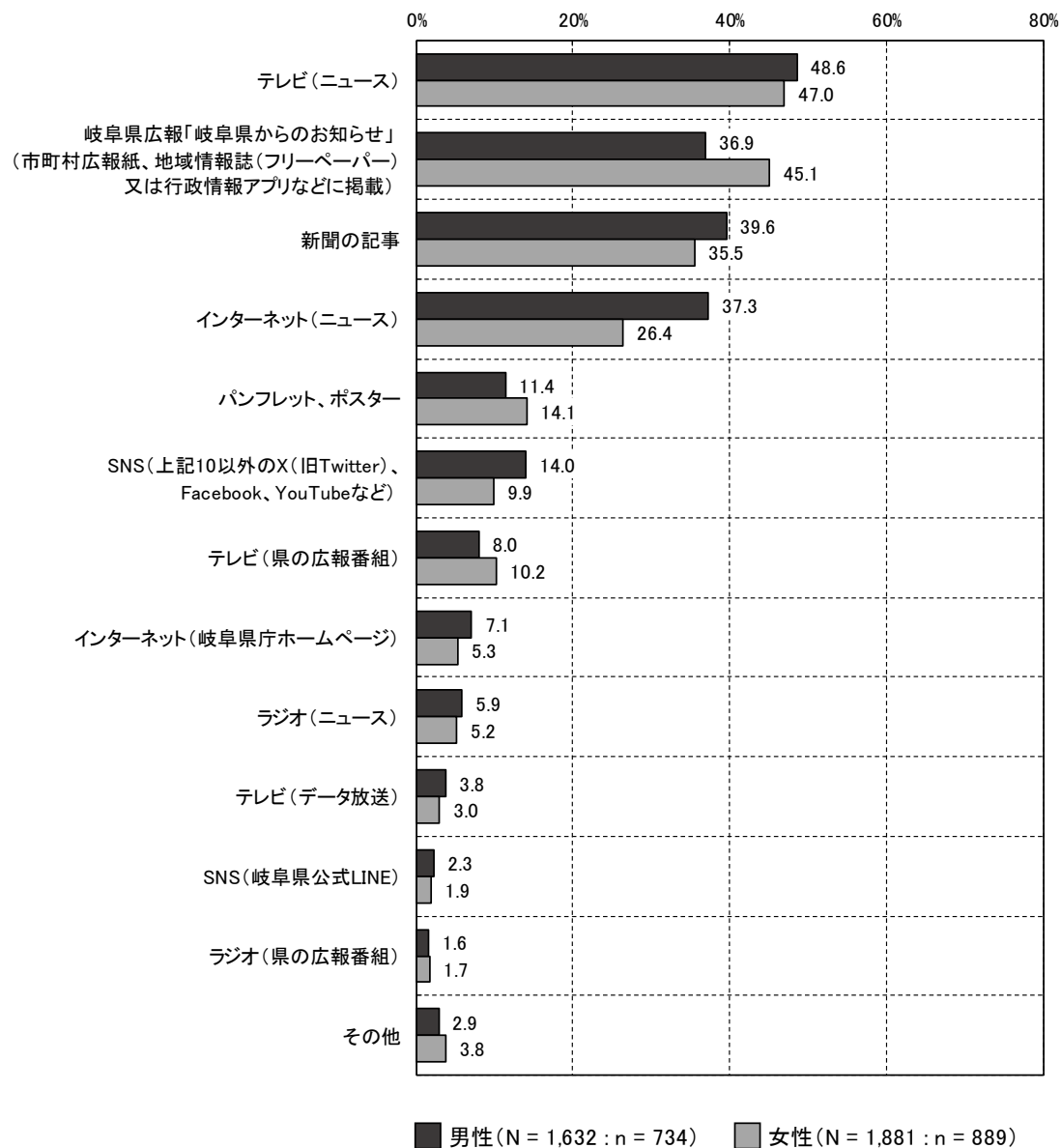
前々回・前回比較（図 8-2）でみると、前々回・前回・今回と一貫して「テレビ（ニュース）」が最も高くなっている。前回に比べて、「新聞の記事」は 7.4 ポイント減少し、「インターネット（ニュース）」は 4.1 ポイント増加している。

図 8-2 【前々回・前回比較】 施策や事業についての情報の入手方法



性別（図 8-3）でみると、男女ともに「テレビ（ニュース）」が最も高くなっている。また、「インターネット（ニュース）」では男性が女性より 10.9 ポイント高く、「岐阜県広報「岐阜県からのお知らせ」（市町村広報紙、地域情報誌（フリーペーパー）又は行政情報アプリなどに掲載）」では女性が男性より 8.2 ポイント高くなっている。

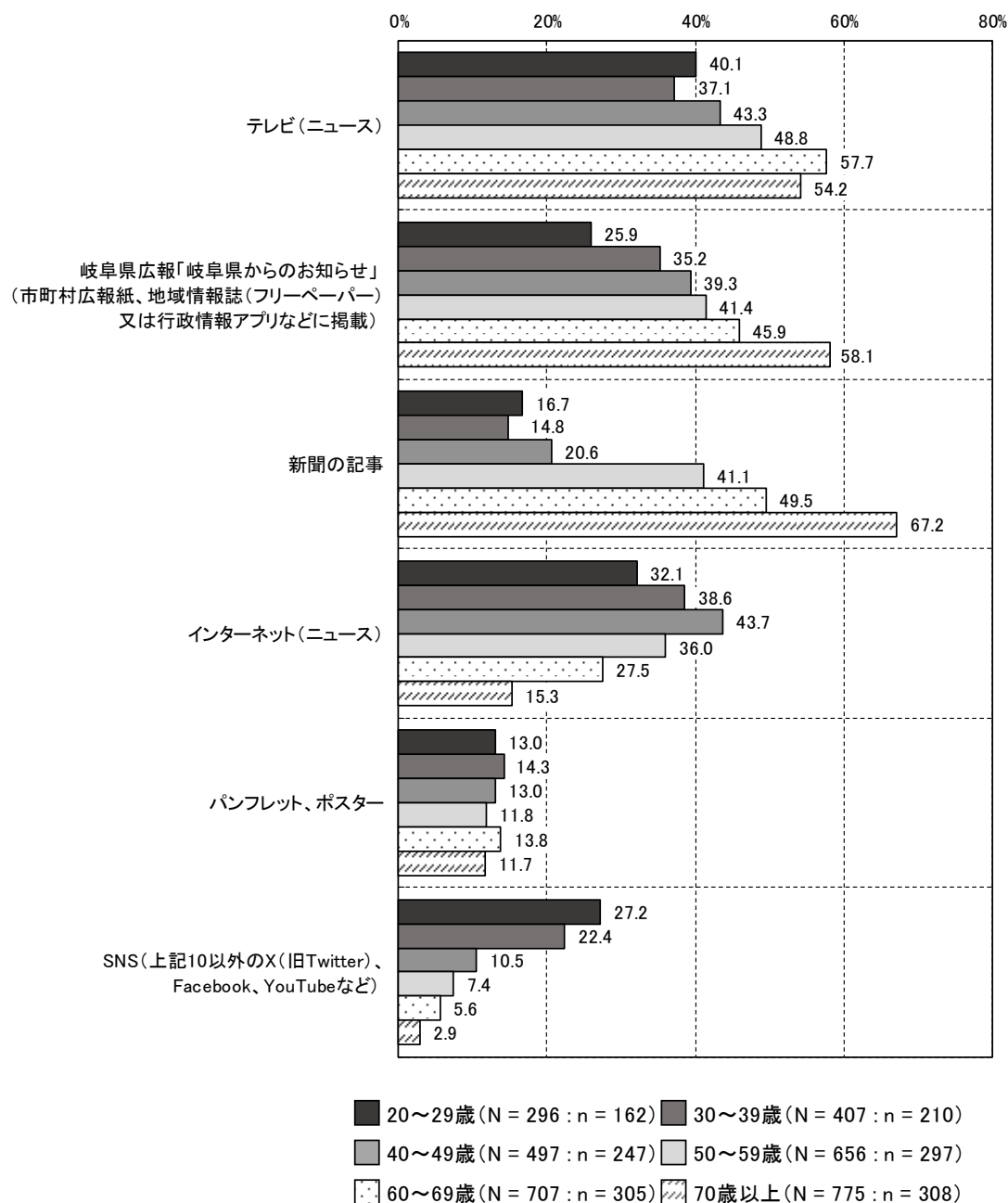
図 8-3 【性別】 施策や事業についての情報の入手方法



※ N=総回答数 n=回答者数

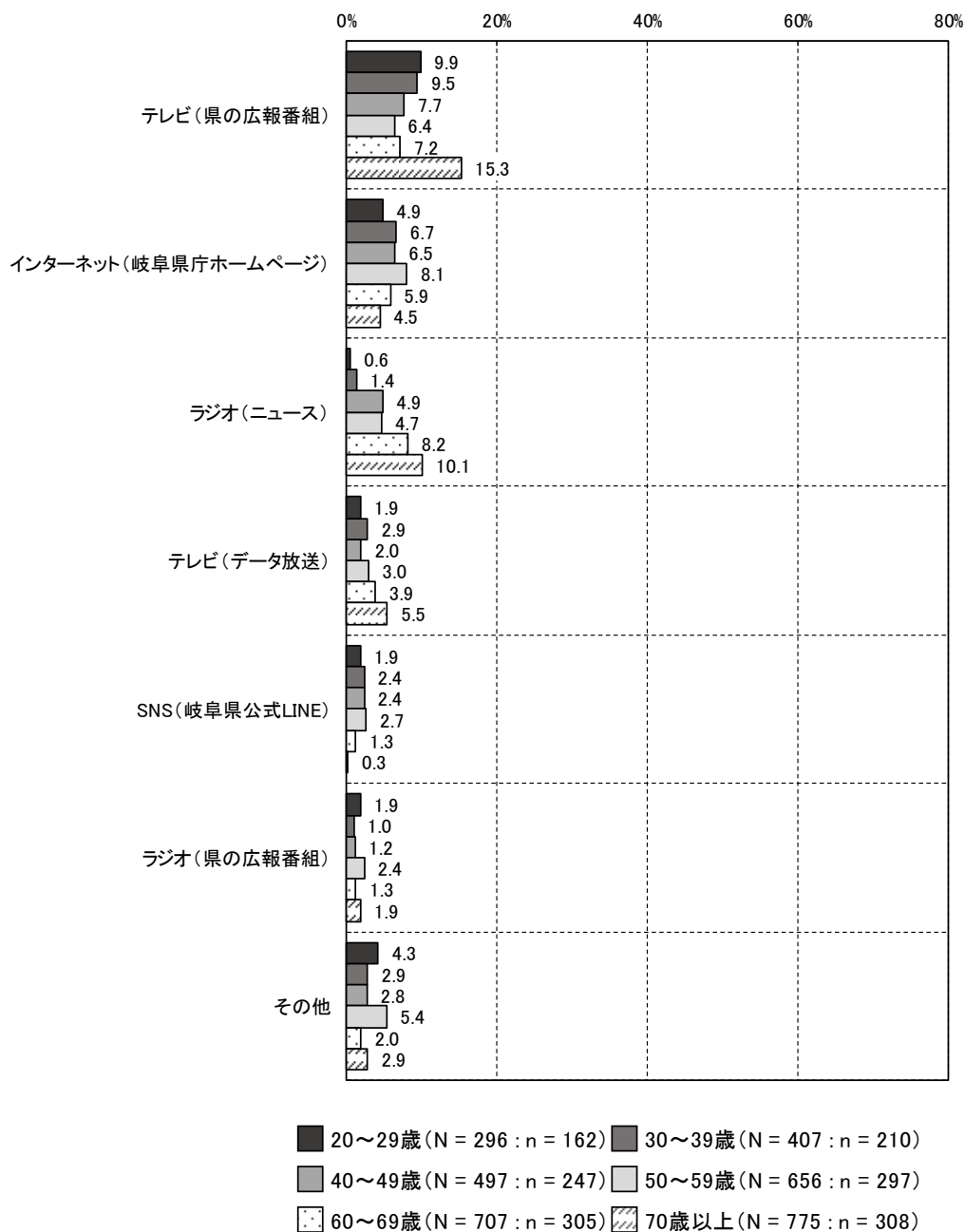
年代別（図 8-4）でみると、20 歳代、50 歳代、60 歳代では「テレビ（ニュース）」、30 歳代、40 歳代では「インターネット（ニュース）」、70 歳以上では「新聞の記事」が最も高くなっている。

図 8-4 【年代別】 施策や事業についての情報の入手方法



※ N=総回答数 n=回答者数

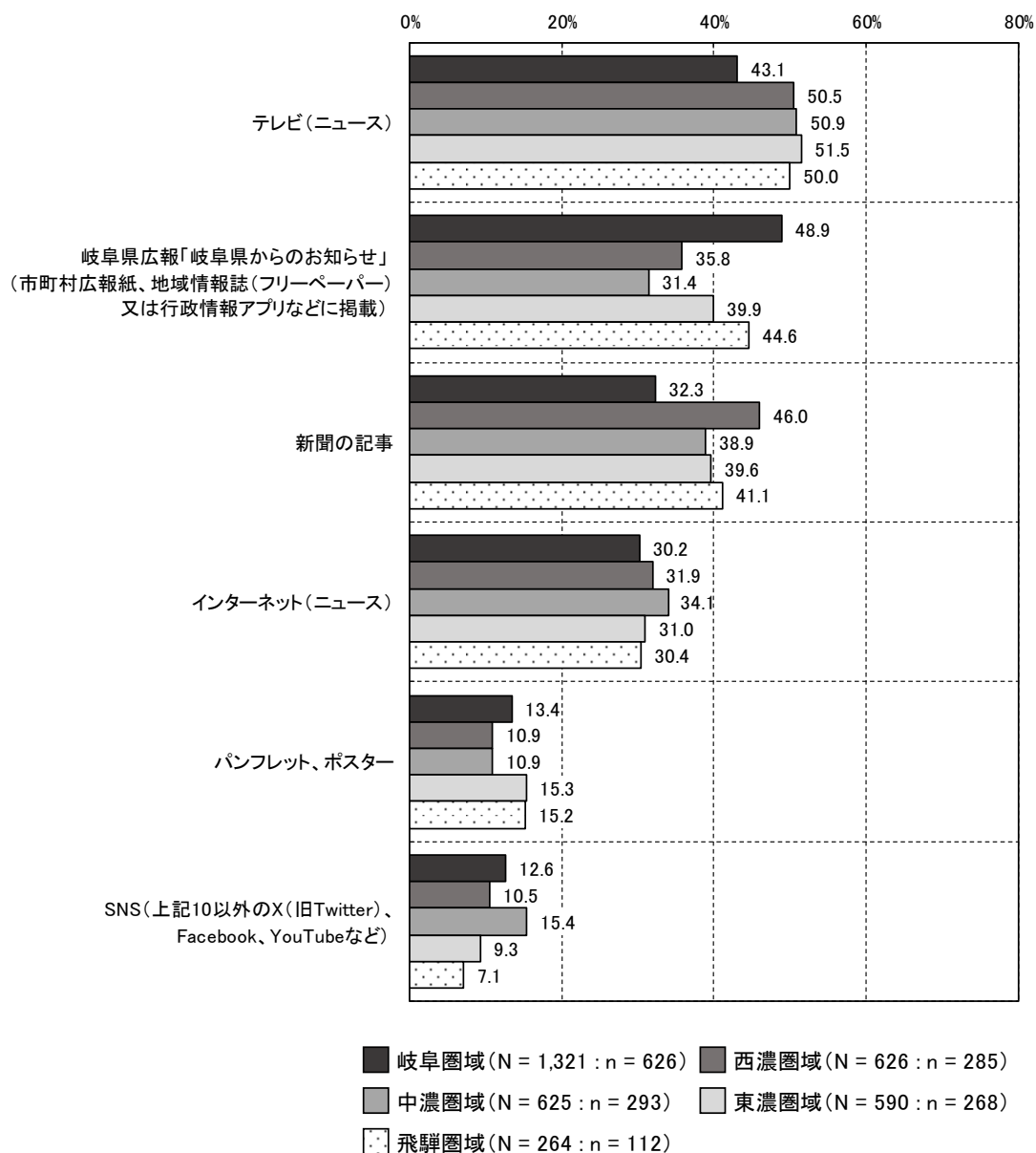
図 8-4 【年代別】 施策や事業についての情報の入手方法（続き）



※ N=総回答数 n=回答者数

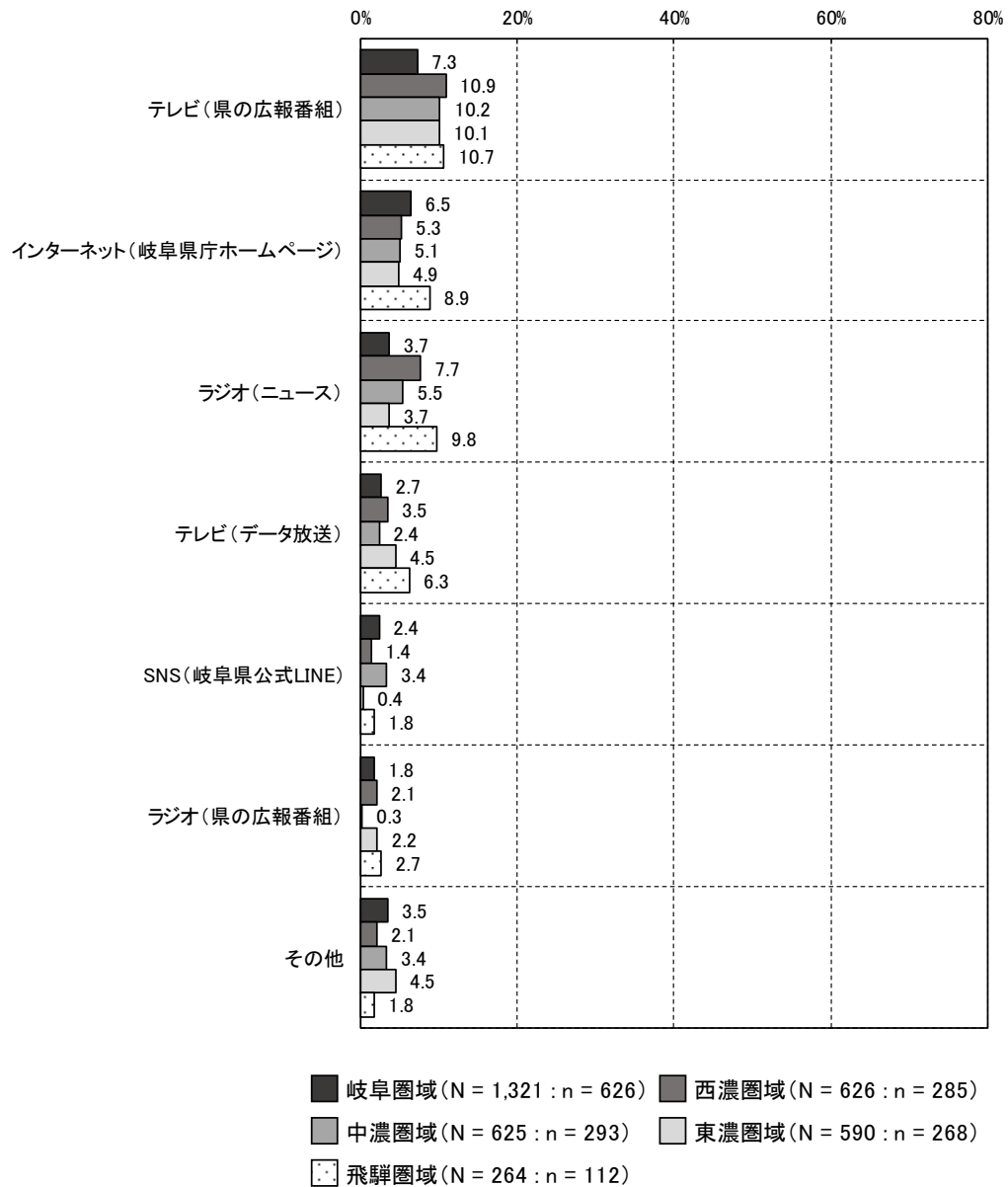
居住圏域別（図 8-5）でみると、岐阜圏域を除くいずれの圏域においても「テレビ（ニュース）」が最も高く、岐阜圏域では「岐阜県広報「岐阜県からのお知らせ」」が最も高くなっている。

図 8-5 【居住圏域別】 施策や事業についての情報の入手方法



※ N=総回答数 n=回答者数

図 8-5 【居住圏域別】 施策や事業についての情報の入手方法（続き）



※ N=総回答数 n=回答者数



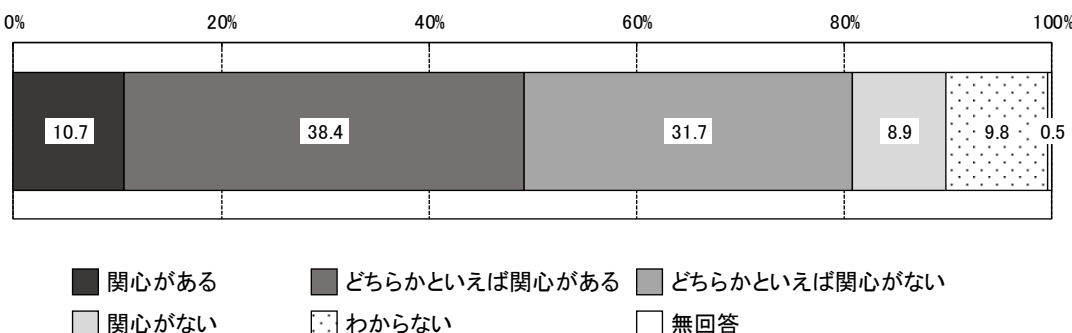
## 問9 県事業への関心の有無

問9 あなたは、岐阜県が行っている事業やその進め方について、関心をお持ちですか。  
(1つだけ)

全体(図9-1)でみると、「どちらかといえば関心がある」が38.4%と最も高く、次いで「どちらかといえば関心がない」(31.7%)、「関心がある」(10.7%)の順となっている。

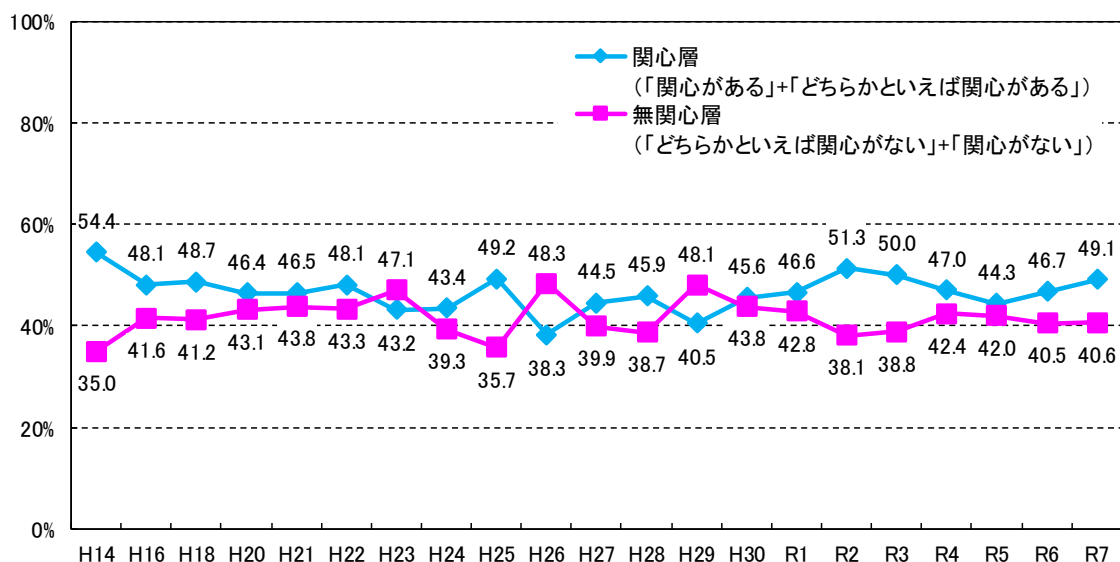
図9-1 県事業への関心の有無

回答者数(n=1,644)



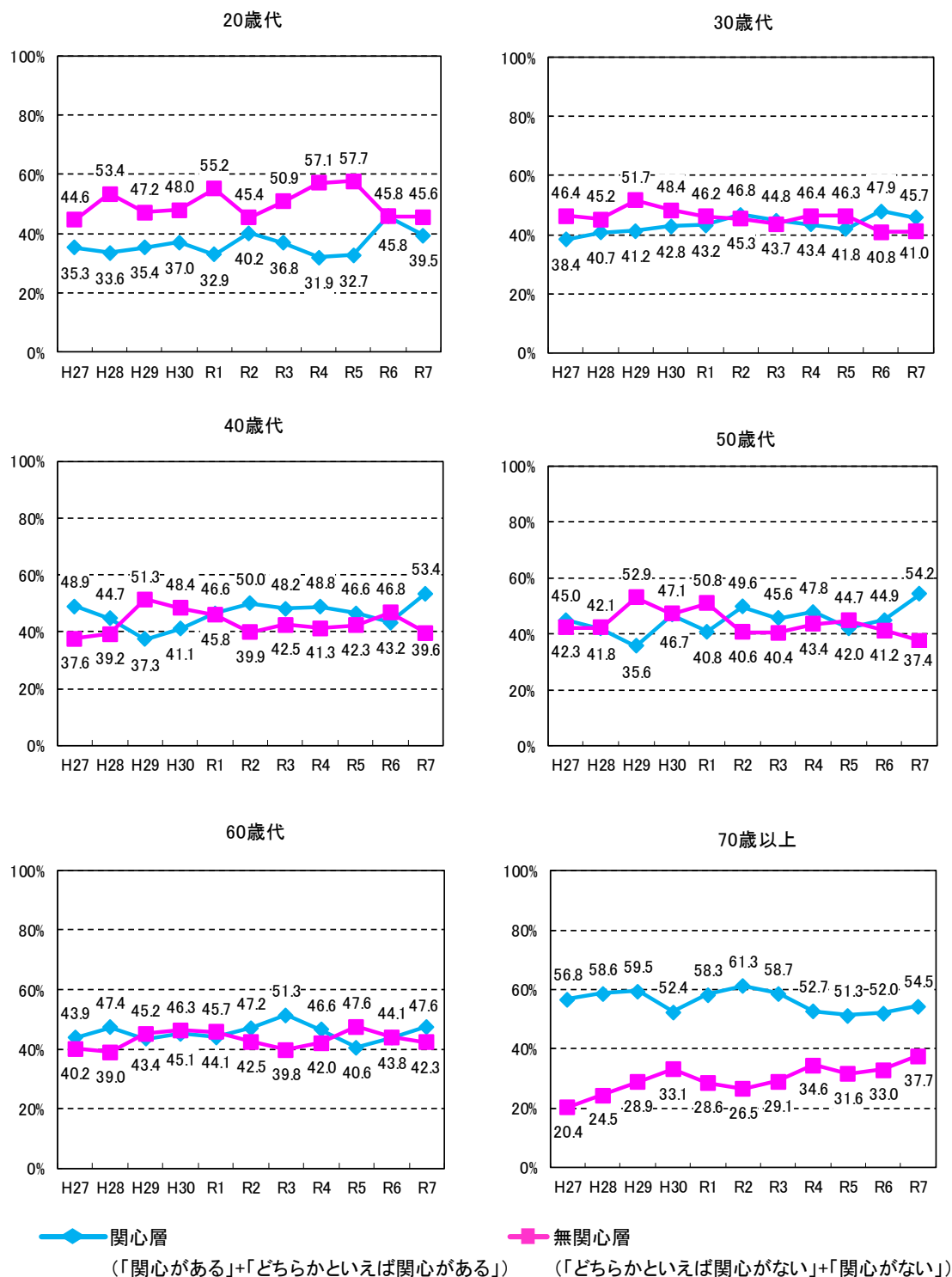
経年変化(図9-2)でみると、令和7年は、前年より「関心層」(「関心がある」+「どちらかといえば関心がある」)が2.4ポイント増加し、「無関心層」(「どちらかといえば関心がない」+「関心がない」)が0.1ポイント増加しており、引き続き「関心層」が「無関心層」を上回っている。

図9-2【経年変化】県事業への関心の有無



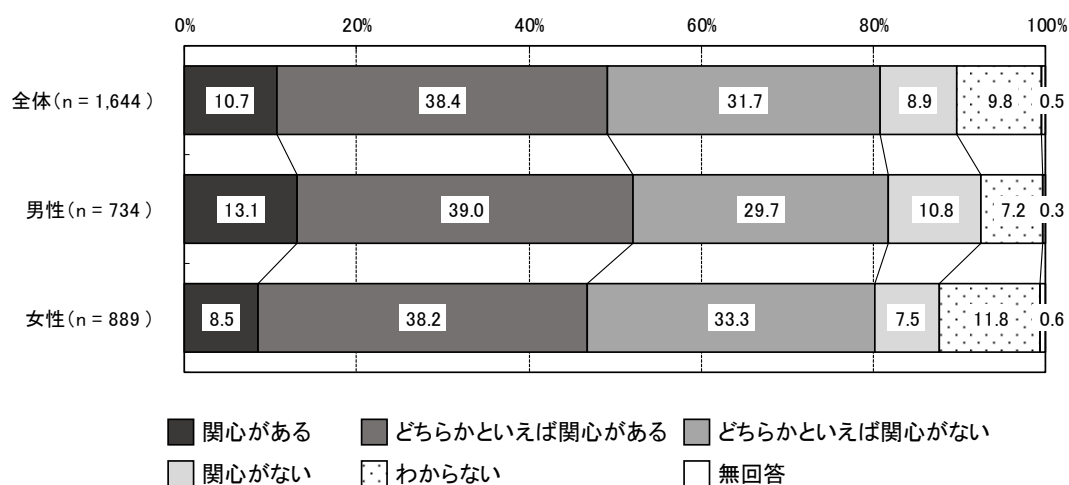
年代別の経年変化（図 9-3）でみると、「関心層」において、20 歳代、30 歳代を除くいずれの年代においても前年に比べて「関心層」が増加しており、そのうち 40 歳代では 10.2 ポイント増加している。また、40 歳代、60 歳代では、前年に比べて「無関心層」と「関心層」が入れ替り、「関心層」が「無関心層」を上回った。70 歳以上では一貫して「関心層」が「無関心層」より高くなっている。

図 9-3 【経年変化(年代別)】 県事業への関心の有無



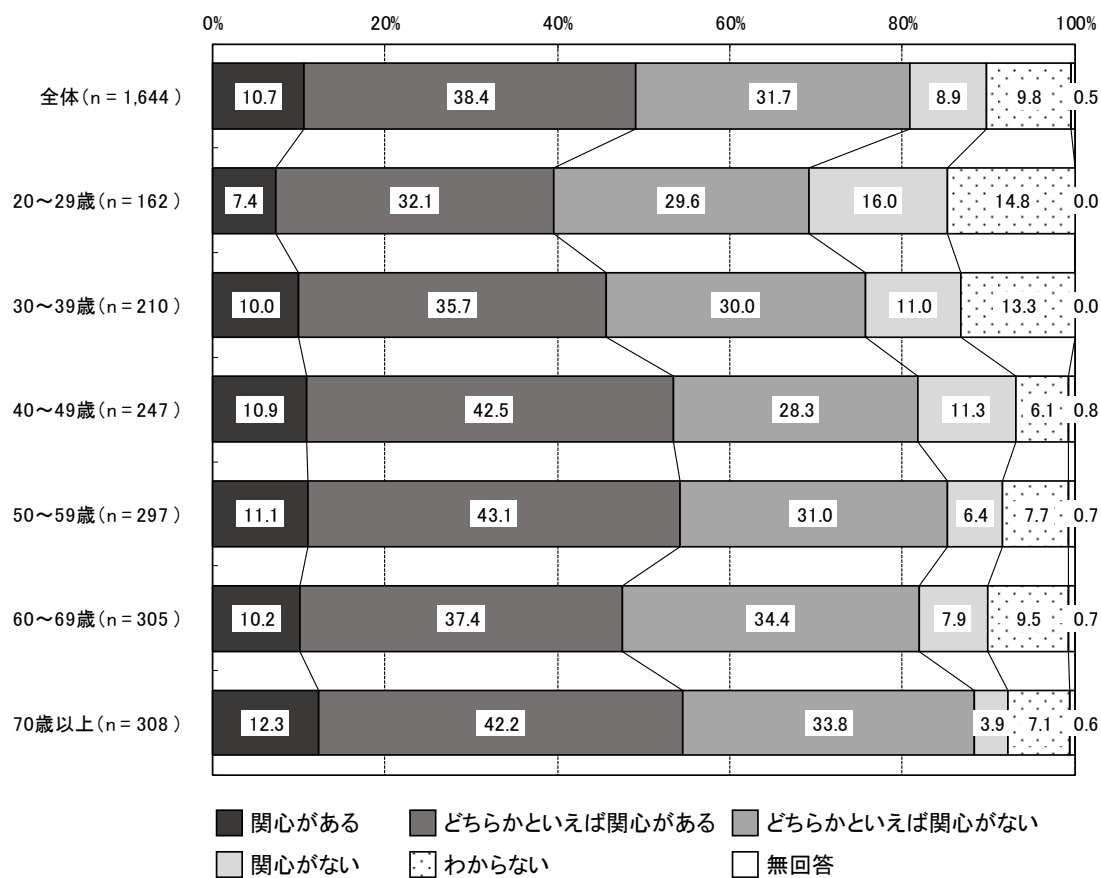
性別（図 9-4）でみると、男女ともに「どちらかといえば関心がある」が最も高くなっている。

図 9-4 【性別】 県事業への関心の有無



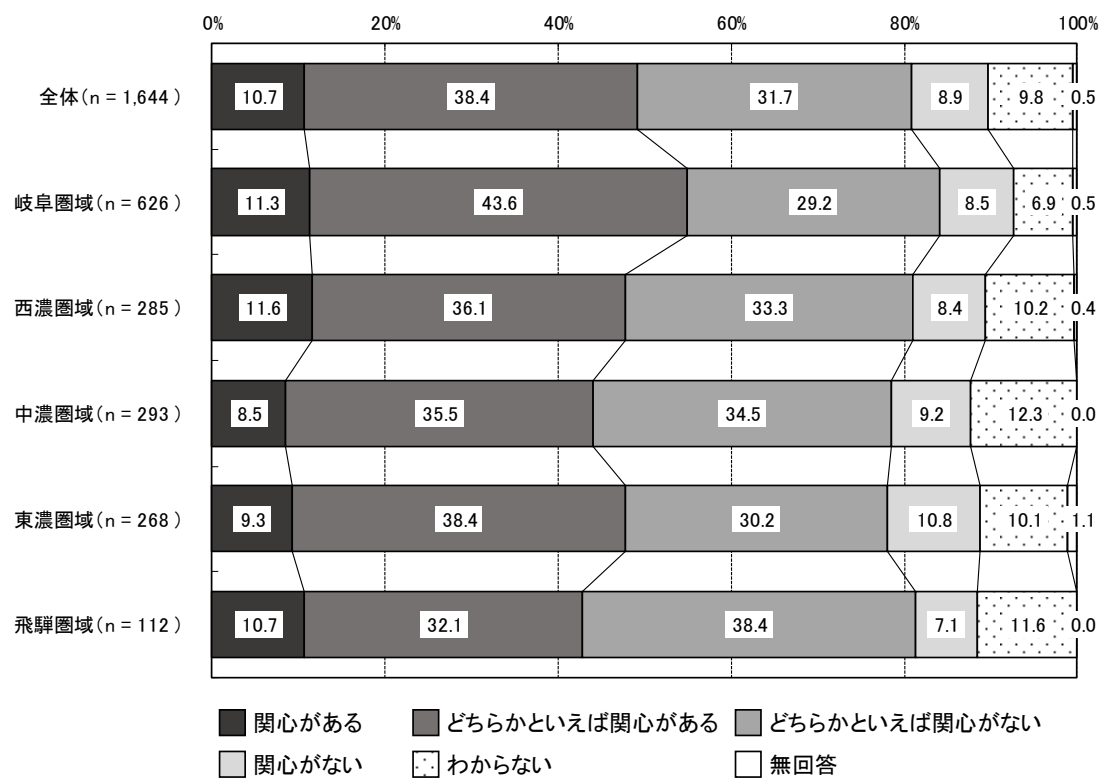
年代別（図 9-5）でみると、いずれの年代においても「どちらかといえば関心がある」が最も高くなっている。

図 9-5 【年代別】 県事業への関心の有無



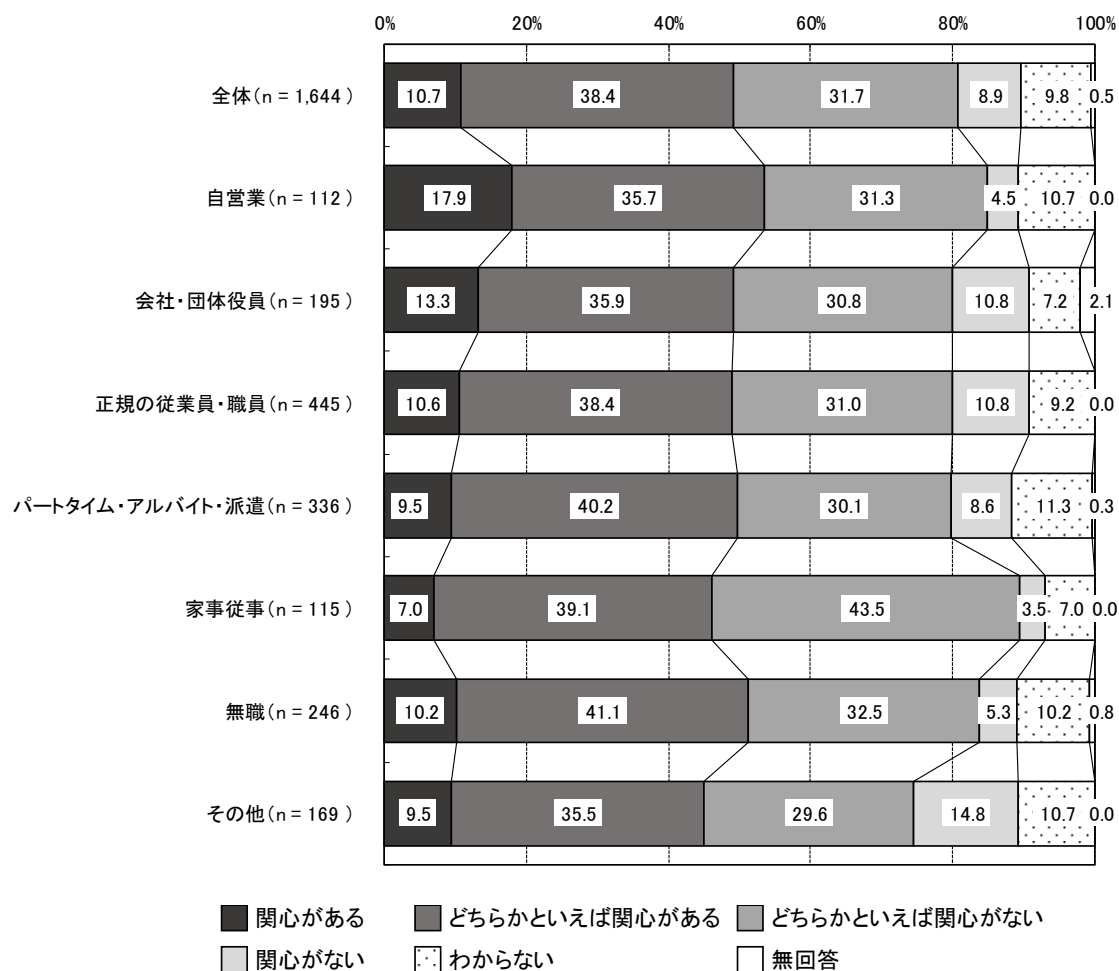
居住圏域別（図 9-6）でみると、飛驒圏域を除くいずれの圏域においても「どちらかといえば関心がある」が最も高く、飛驒圏域では「どちらかといえば関心がない」が最も高くなっている。

図 9-6 【居住圏域別】 県事業への関心の有無



職業別（図 9-7）でみると、家事従事を除くいずれの職業においても「どちらかといえば関心がある」が最も高く、家事従事では「どちらかといえば関心がない」が最も高くなっている。

図 9-7 【職業別】 県事業への関心の有無



※ その他には、自由業、学生を含む。

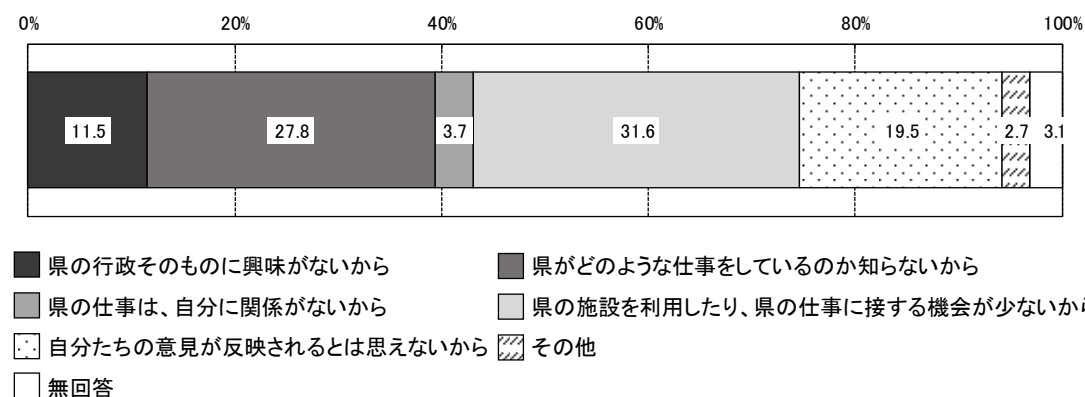
## 問9-2 県事業に関心がない理由

問9-2 「どちらかといえば関心がない」「関心がない」と答えた方にお尋ねします。  
あなたが、岐阜県が行っている事業やその進め方に関心がないのは、  
どのような理由からですか。（1つだけ）

全体（図9-2-1）でみると、「県の施設を利用したり、県の仕事に接する機会が少ないから」が31.6%と最も高く、次いで「県がどのような仕事をしているのか知らないから」（27.8%）、「自分たちの意見が反映されるとは思えないから」（19.5%）の順となっている。

図9-2-1 県事業に関心がない理由

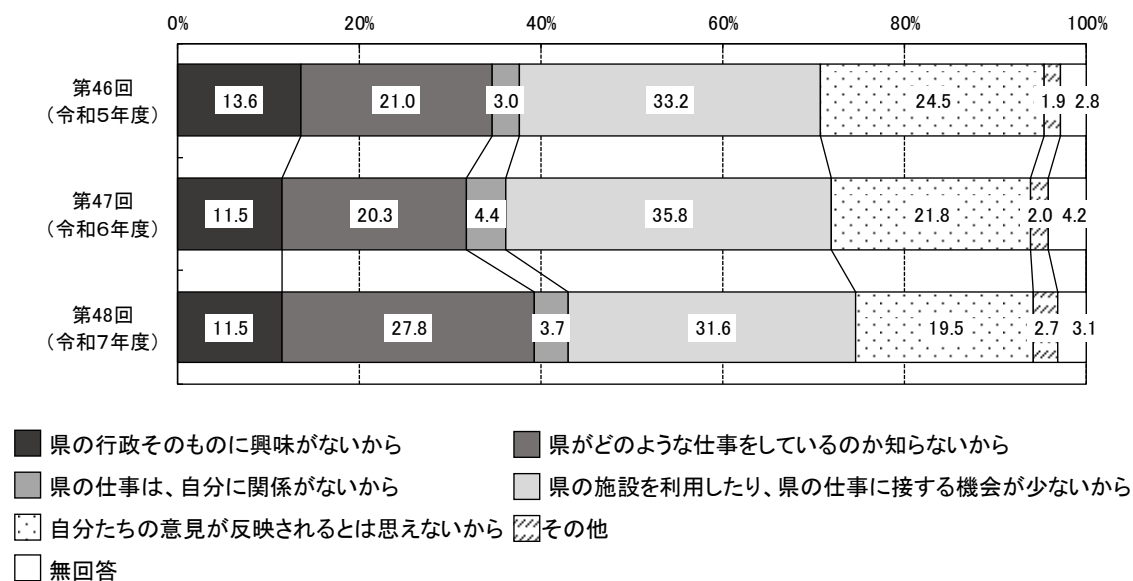
回答者数(n=668)※



※ 問9で「どちらかといえば関心がない」「関心がない」と答えた方のみ

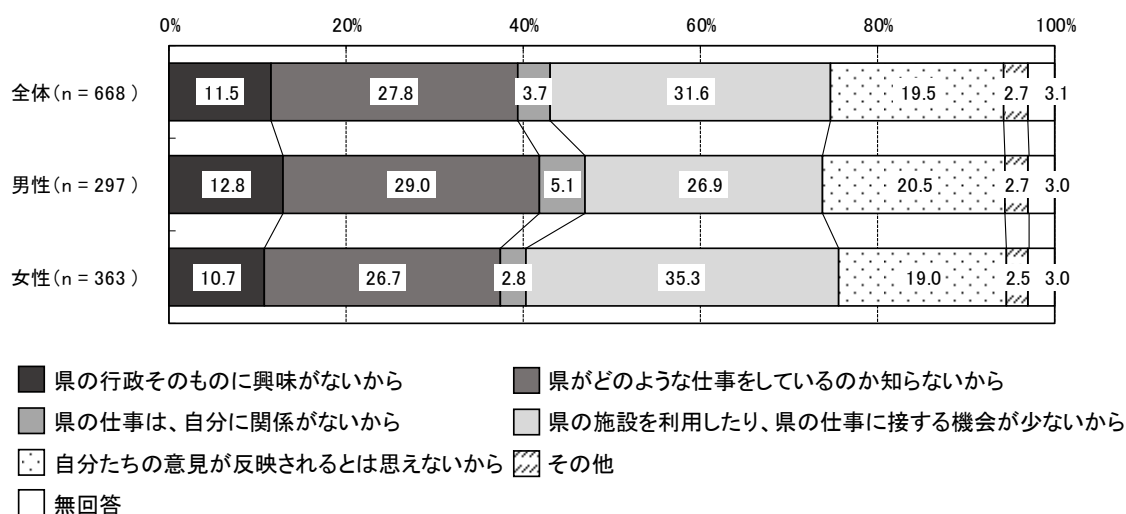
前々回・前回比較（図9-2-2）でみると、令和7年は、前年より「県がどのような仕事をしているのか知らないから」が7.5ポイント増加している。

図9-2-2 【前々回・前回比較】 県事業に関心がない理由



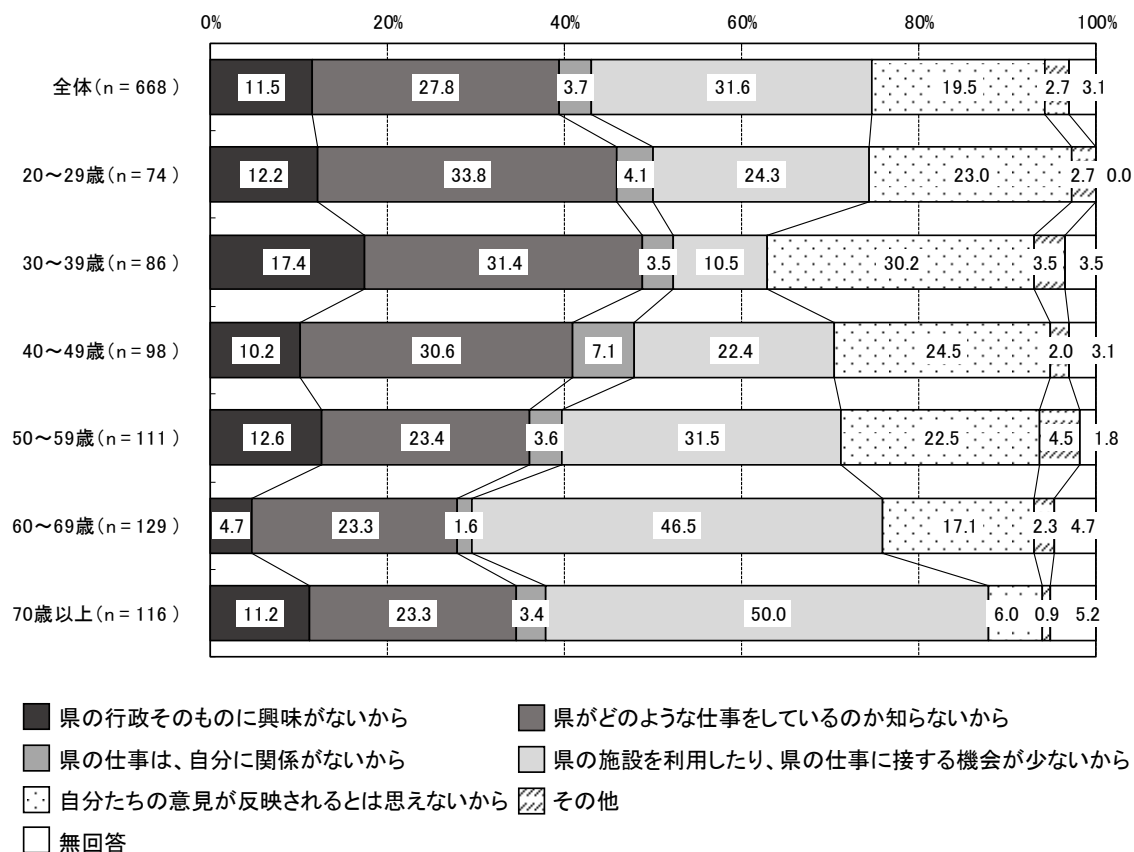
性別（図 9-2-3）でみると、男性では「県がどのような仕事をしているのか知らないから」（29.0%）、女性では「県の施設を利用したり、県の仕事に接する機会が少ないから」（35.3%）が最も高くなっている。

図 9-2-3 【性別】 県事業に関心がない理由



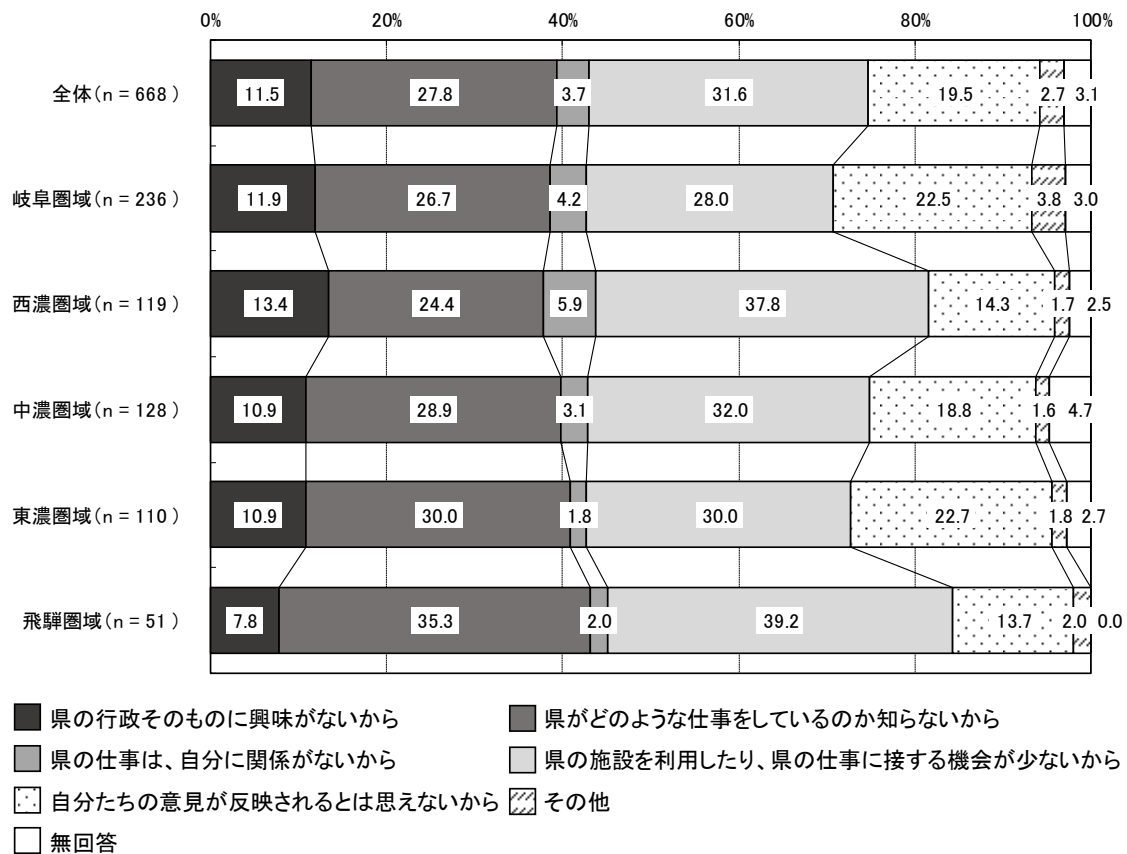
年代別（図 9-2-4）でみると、20 歳代、30 歳代、40 歳代では「県がどのような仕事をしているのか知らないから」、50 歳代、60 歳代、70 歳以上は「県の施設を利用したり、県の仕事に接する機会が少ないから」が最も高くなっている。

図 9-2-4 【年代別】 県事業に関心がない理由



居住圏域別（図 9-2-5）でみると、いずれの居住圏域においても「県の施設を利用したり、県の仕事に接する機会が少ないから」が最も高くなっている（東濃圏域では「県がどのような仕事をしているのか知らないから」も同率）。

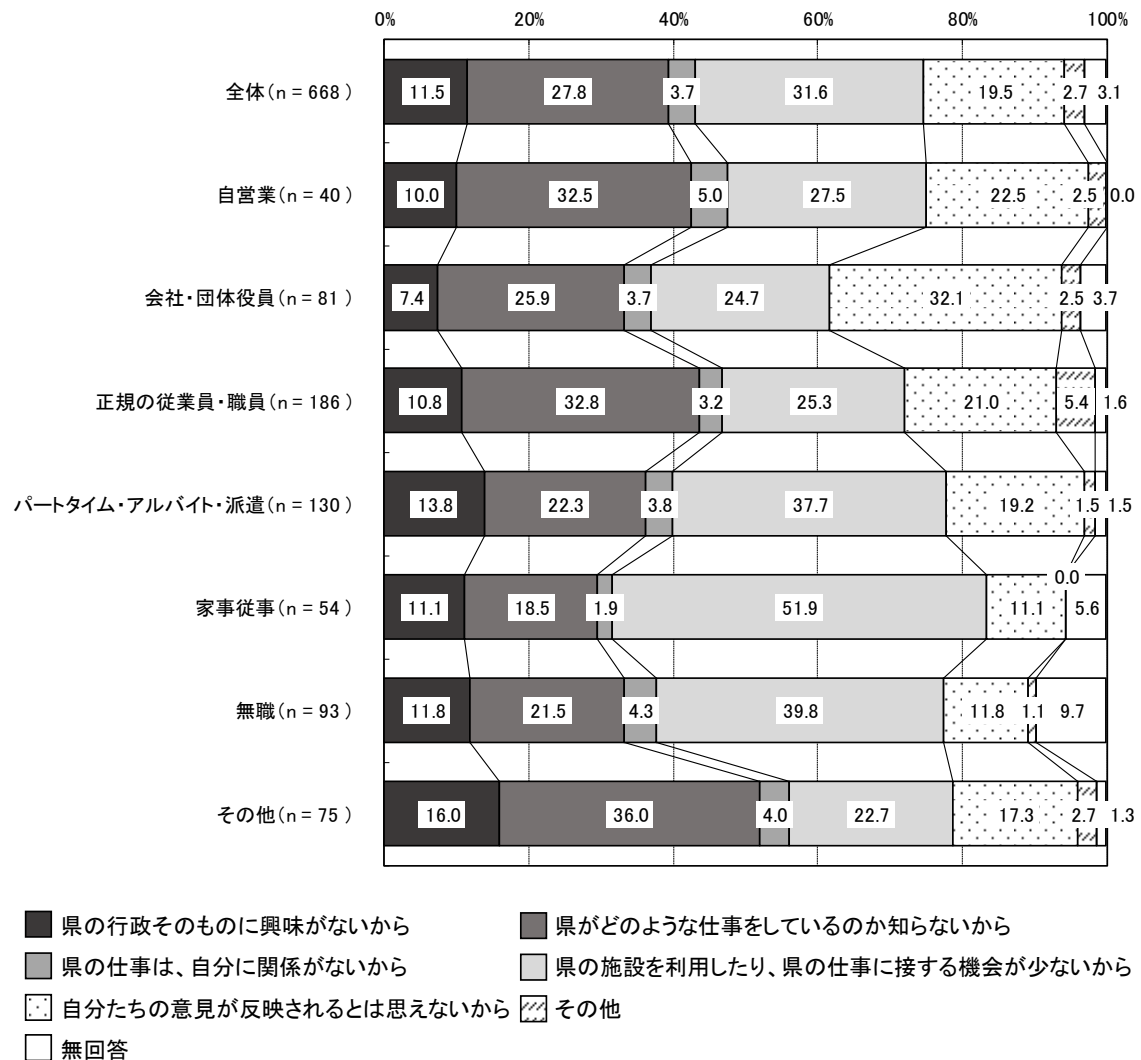
図 9-2-5 【居住圏域別】 県事業に関心がない理由





職業別（図 9-2-6）でみると、自営業、正規の従業員・職員、その他では「県がどのような仕事をしているのか知らないから」、会社・団体役員では「自分たちの意見が反映されるとは思えないから」、パートタイム・アルバイト・派遣、家事従事、無職では「県の施設を利用したり、県の仕事に接する機会が少ないから」が最も高くなっている。

図 9-2-6 【職業別】 県事業に関心がない理由



※ その他には、自由業、学生を含む。

## 問10 県の実施策でよくできていると思う分野、努力が足りないと思う分野

問10 あなたが、県の実施策についてよくできていると思うのは、どの分野ですか。  
また、努力が足りないと思うのは、どの分野ですか。（それぞれ5つまで）

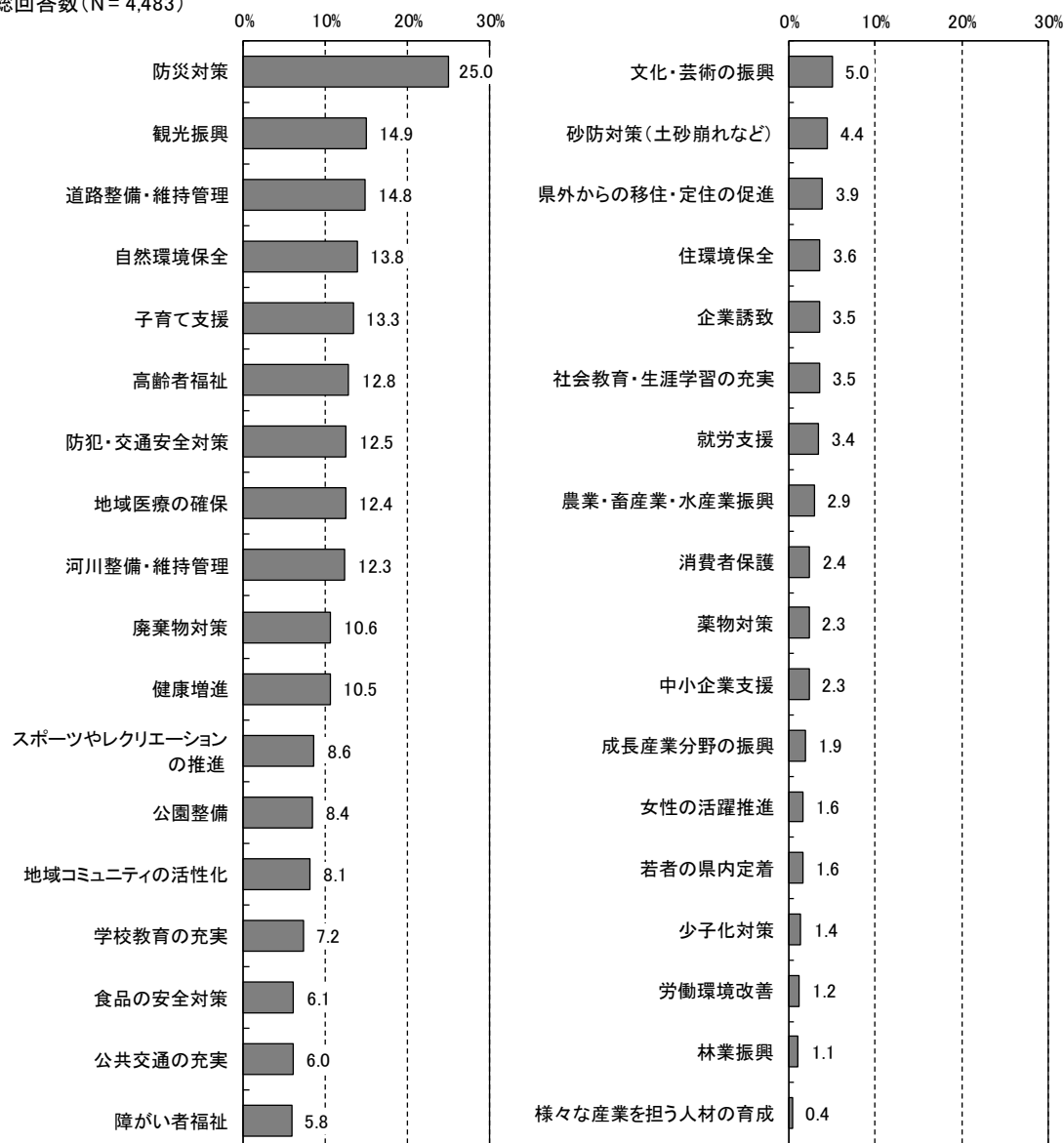
### 【県の実施策でよくできていると思う分野】

全体（図10-1）でみると、「防災対策」が25.0%と最も高く、次いで「観光振興」（14.9%）、  
「道路整備・維持管理」（14.8%）の順となっている。

図10-1 県の実施策でよくできていると思う分野

回答者数（n=1,644）

総回答数（N=4,483）



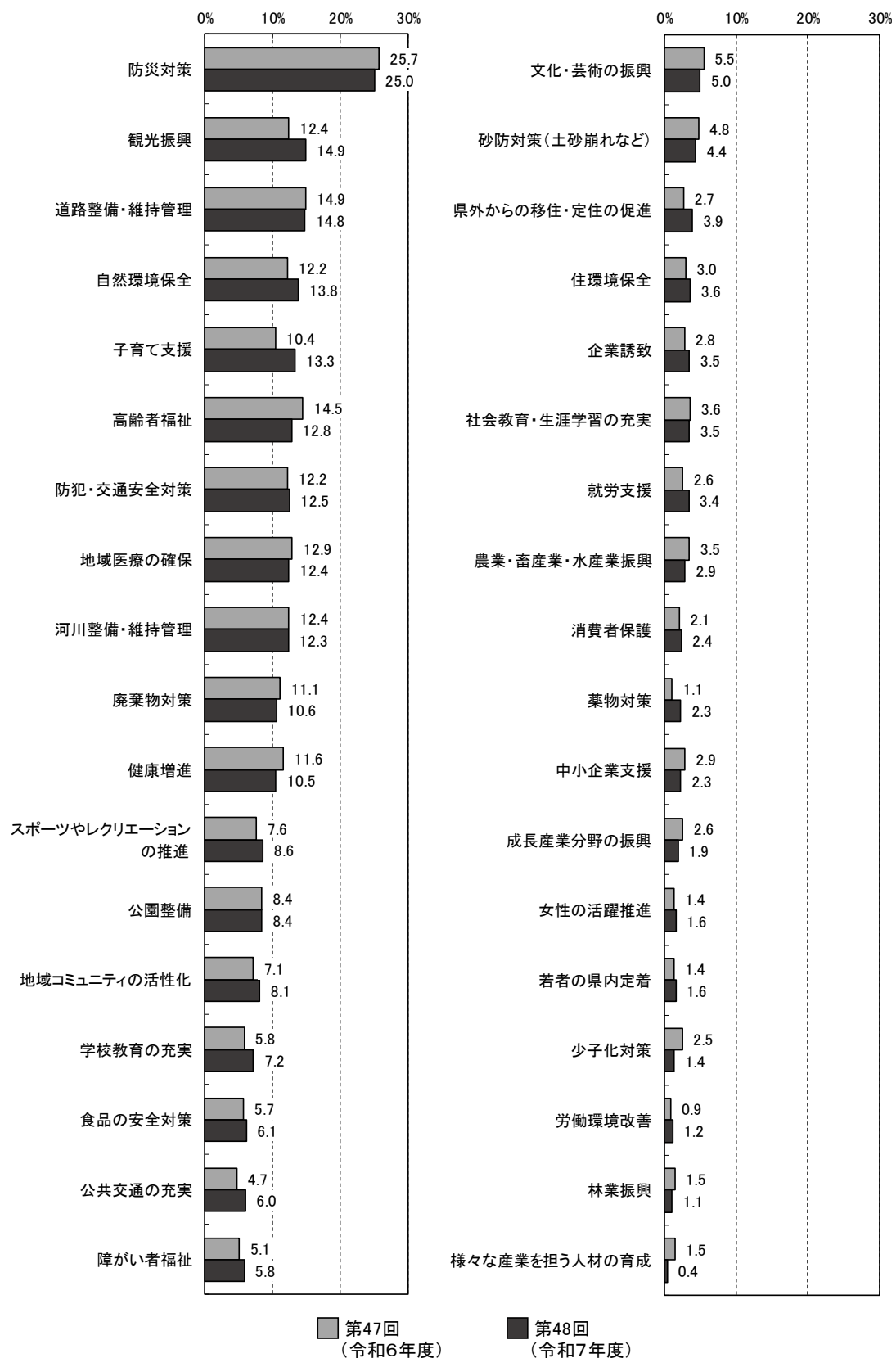
※ 成長産業：岐阜県においては、航空宇宙、医療福祉機器、医薬品、食料品、次世代エネルギーを位置づけている。（令和7年度現在）

※ 本問における選択肢は、図表の構成上、以下のとおり略して表示しているものがある。

・住環境保全：騒音・振動・大気・土壌対策などの住環境保全

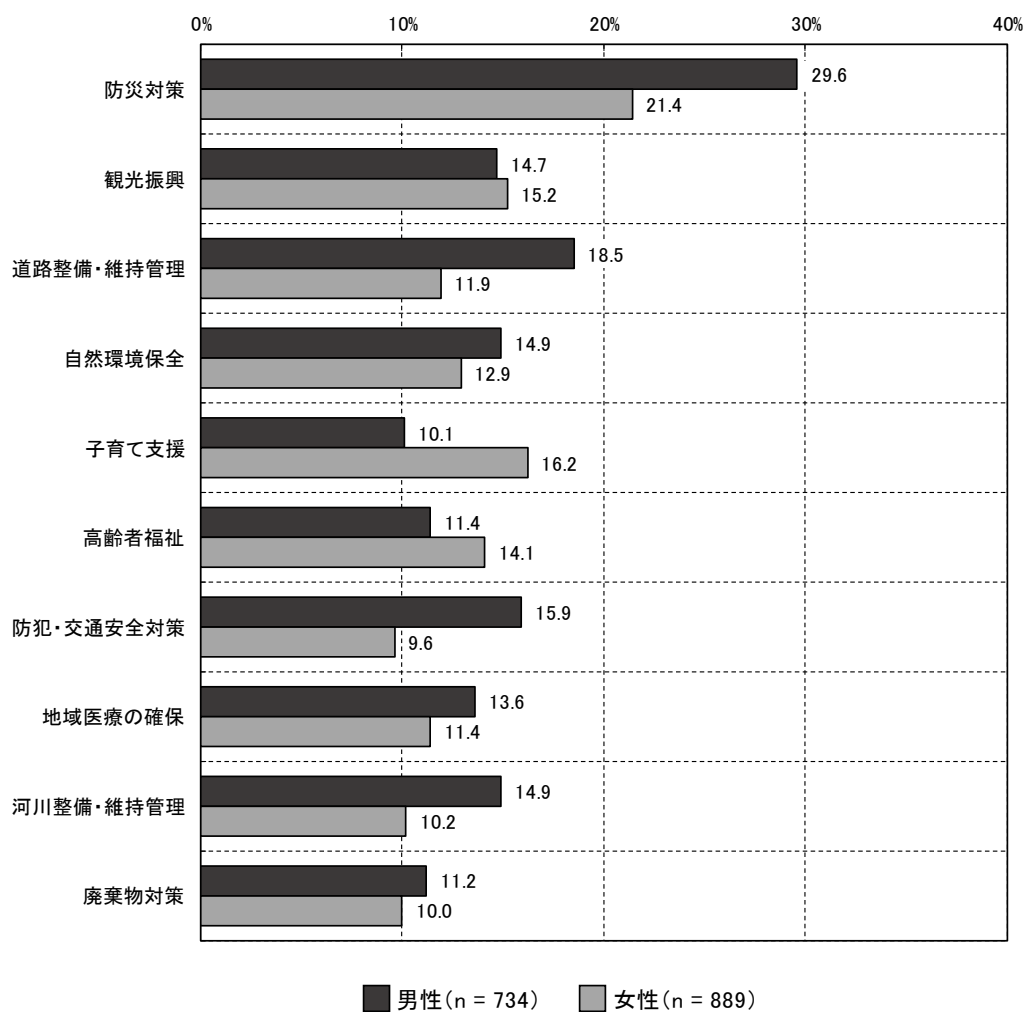
前回比較（図 10-2）でみると、前回に続き「防災対策」が最も高くなっている。前回第 5 位の「観光振興」は第 2 位となっている。

図 10-2 【前回比較】県の実施でよくやっていると思う分野



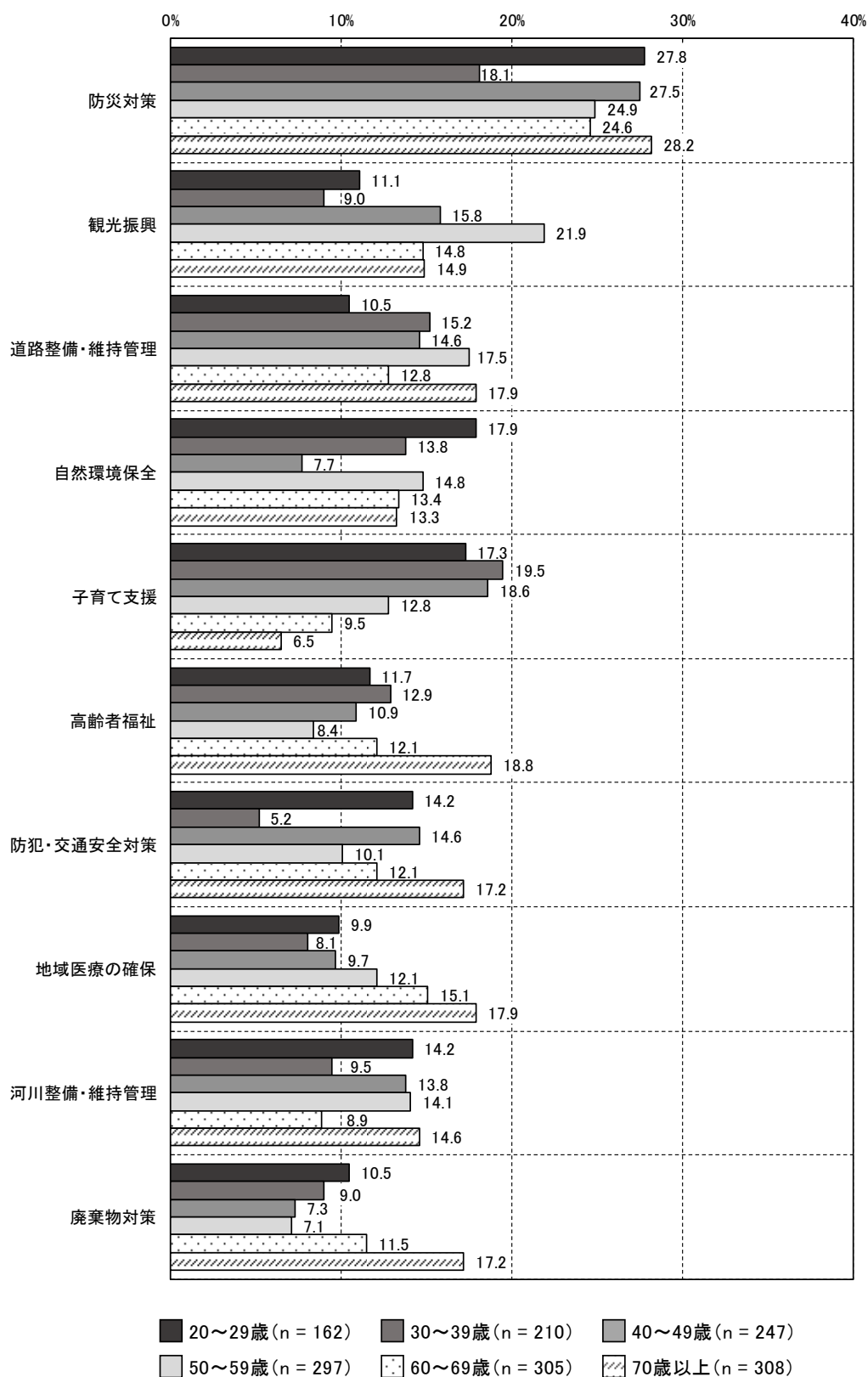
性別（図 10-3）でみると、男女ともに「防災対策」が最も高く、次いで、男性では「道路整備・維持管理」が 18.5%、女性では「子育て支援」が 16.2%となっている。

図 10-3 【性別】 県の取組でよくやっていると思う分野(上位 10 施策)



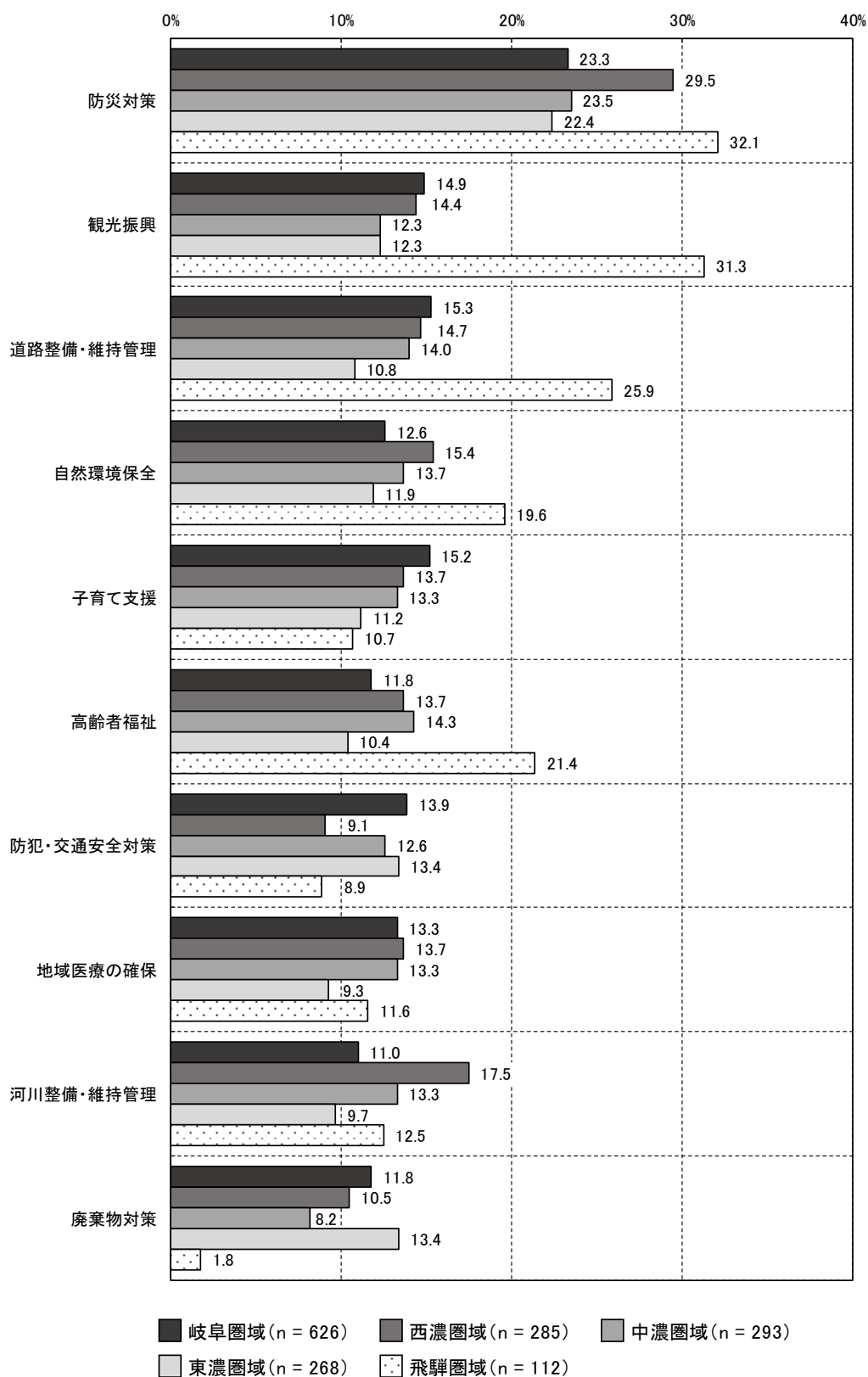
年代別（図 10-4）でみると、30 歳代を除くいずれの年代においても「防災対策」が最も高く、30 歳代では「子育て支援」が最も高くなっている。

図 10-4 【年代別】 県の取組でよくやっていると思う分野（上位 10 施策）



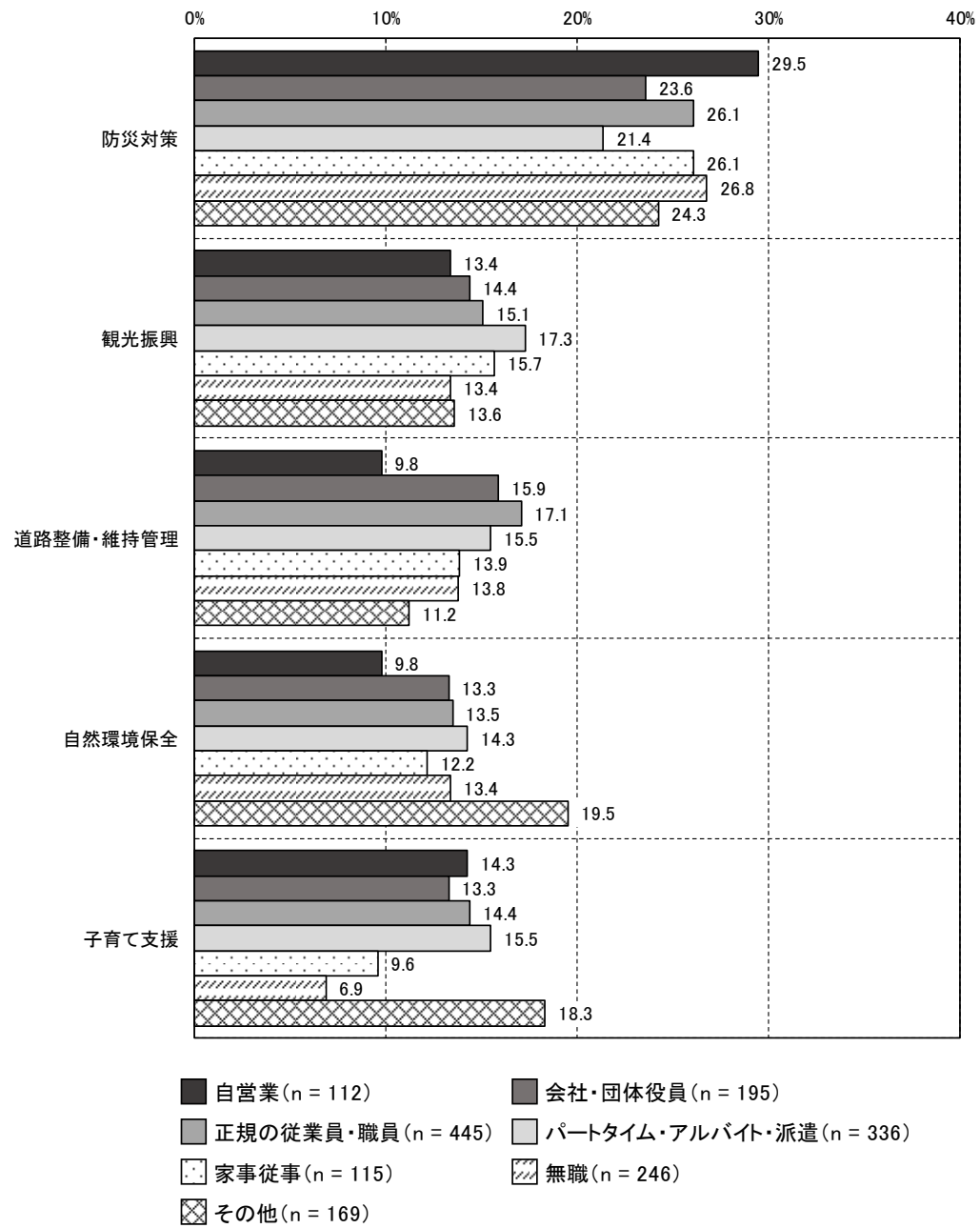
居住圏域別（図 10-5）でみると、いずれの居住圏域においても「防災対策」が最も高く、そのうち飛騨圏域が 32.1%と最も高くなっている。また、飛騨圏域では「観光振興」「道路整備・維持管理」が、他の居住圏域に比べて高くなっている。

図 10-5 【居住圏域別】 県の取組でよくやっていると思う分野(上位 10 施策)



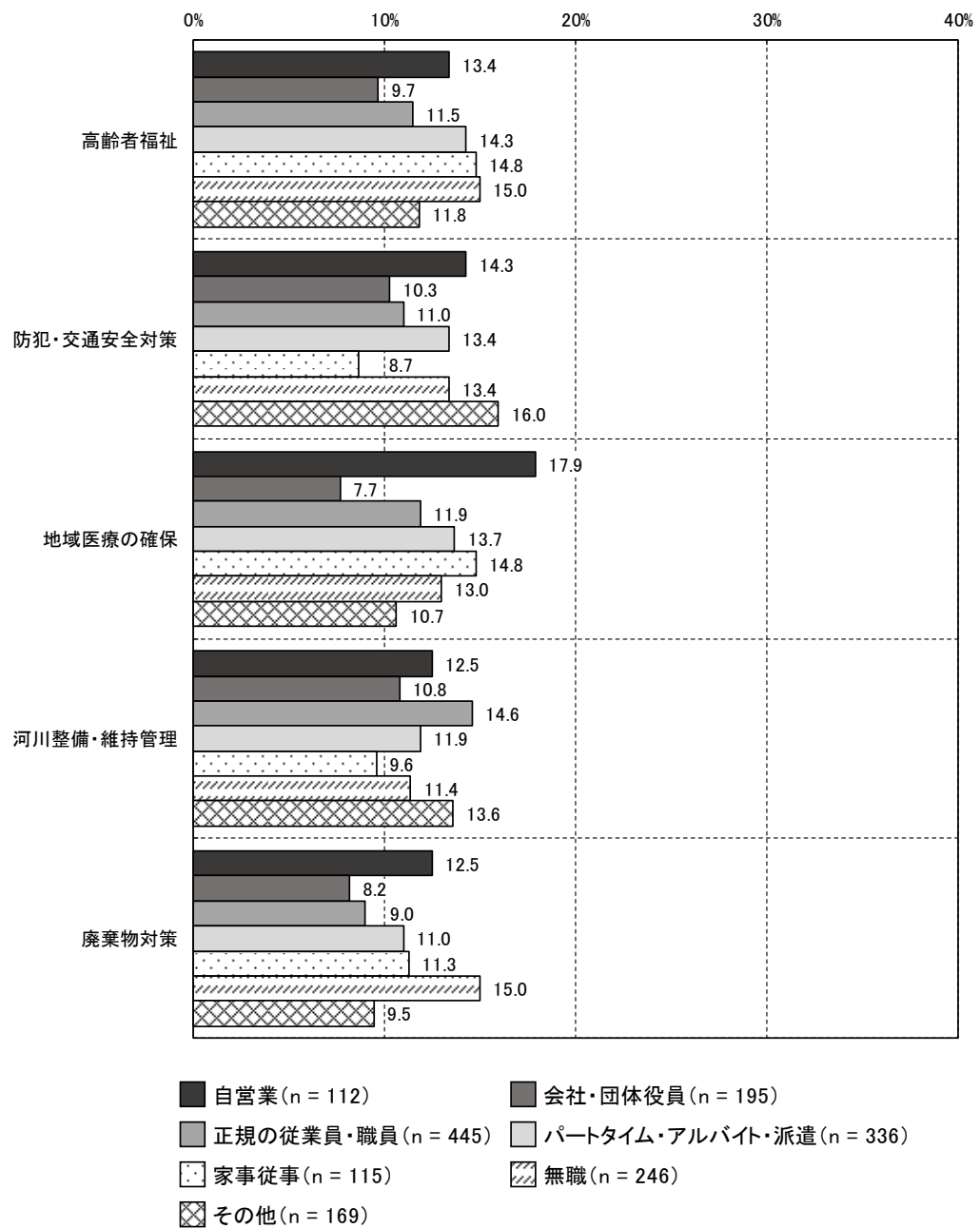
職業別（図 10-6）でみると、いずれの職業においても「防災対策」が最も高くなっている。

図 10-6 【職業別】 県の取組でよくやっていると思う分野（上位 10 施策）



※ その他には、自由業、学生を含む。

図 10-6 【職業別】 県の取組でよくやっていると思う分野(上位 10 施策) (続き)



※ その他には、自由業、学生を含む。

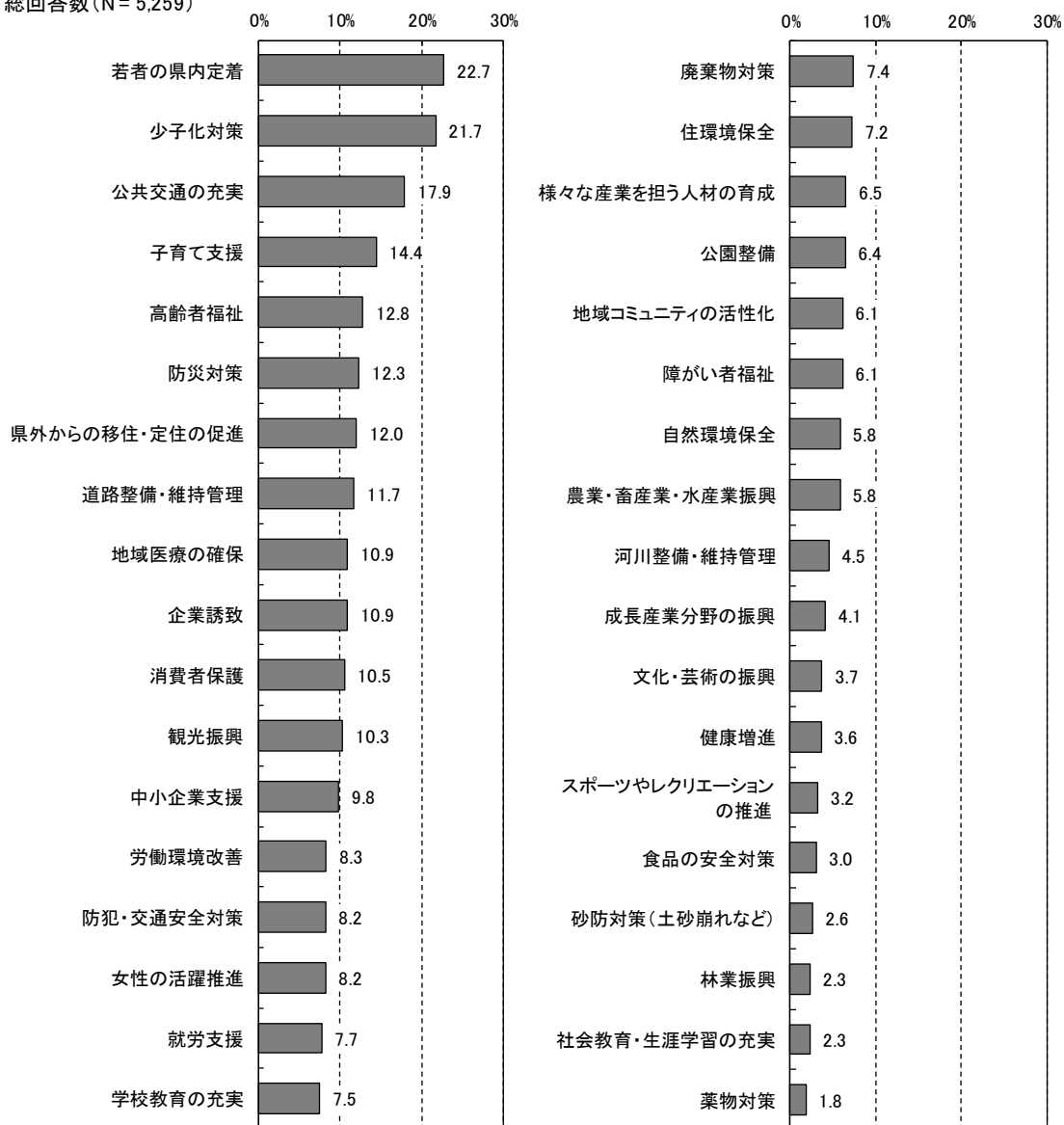


# 【県の取組で努力が足りないと思う分野】

全体（図 10-2-1）でみると、「若者の県内定着」が 22.7%と最も高く、次いで「少子化対策」（21.7%）、「公共交通の充実」（17.9%）の順となっている。

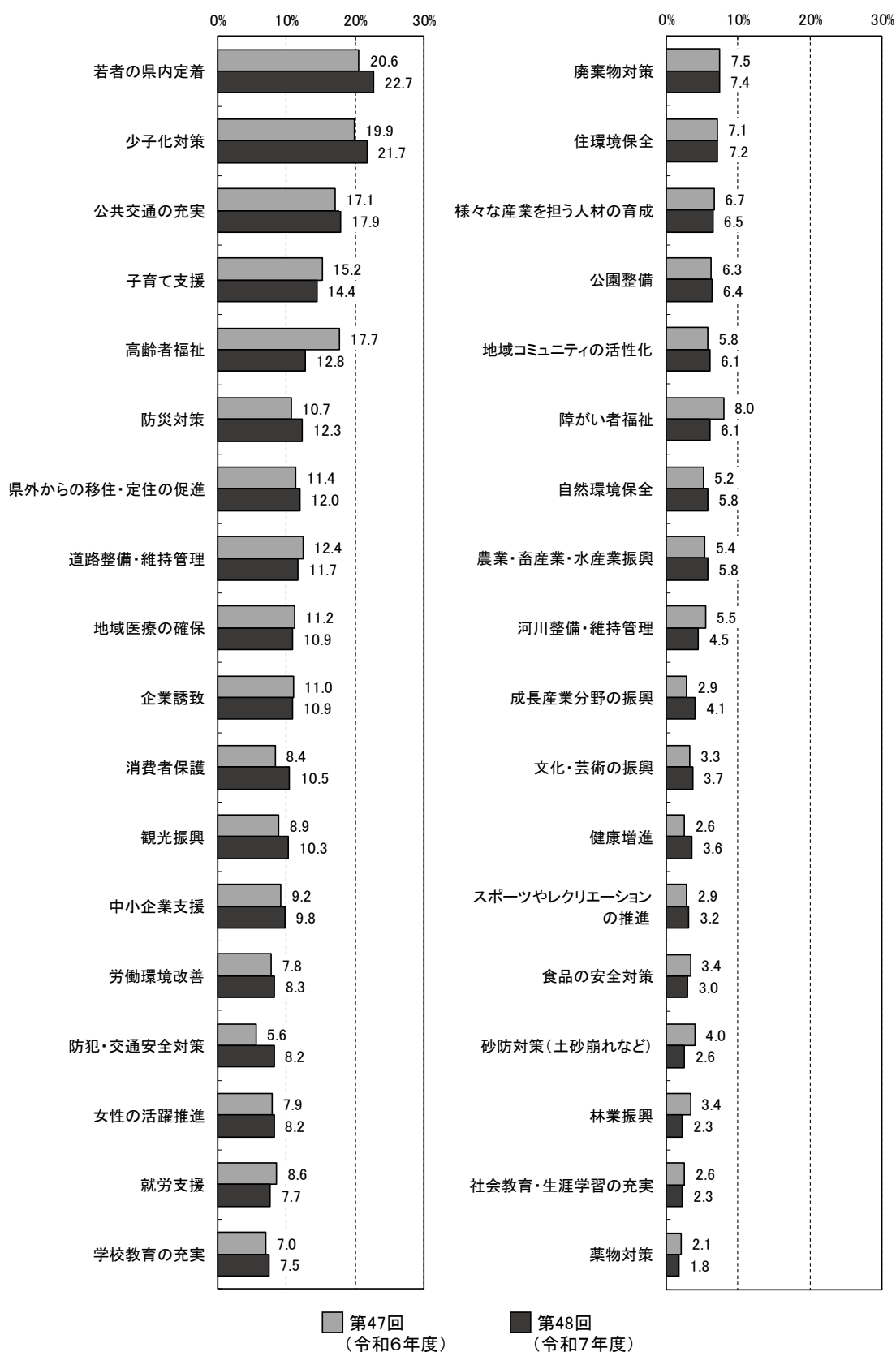
図 10-2-1 県の取組で努力が足りないと思う分野

回答者数 (n = 1,644)  
総回答数 (N = 5,259)



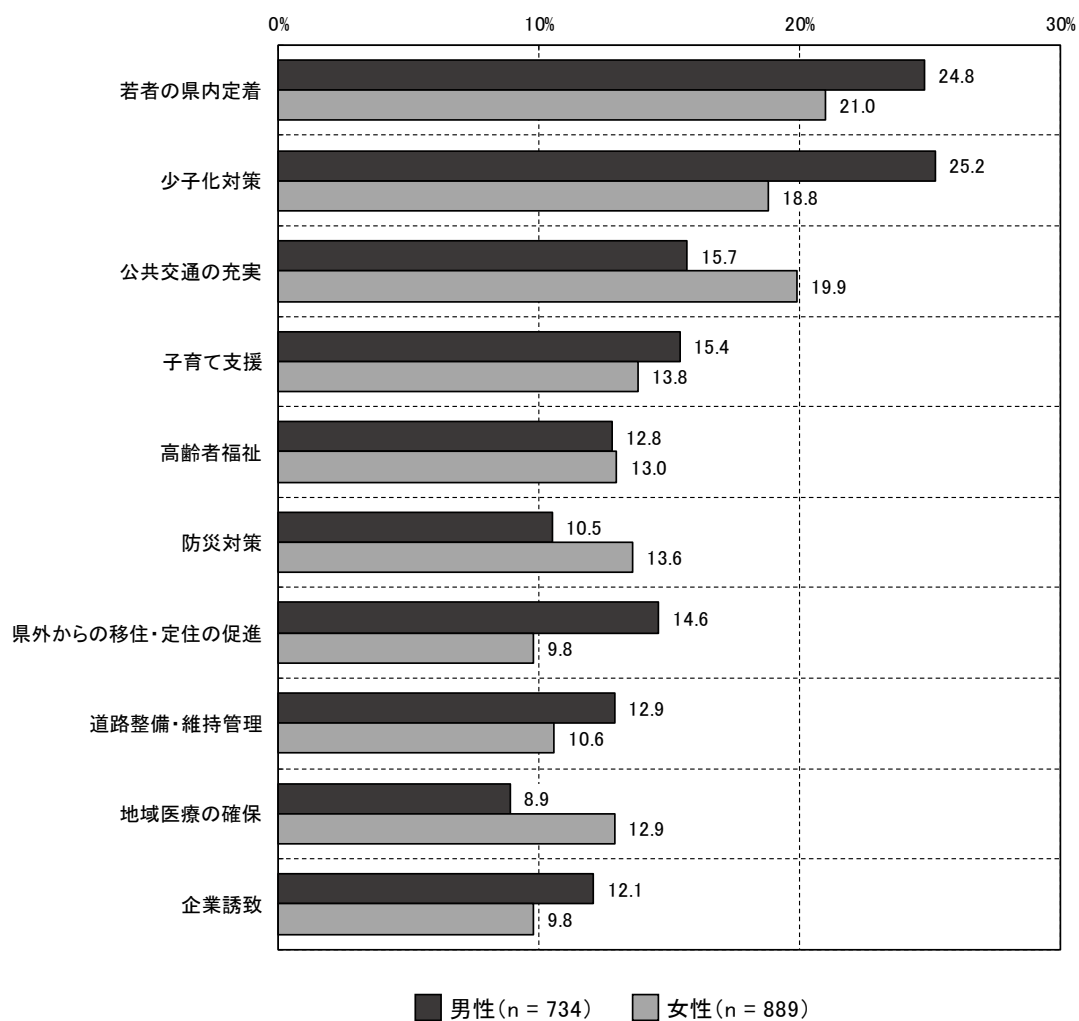
前回比較（図 10-2-2）でみると、前回に続き「若者の県内定着」が最も高く、次いで「少子化対策」の順となっている。

図 10-2-2 【前回比較】県の実施で努力が足りないと思う分野



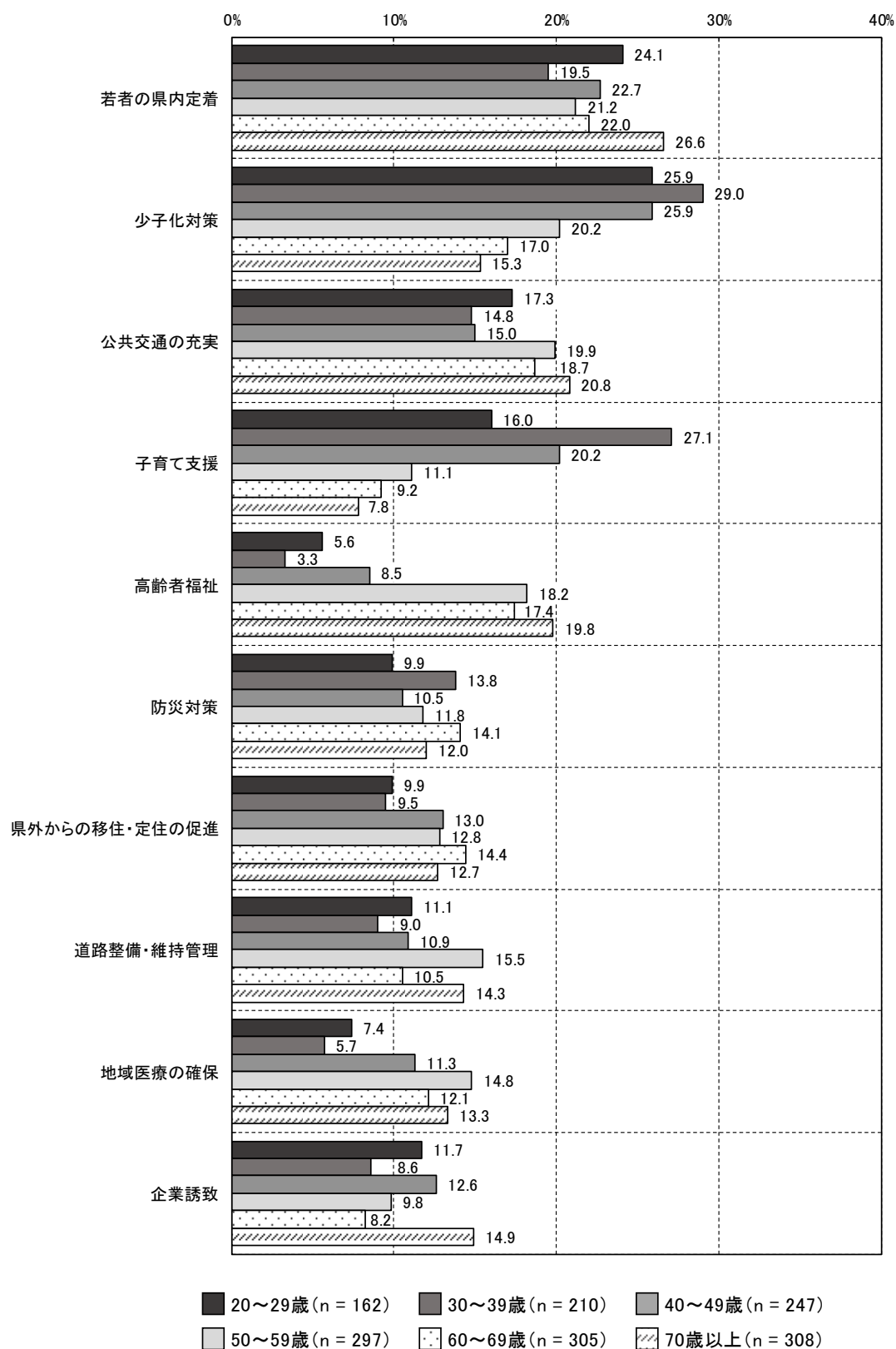
性別（図 10-2-3）でみると、男性では「少子化対策」（25.2％）が最も高く、女性では「若者の県内定着」（21.0％）が最も高くなっている。

図 10-2-3 【性別】 県の取組で努力が足りないと思う分野（上位 10 施策）



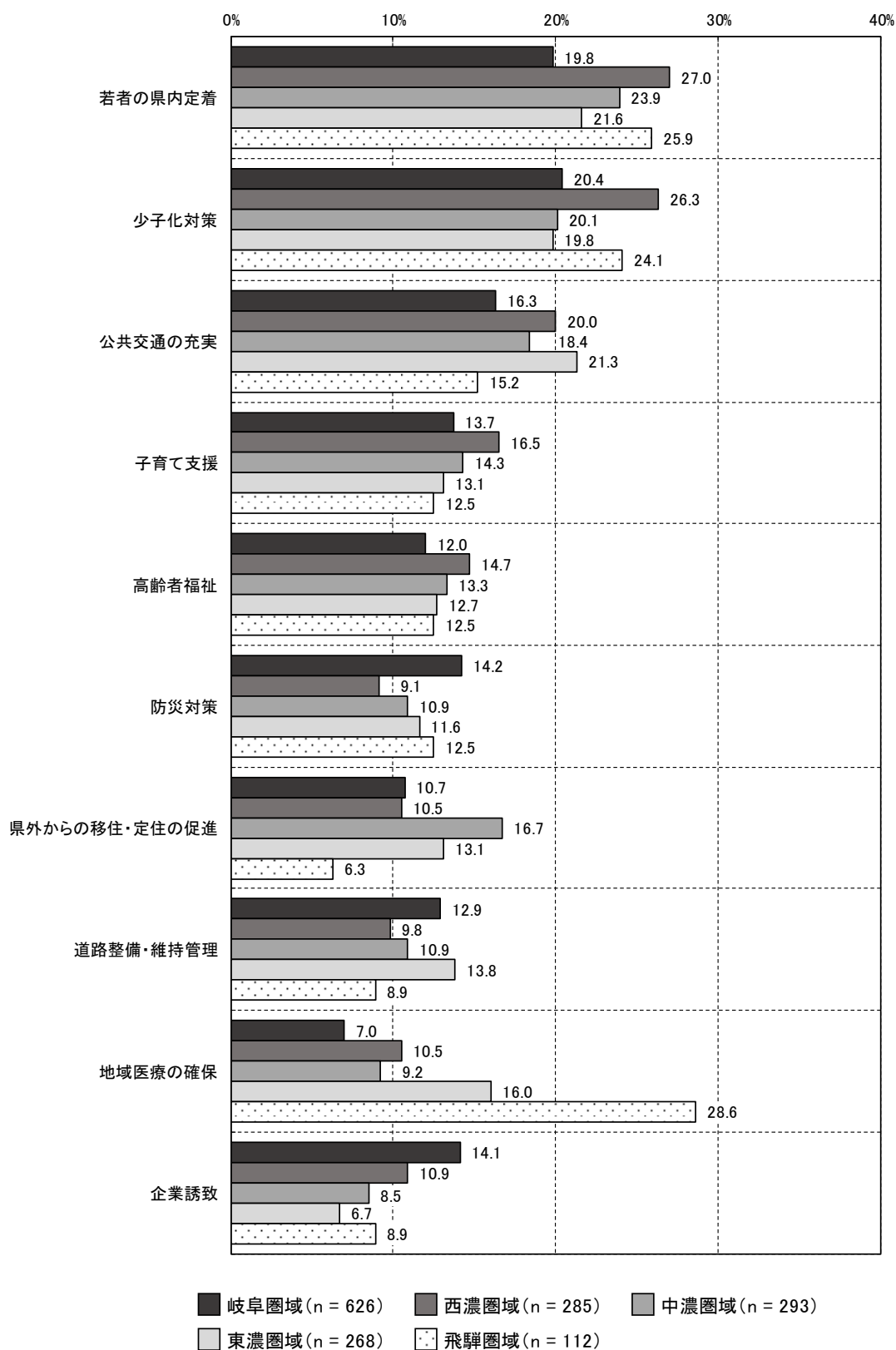
年代別（図 10-2-4）で見ると、20 歳代、30 歳代、40 歳代では「少子化対策」、50 歳代、60 歳代、70 歳以上では「若者の県内定着」が最も高くなっている。

図 10-2-4 【年代別】 県の取組で努力が足りないと思う分野(上位 10 施策)



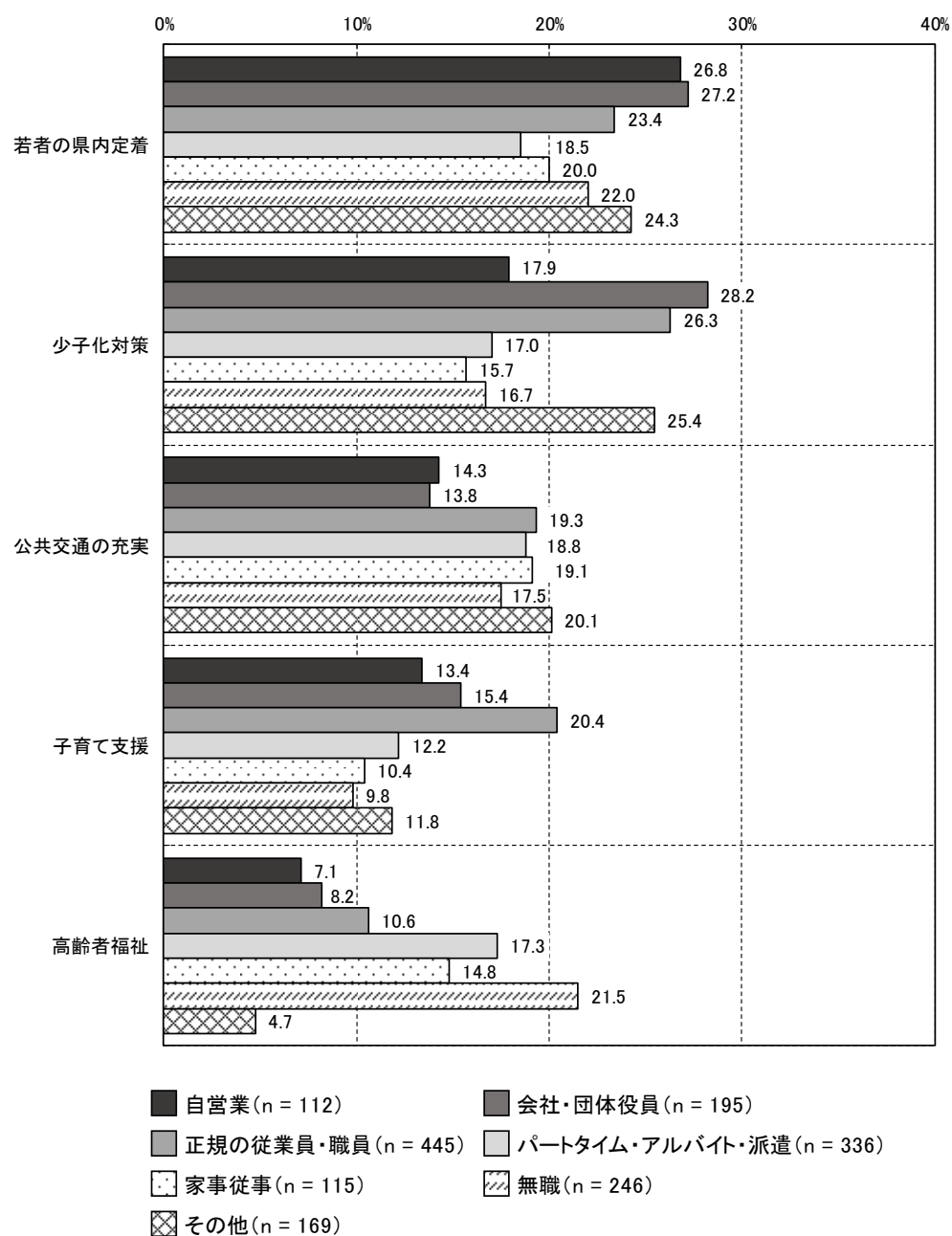
居住圏域別（図 10-2-5）でみると、西濃圏域、中濃圏域、東濃圏域では「若者の県内定着」が最も高く、岐阜圏域では「少子化対策」、飛騨圏域では「地域医療の確保」が最も高くなっている。

図 10-2-5 【居住圏域別】 県の取組で努力が足りないと思う分野(上位 10 施策)



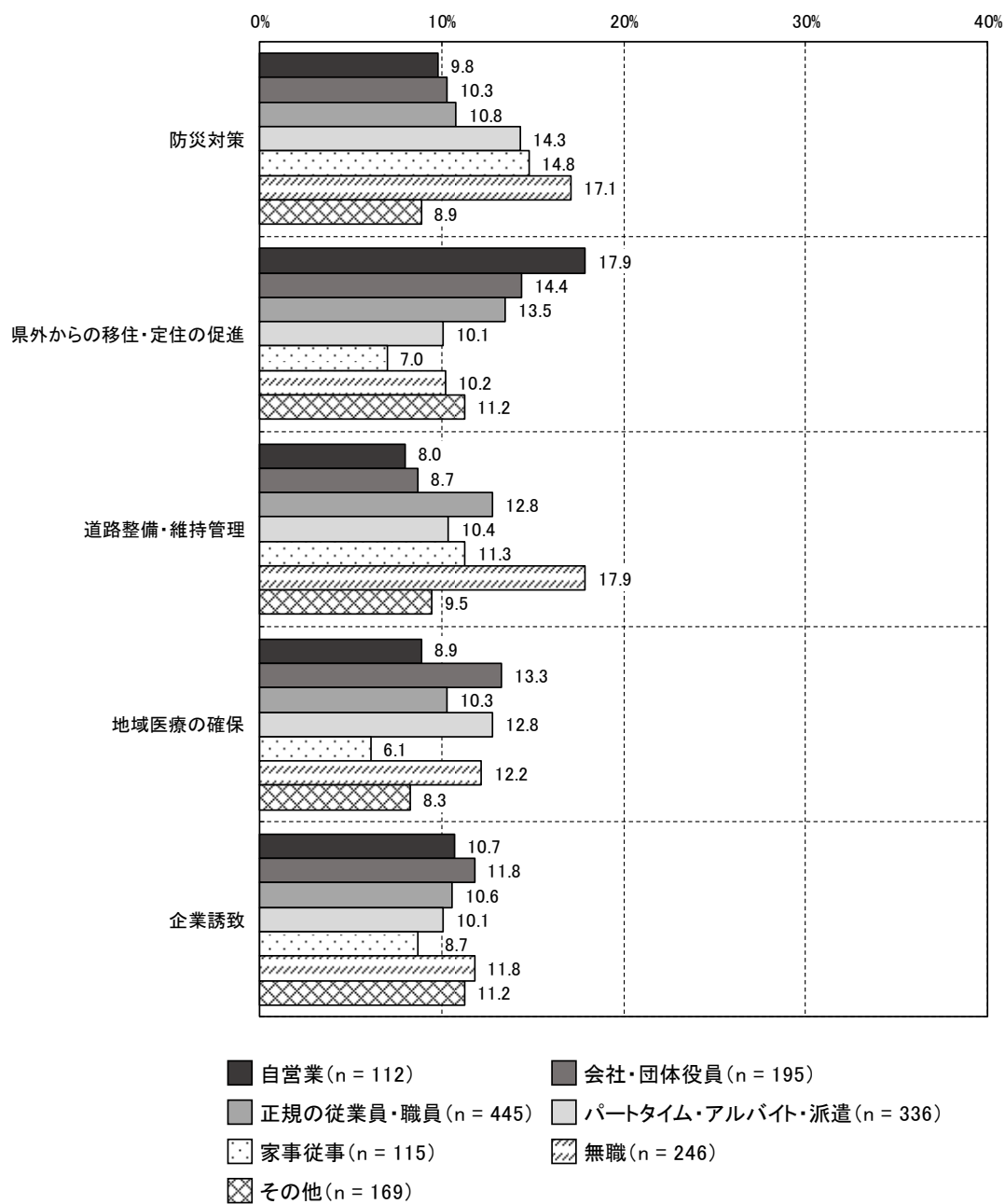
職業別（図 10-2-6）でみると、自営業、家事従事、無職では「若者の県内定着」、会社・団体役員、正規の従業員・職員、その他では「少子化対策」、パートタイム・アルバイト・派遣では「公共交通の充実」が最も高くなっている。

図 10-2-6 【職業別】 県の取組で努力が足りないと思う分野(上位 10 施策)



※ その他には、自由業、学生を含む。

図 10-2-6 【職業別】 県の実施で努力が足りないと思う分野(上位 10 施策) (続き)



※ その他には、自由業、学生を含む。

## 問11 重点的に進めるべきだと思う分野

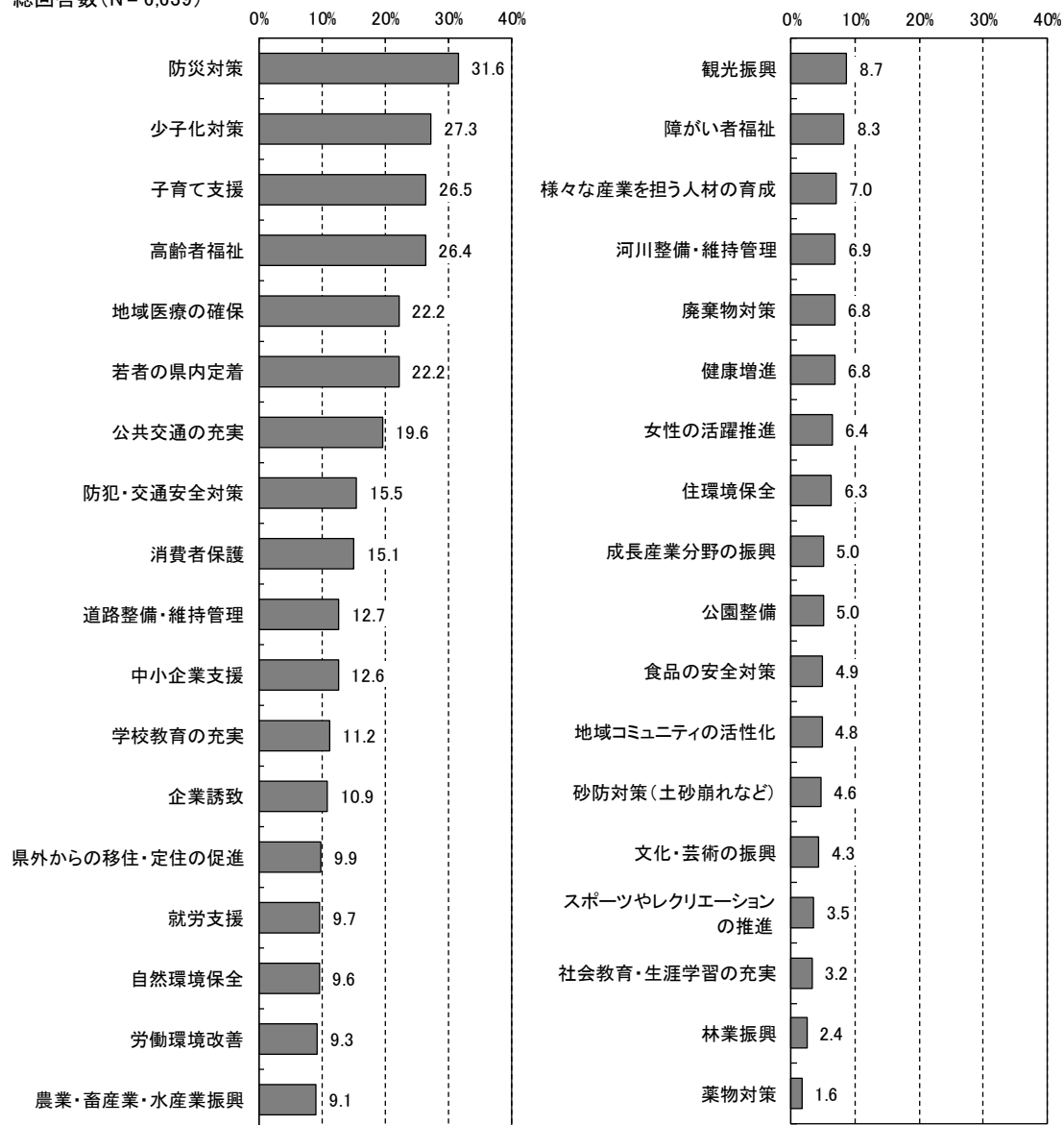
問11 あなたは、今後、県がどのような分野を重点的に進めるべきだと思いますか。  
(5つまで)

全体(図11-1)でみると、「防災対策」が31.6%と最も高く、次いで「少子化対策」(27.3%)、「子育て支援」(26.5%)の順となっている。

図11-1 重点的に進めるべきだと思う分野

回答者数(n=1,644)

総回答数(N=6,639)



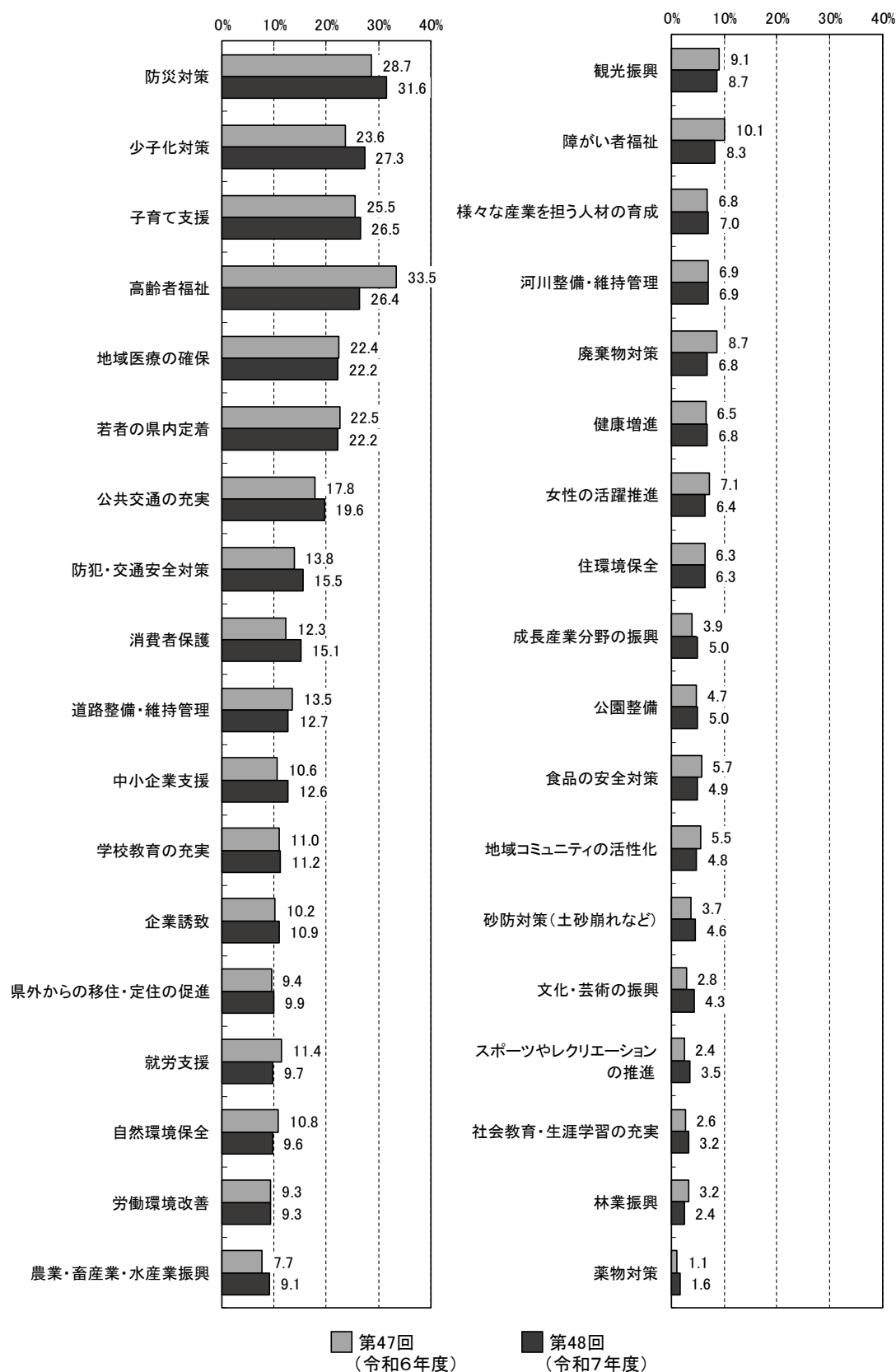
※ 本問における選択肢は、図表の構成上、以下のとおり略して表示しているものがある。

・住環境保全:騒音・振動・大気・土壌対策などの住環境保全



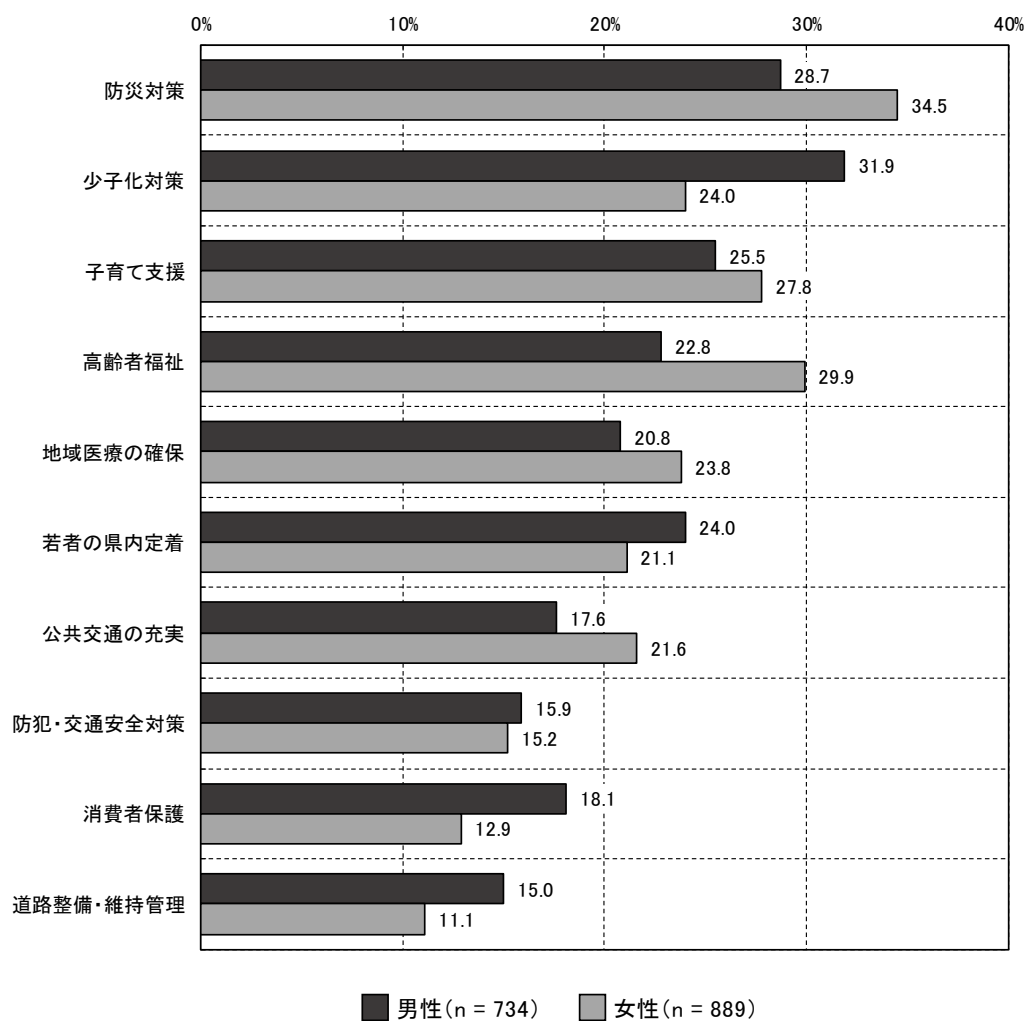
前回比較（図 11-2）でみると、前回第 2 位の「防災対策」が最も高くなり、前回第 1 位の「高齢者福祉」は第 4 位となっている。

図 11-2 【前回比較】重点的に進めるべきだと思う分野



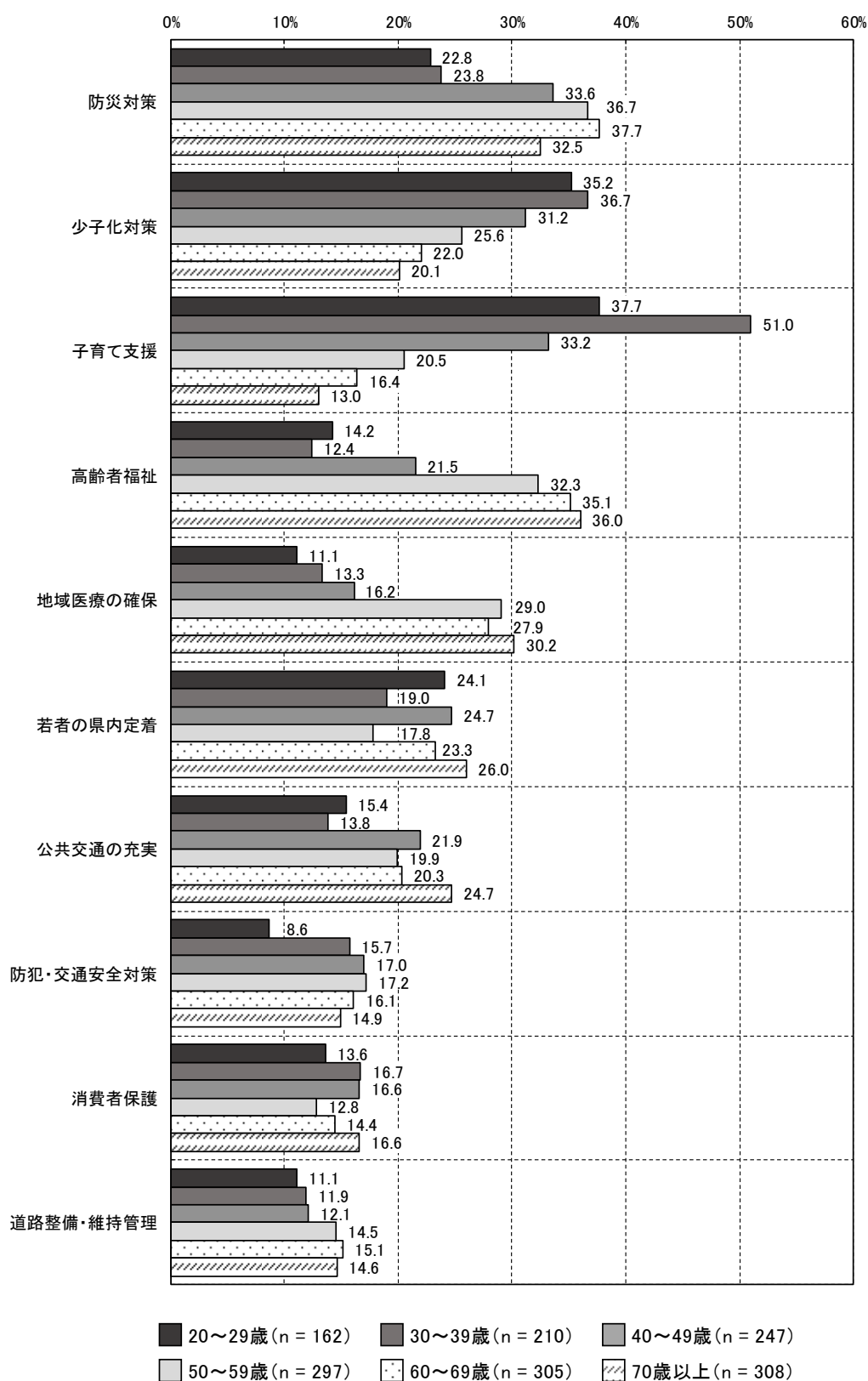
性別（図 11-3）でみると、男性では「少子化対策」（31.9%）が最も高く、女性では「防災対策」（34.5%）が最も高くなっている。

図 11-3 【性別】 重点的に進めるべきだと思う分野（上位 10 施策）



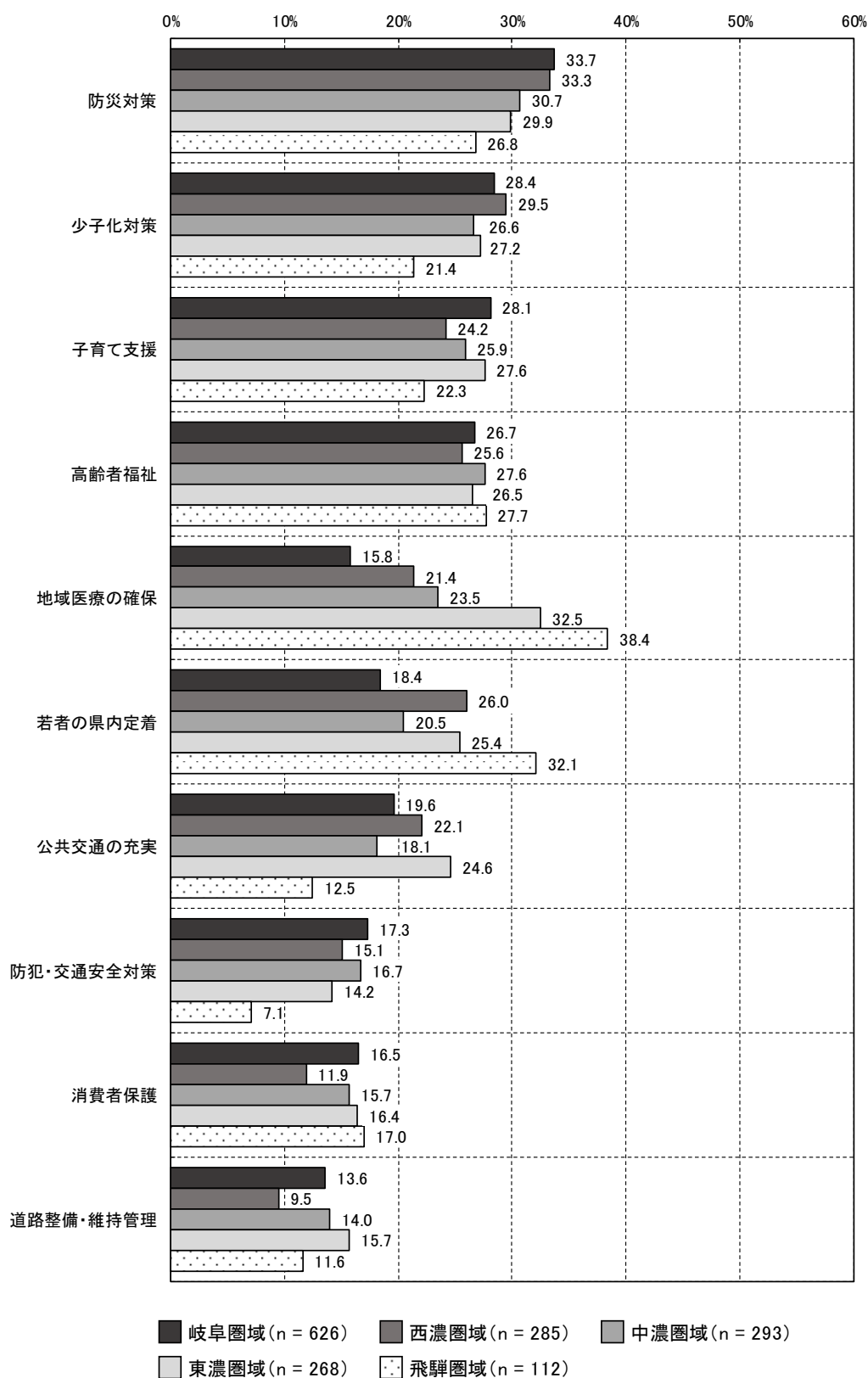
年代別（図 11-4）でみると、20 歳代、30 歳代では「子育て支援」、40 歳代、50 歳代、60 歳代では「防災対策」、70 歳以上では「高齢者福祉」が最も高くなっている。

図 11-4 【年代別】 重点的に進めるべきだと思う分野(上位 10 施策)



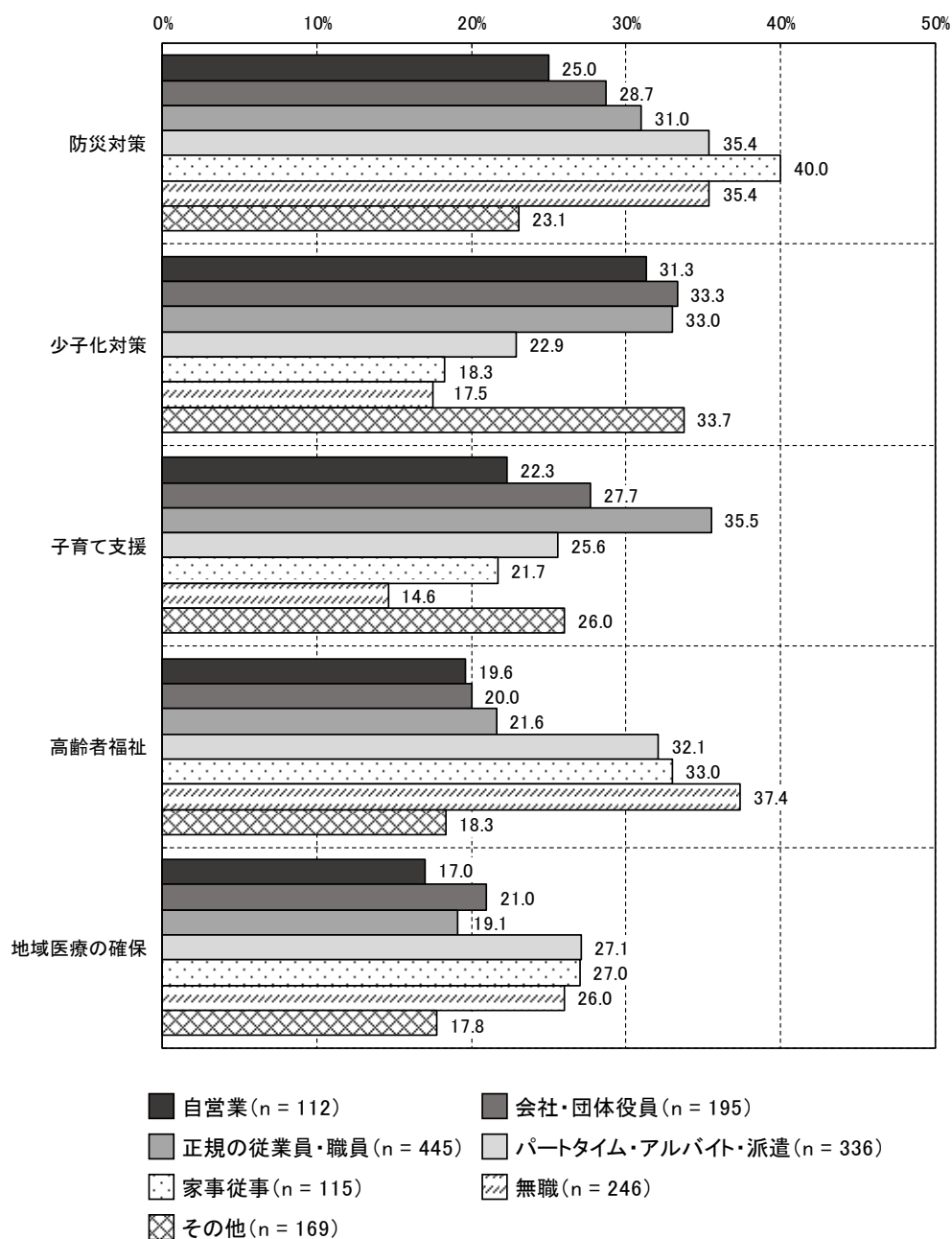
居住圏域別（図 11-5）でみると、岐阜圏域、西濃圏域、中濃圏域では「防災対策」、東濃圏域、飛騨圏域では「地域医療の確保」が最も高くなっている。

図 11-5 【居住圏域別】 重点的に進めるべきだと思う分野(上位 10 施策)



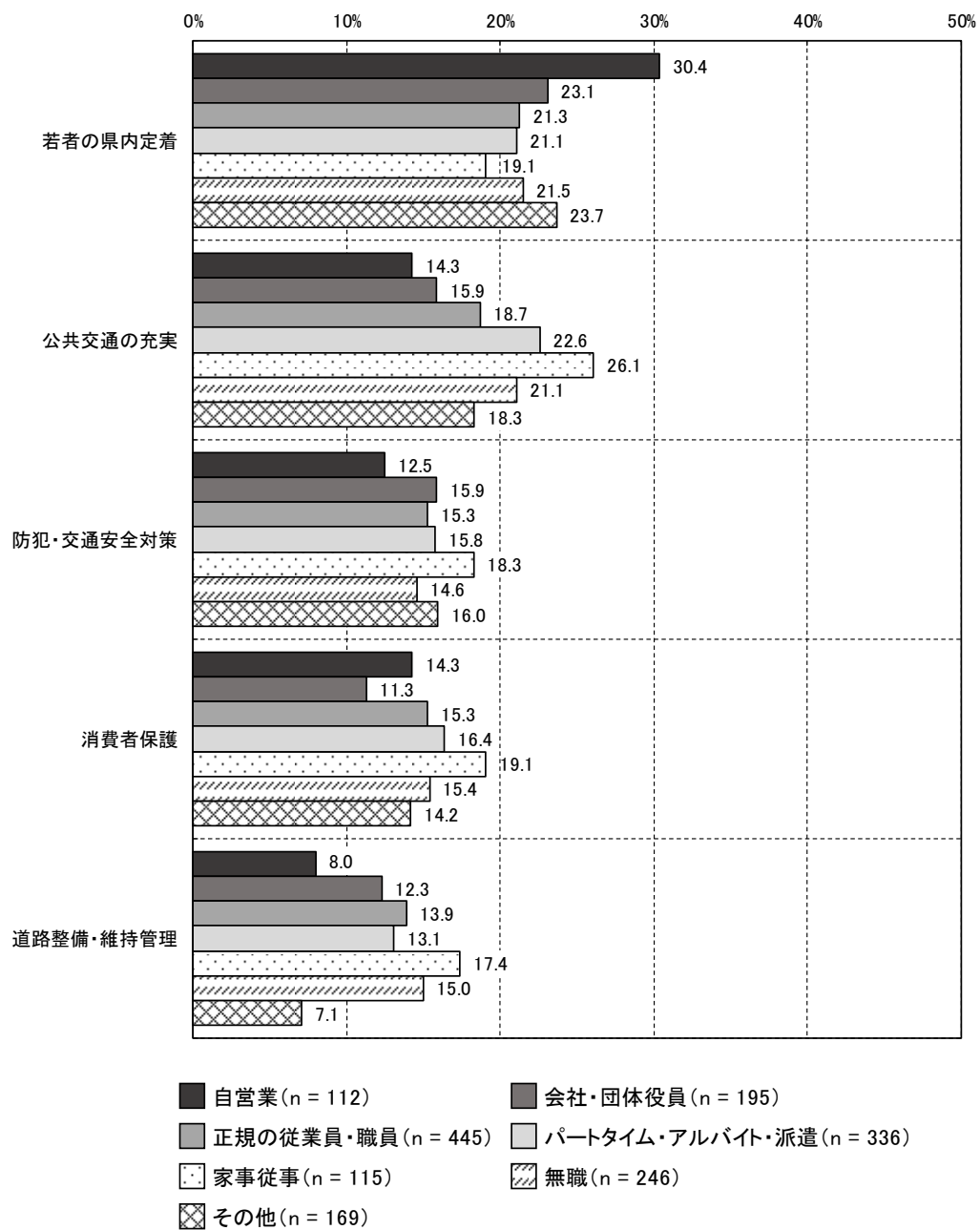
職業別（図 11-6）でみると、自営業、会社・団体役員、その他では「少子化対策」、正規の従業員・職員では「子育て支援」、パートタイム・アルバイト・派遣、家事従事では「防災対策」、無職では「高齢者福祉」がそれぞれ最も高くなっている。

図 11-6 【職業別】 重点的に進めるべきだと思う分野(上位 10 施策)



※ その他には、自由業、学生を含む。

図 11-6 【職業別】 重点的に進めるべきだと思う分野（続き）



※ その他には、自由業、学生を含む。